

**神奈川県における
放課後の子どもの居場所づくりに向けた実態調査研究
調査報告書**

平成 25 年 2 月調査

平成 26 年 6 月

第 1 1 期神奈川県生涯学習審議会専門部会

はじめに

この報告書は、第11期神奈川県生涯学習審議会『「体験活動を重視した放課後の子どもの居場所づくり」のための、社会教育施設等地域の教育資源の活用について（答申）』に収めた第2章のアンケート調査および第3章の事例調査の概要について、すべての調査内容を公表する目的で作成いたしました。

第Ⅰ、Ⅱ部は、答申第2章のアンケート調査の内容です。第Ⅰ部は、アンケート調査全体の概要です。第Ⅱ部は、小学校児童を対象とした「児童向け調査」（第2章）、その保護者を対象とした「保護者向け調査」（第3章）、そして市町村を対象にした「市町村向け調査」（第4章）の3種類のアンケート調査の回答と分析をすべて載せております。

アンケート調査は、県内9地域の71の小学校の12,541人の児童と9,069名の保護者、県内すべての33市町村のご回答を得ることができ、社会教育施設や放課後事業の利用状況の実際と要望を集めた大規模なものとなり、神奈川の「今」を知る貴重な調査となりました。低学年と高学年に分けて小学校児童の回答を得やすいよう工夫をしたことも特筆に値すると存じます。

アンケートにご協力をいただいた小学生と保護者の皆さま、学校の先生方、域内の調査対象の調整も含めてご尽力いただいた自治体の皆さまに、この場を借りて心からお礼を申し上げます。調査票の策定に始まり調査結果の分析、考察、編集までの膨大な作業は、すべて専門部会委員の猿渡智衛委員に担当していただきました。記して御礼を申し上げます。

第Ⅲ部は、県内7事業の事例調査を掲載しております。いずれも豊かな自然や先端技術等に触れ、さまざまな「人」と出会い遊ぶ体験活動として、同時に放課後の居場所づくりとして優れた実践であり、それらの活動を社会教育施設や学校等に加え、企業、大学生を含めた多彩な大人が支えていることは、「神奈川らしさ」と言えるのではないのでしょうか。

本報告書を、答申の補遺として、また子どもの放課後や体験活動について神奈川の実情を理解するための参考資料として広くご活用いただけることを願い、答申と本報告書作成にご協力いただいたすべての関係者の皆さまに重ねてお礼を申し上げます。

平成26年6月

第11期神奈川県生涯学習審議会専門部会
部会長 梨本 加菜

目次

第Ⅰ部 アンケート調査の概要.....	1
第1章 調査の概要.....	2
1.1 調査の目的.....	2
1.2 児童・保護者向け調査の概要.....	2
1.2.1 調査対象.....	2
1.2.2 調査方法.....	2
(1) 調査対象者の抽出.....	2
(2) 調査方法.....	3
(3) 実施時期.....	3
(4) 質問内容.....	3
(5) 回答数.....	4
1.3 市町村向け調査.....	4
1.3.1 調査対象.....	4
1.3.2 調査方法.....	4
(1) 調査方法.....	4
(2) 実施時期.....	4
(3) 質問内容.....	4
(4) 回答数.....	4
第Ⅱ部 アンケート調査の結果.....	5
第2章 児童向け調査の結果.....	6
2.1 単純集計結果.....	6
2.1.1 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす場所.....	6
2.1.2 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人数.....	7
2.1.3 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人の属性.....	8
2.1.4 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によくすること.....	9
2.1.5 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）は楽しいと感じているか.....	10
2.1.6 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）の時間をどのように感じているか.....	11
2.1.7 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）にやってみたいこと.....	12
2.1.8 公民館、市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設の利用頻度.....	13
2.1.9 児童館等の子ども向けの施設の利用頻度.....	14
2.1.10 図書館の利用頻度.....	15
2.1.11 博物館・美術館の利用頻度.....	16
2.1.12 地域の祭り等の地域行事への参加や清掃活動等への参加頻度.....	17
2.1.13 近所の大人と挨拶をしたり、話をしたりする頻度.....	18
2.1.14 家庭での会話の頻度.....	19
2.1.15 山や森、川や海等の自然の中での活動体験.....	20

2.2	クロス集計結果	21
2.2.1	放課後を楽しんでいる子どもと感じていない子どもの比較	21
①	放課後によく過ごす場所	21
②	よく過ごす人の人数	22
③	よく過ごす人の属性	23
④	放課後によくすること	24
⑤	放課後の時間をどのように感じているか	25
⑥	放課後の時間にやりたいこと	26
⑦	家庭での会話の頻度	27
2.2.2	遊び時間が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較	28
①	放課後によく過ごす場所	28
②	放課後の時間をどのように感じているか	29
2.2.3	遊び場所（空間）が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較	30
①	放課後によく過ごす場所	30
②	公民館や児童館、図書館、博物館等の利用頻度	31
③	放課後の時間をどのように感じているか	32
2.2.4	遊び友だち（仲間）が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較	33
①	放課後によく過ごす場所	33
②	よく過ごす人の人数	34
③	よく過ごす人の属性	35
④	放課後の時間をどのように感じているか	36
2.2.5	公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度による比較	37
①	児童館等の子ども向けの施設に行く頻度	37
②	図書館に行く頻度	38
③	博物館や美術館に行く頻度	39
2.2.6	地域とのかかわりに関する比較	40
①	近所の人との日常的な交流と地域行事・ボランティア活動への参加	40
②	放課後に地域行事やボランティア活動に参加したいと思うか	41
2.2.7	男女による比較	42
①	放課後によく過ごす場所	42
②	よく過ごす人の人数	43
③	放課後によくすること	44
④	放課後の時間をどのように感じているか	45
⑤	放課後の時間にやりたいこと	46
⑥	家庭での会話の頻度	47
⑦	自然の中での遊びの頻度	48
2.2.8	学年による比較	49
①	放課後によく過ごす場所	49
②	よく過ごす人の人数	50
③	よく過ごす人の属性	51
④	放課後によくすること	52
⑤	放課後の時間をどのように感じているか	53
⑥	放課後の時間にやりたいこと	54
⑦	公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度	55
⑧	児童館等の子ども向けの施設に行く頻度	56
⑨	図書館に行く頻度	57
⑩	地域活動への参加の頻度	58
⑪	地域住民とのあいさつや会話等の交流の頻度	59

2.3 地域別集計結果	60
2.3.1 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす場所.....	60
2.3.2 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人数.....	61
2.3.3 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人の属性.....	62
2.3.4 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によくすること.....	63
2.3.5 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）は楽しいと感じているか.....	64
2.3.6 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）の時間をどのように感じているか.....	65
2.3.7 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）にやってみたいこと.....	66
2.3.8 公民館、市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設の利用頻度.....	67
2.3.9 児童館等の子ども向けの施設の利用頻度.....	68
2.3.10 図書館の利用頻度.....	69
2.3.11 博物館・美術館の利用頻度.....	70
2.3.12 地域の祭り等の地域行事への参加や清掃活動等への参加頻度.....	71
2.3.13 近所の大人と挨拶をしたり、話をしたりする頻度.....	71
2.3.14 家庭での会話の頻度.....	72
2.3.15 山や森、川や海等の自然の中での活動体験.....	73
第3章 保護者向け調査の結果	74
3.1 単純集計結果	74
3.1.1 子どもの放課後の活動場所の把握の有無.....	74
3.1.2 子どもが放課後に活動している場所.....	75
3.1.3 子どもの放課後の過ごし方への満足度.....	76
3.1.4 子どもの放課後の過ごし方について、課題に思うこと.....	77
3.1.5 放課後の時間に子どもにさせたいこと.....	78
3.1.6 子どもの放課後を充実したものにするために必要だと考えていること.....	79
3.1.7 保護者自身が地域の団体や組織で活動していること（有償・無償は問わない）.....	80
3.1.8 保護者自身が今後、子どもの放課後の居場所づくりに参加したいと考えているか.....	81
3.2 クロス集計結果	82
3.2.1 子どもの放課後の過ごし方について満足している保護者としていない保護者の比較.....	82
① 子どもが放課後に過ごしている場所.....	82
② 子どもの放課後の現状として思うこと.....	83
③ 放課後の時間を活用して子どもにやらせてみたいと思うこと.....	84
④ 子どもの放課後を充実させるために必要だと思うこと.....	85
⑤ 子どもの放課後の居場所づくりへの参加意思.....	85
3.2.2 放課後の子ども居場所づくりに参加したいと思う保護者と思わない保護者の比較.....	86
① 子どもの放課後を充実させるために必要だと思うこと.....	86
② 地域の団体や組織で現在活動していること.....	87
3.3 地域別集計結果	89
3.3.1 子どもの放課後の活動場所の把握の有無.....	89
3.3.2 子どもが放課後に活動している場所.....	90
3.3.3 子どもの放課後の過ごし方への満足度.....	91
3.3.4 子どもの放課後の現状について、課題に思うこと.....	92

3.3.5 放課後の時間に子どもにさせたいこと.....	94
3.3.6 子どもの放課後を充実したものにするために必要だと考えていること.....	95
3.3.7 保護者自身が地域の団体や組織で活動していること（有償・無償は問わない）.....	96
3.3.8 保護者自身が今後、子どもの放課後の居場所づくりに参画したいと考えているか.....	97

第4章 市町村向け調査の結果.....98

4.1 単純集計結果.....98

4.1.1 市町村内において、放課後、児童が運動場（校庭）を使用できない状況にある小学校があるか【運動場の使用状況】.....	98
4.1.2 市町村内において、放課後、児童の体育館使用を許可している小学校はあるか【体育館の使用状況】.....	99
4.1.3 市町村内において、放課後、図書館や音楽室、特別教室等の使用を児童に許可している小学校はあるか【校舎内施設の使用状況の使用状況】.....	99
4.1.4 各市町村内における放課後の子どもの居場所づくりに関する施策の実施状況.....	100
4.1.5 放課後の子どもの居場所づくりや地域と児童との交流を目的として、独自に取り組んでいる事業....	101
4.1.6 放課後子ども教室及び類似事業において、課題となっている事柄.....	102
4.1.7 放課後子ども教室及び類似事業関わる人材の確保のための地域ボランティア登録制度やシルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度について.....	104
4.1.8 放課後子ども教室及び類似事業におけるプログラムを実施するにあたっての、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等との連携.....	105
4.1.9 放課後子ども教室及び類似事業におけるプログラムを実施するにあたっての、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等との連携.....	106
4.1.10 放課後子ども教室及び類似事業の実施プログラム.....	107
4.1.11 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すか.....	109
4.1.12 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うか.....	110
4.1.13 放課後児童クラブにおいて、課題となっている事柄.....	111
4.1.14 放課後児童クラブにおけるプログラムを実施するにあたっての、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等との連携.....	112
4.1.15 放課後児童クラブにおけるプログラムを実施するにあたっての、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等との連携.....	113
4.1.16 放課後児童クラブの実施プログラム.....	114
4.1.17 放課後児童クラブをより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すか.....	116
4.1.18 放課後児童クラブをより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うか.....	117
4.1.19 放課後児童クラブが、放課後子ども教室及び類似の独自事業と連携することのメリットとデメリットについて.....	118
4.1.20 社会教育施設における平日の児童の活用状況.....	119
4.1.21 社会教育施設の中で、フリースペースを設置している施設があるか.....	120
4.1.22 平日放課後の時間帯に児童を対象とした事業を実施している施設があるか.....	121
4.1.23 社会教育施設職員（公民館主事、司書、学芸員等）が、放課後子ども教室や放課後児童クラブに出向き、メニュー実施の支援等を行っているか.....	121

4.1.24 社会教育施設で活動しているサークル等を、放課後子ども教室や放課後児童クラブに紹介し、メニュー実施の支援等を行っているか.....	122
4.1.25 平日放課後の時間帯に、児童を含め一般に開放している企業の施設等があるか.....	123

第Ⅲ部 事例調査 125

川崎市ふれあい館 ～多文化共生のまちづくりを推進する施設～.....	126
藤沢市鵜沼公民館「くげぬまあそび隊」～公民館とボランティア団体による講座型居場所づくり～.....	128
厚木市立七沢児童館 ～地域で育む児童館～.....	130
厚木市立相川小学校放課後子ども教室 ～協働による多彩なプログラム.....	133
鎌倉てらこや ～大学生等の地域の人的資源を活用して～.....	135
ドリームプレイウッズ ～自分の責任で自由に遊ぶ森の居場所～.....	138
ソニー・サイエンスプログラム ～企業の持つプログラムとコンテンツ～.....	140

資 料 143

単純集計表..... 144

○ 児童向け調査.....	144
○ 保護者向け調査.....	152
○ 市町村向け調査.....	156

質問紙..... 167

(低学年児童向け).....	167
(高学年児童向け).....	170
(保護者向け).....	173
(市町村向け).....	175

第 I 部 アンケート調査の概要

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的

第11期神奈川県生涯学習審議会（平成24年6月13日～平成26年6月12日）は、神奈川県教育委員会からの『「体験活動を重視した放課後の子どもの居場所づくり」のための、社会教育施設等地域の教育資源の活用について』という諮問を審議テーマとして、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むための、体験活動を主体とした「神奈川県らしい」子どもの放課後のあり方について検討を行った。

本調査は、審議テーマに基づいて県内児童の放課後の過ごし方の現状を調査し、その課題を探るとともに、公民館や図書館、博物館等の社会教育施設や児童館、あるいは地域で展開されている放課後子ども教室や、子ども会活動等が、子どもたちの体験活動の場として、どのような役割を果たし得るのか、その可能性を探ることを目的として実施した。

1.2 児童・保護者向け調査の概要

1.2.1 調査対象

県内市町村立小学校の児童（1～6年生）とその保護者

1.2.2 調査方法

（1）調査対象者の抽出

県内全域を9つの地域に分け、各地域内の市町村の人口比率によって調査対象校数を設定し、全体で71校を調査対象校として有意抽出した。

調査対象校においては、各校の各学年1学級の児童及びその保護者を調査対象者とした。

	地 域	市 町 村 名	調査対象校数
1	横浜（政令市）	横浜市	20校
2	川崎（政令市）	川崎市	10校
3	相模原（政令市）	相模原市	5校
4	横須賀（中核市）	横須賀市	4校
5	湘南三浦地域（湘南三浦教育事務所管内）	鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市、三浦市、葉山町、寒川町	9校
6	県央地域（県央教育事務所管内）	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	9校
7	中地域（中教育事務所管内）	平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町	6校
8	足柄上地域（足柄上教育事務所管内）	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町	3校
9	足柄下地域（足柄下教育事務所管内）	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町	5校

計 71校

(2) 調査方法

調査は、各市町村教育委員会の協力を得て実施した。

児童向け調査は、各学級において調査票を配付し、教室内で記入してもらった。

保護者向け調査は、児童向け調査を実施した学級の保護者に、児童を通じて調査票を配付し、自宅で記入してもらった。

(3) 実施時期

平成 25 年 2 月～3 月

(4) 質問内容

〈児童向け調査〉

- ・ 問 1～3 (学年、性別、地域に関する設問)
- ・ 問 4～9 (放課後の実態に関する設問)
- ・ 問 8～10 (探られるべき課題に関する設問)
- ・ 問 11～14 (子どもと社会教育施設とのつながりに関する設問)
- ・ 問 15～16 (子どもと地域とのつながりに関する設問)
- ・ 問 17 (子どもと家族とのつながりに関する設問)
- ・ 問 18 (子どもと自然とのふれあいに関する設問)

※番号の重なりは、内容が重複している設問

〈保護者向け調査〉

- ・ 問 1 (地域に関する設問)
- ・ 問 2～5 (放課後の実態に関する設問)
- ・ 問 4～7 (探られるべき課題に関する設問)
- ・ 問 8～10 (保護者の地域における活動と、放課後の子どもの居場所づくりに
おける施策への参画意識に関する設問)

※番号の重なりは、内容が重複している設問

(5) 回答数

地 域	調査 対象校数	回答数	
		児童	保護者
横浜（政令市）	20	3,600	2,321
川崎（政令市）	10	1,854	1,495
相模原（政令市）	5	992	772
横須賀（中核市）	4	755	586
湘南三浦地域（湘南三浦教育事務所管内） 鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、逗子市、 三浦市、葉山町、寒川町	9	1,486	982
県央地域（県央教育事務所管内） 厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、 愛川町、清川村	9	1,639	1,245
中地域（中教育事務所管内） 平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町	6	1,029	806
足柄上地域（足柄上教育事務所管内） 南足柄市、中井町、大井町、松田町、 山北町、開成町	3	520	368
足柄下地域（足柄下教育事務所管内） 小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町	5	666	494
計	71	12,541	9,069

1.3 市町村向け調査

1.3.1 調査対象

県内全市町村（33 自治体）

1.3.2 調査方法

(1) 調査方法

県教育委員会から市町村生涯学習・社会教育主管課に調査票を電子メールに添付して送付し、期日までに提出してもらった。

(2) 実施時期

平成 25 年 2 月～3 月

(3) 質問内容

- ・ 小学校の平日放課後の施設の状況
- ・ 放課後子ども教室及び類似事業の現状
- ・ 放課後児童クラブの現状
- ・ 社会教育施設における児童の活用状況
- ・ 企業の開放施設の把握状況

(4) 回答数

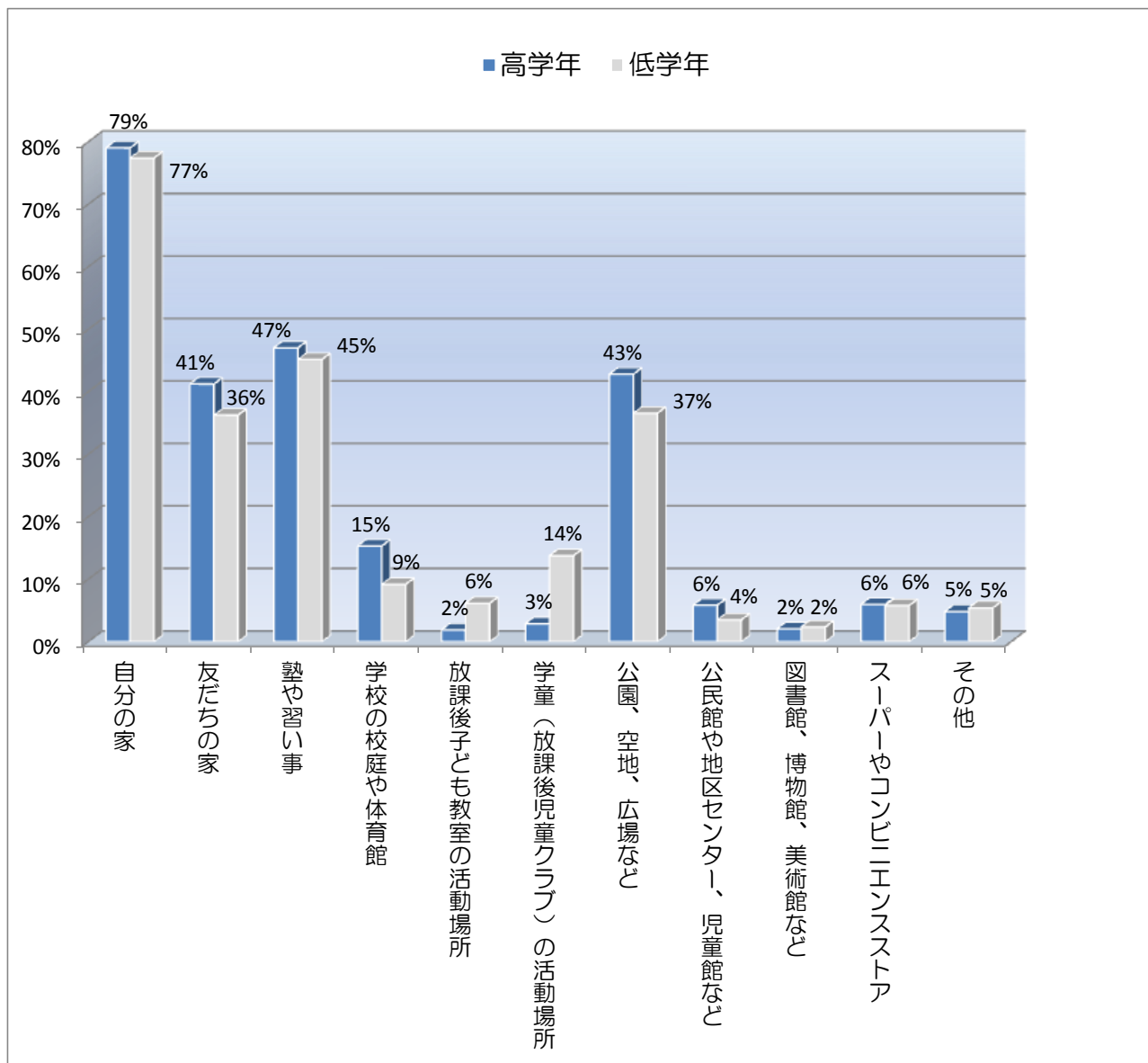
県内全市町村（33 自治体）

第Ⅱ部 アンケート調査の結果

第2章 児童向け調査の結果

2.1 単純集計結果

2.1.1 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす場所

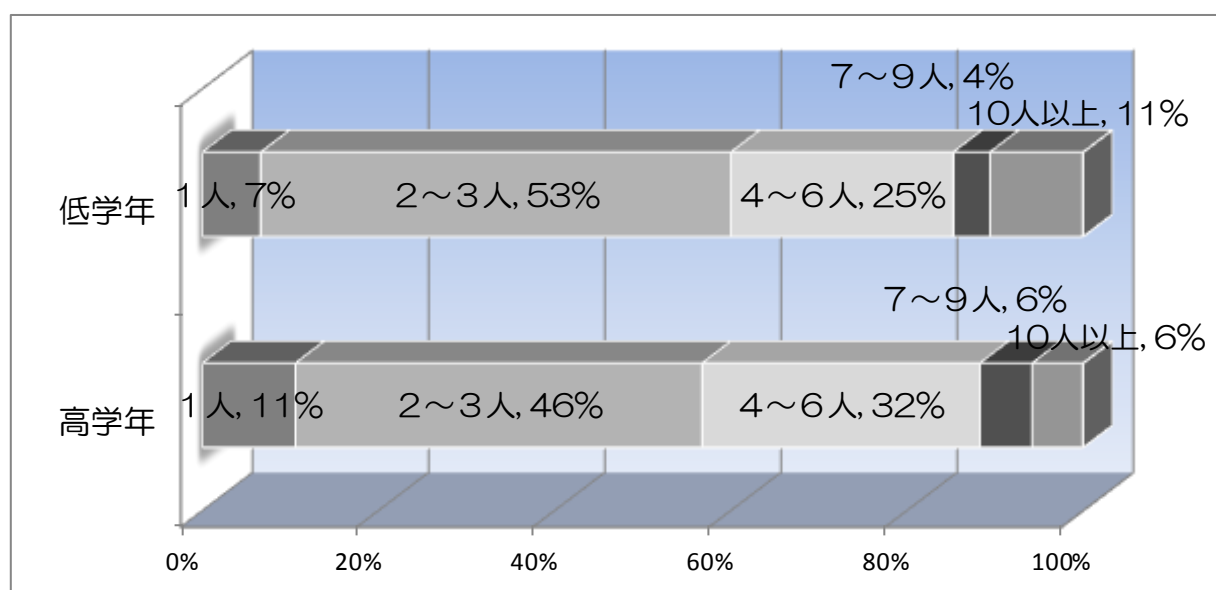


- 平日の放課後によく過ごす場所について、最も多く選択されたのは「自分の家」であり、およそ8割に上っている。次いで「塾や習い事」が45%程度であり、およそ半数の子どもたちが塾や習い事に通っていることが分かる。「公園、空地、広場など」と「友だちの家」もそれぞれ4割程度を占めていた。
- 「放課後子ども教室の活動場所」は低学年では6%であったが、高学年はわずか2%にとどまり、同

様に「公民館や地区センター、児童館など」「図書館、博物館、美術館」等の社会教育施設を選択した子どもの割合も1割未満となっている。

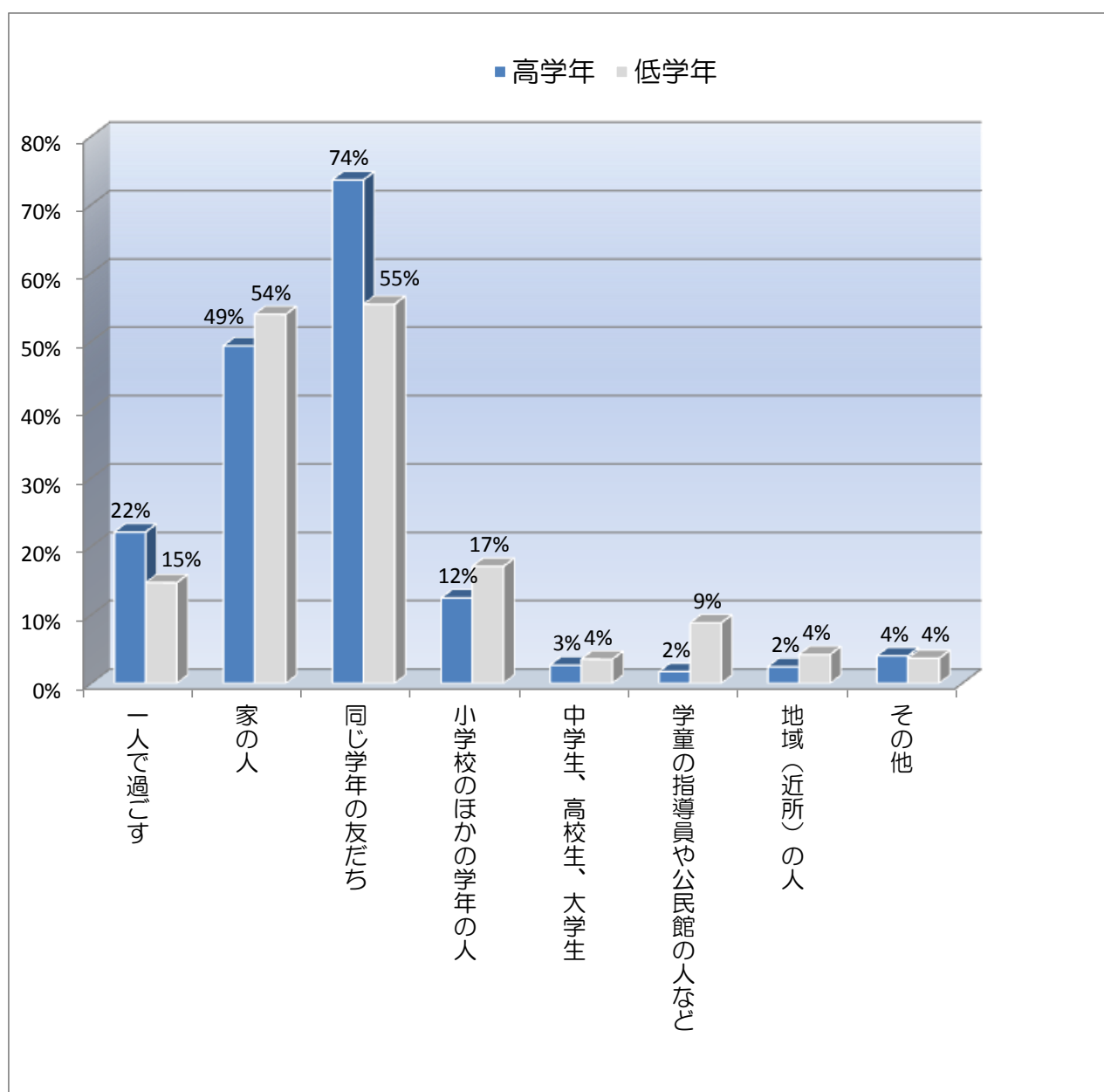
- その他については、「祖父母の家」が最も多く見られており、次いで「ゲームセンター」、「神社」、「本屋」の回答も比較的多く見られている。また、少数の記述ではあるが、「デパート」や「川」、「秘密基地（自分たちが造った）」、「ジム」、「駄菓子屋」、「農道」、「路地」といった記述や、地域によっては「逗子マリーナ」、「理科ハウス」といった場所も複数の回答として得られている。

2.1.2 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人数



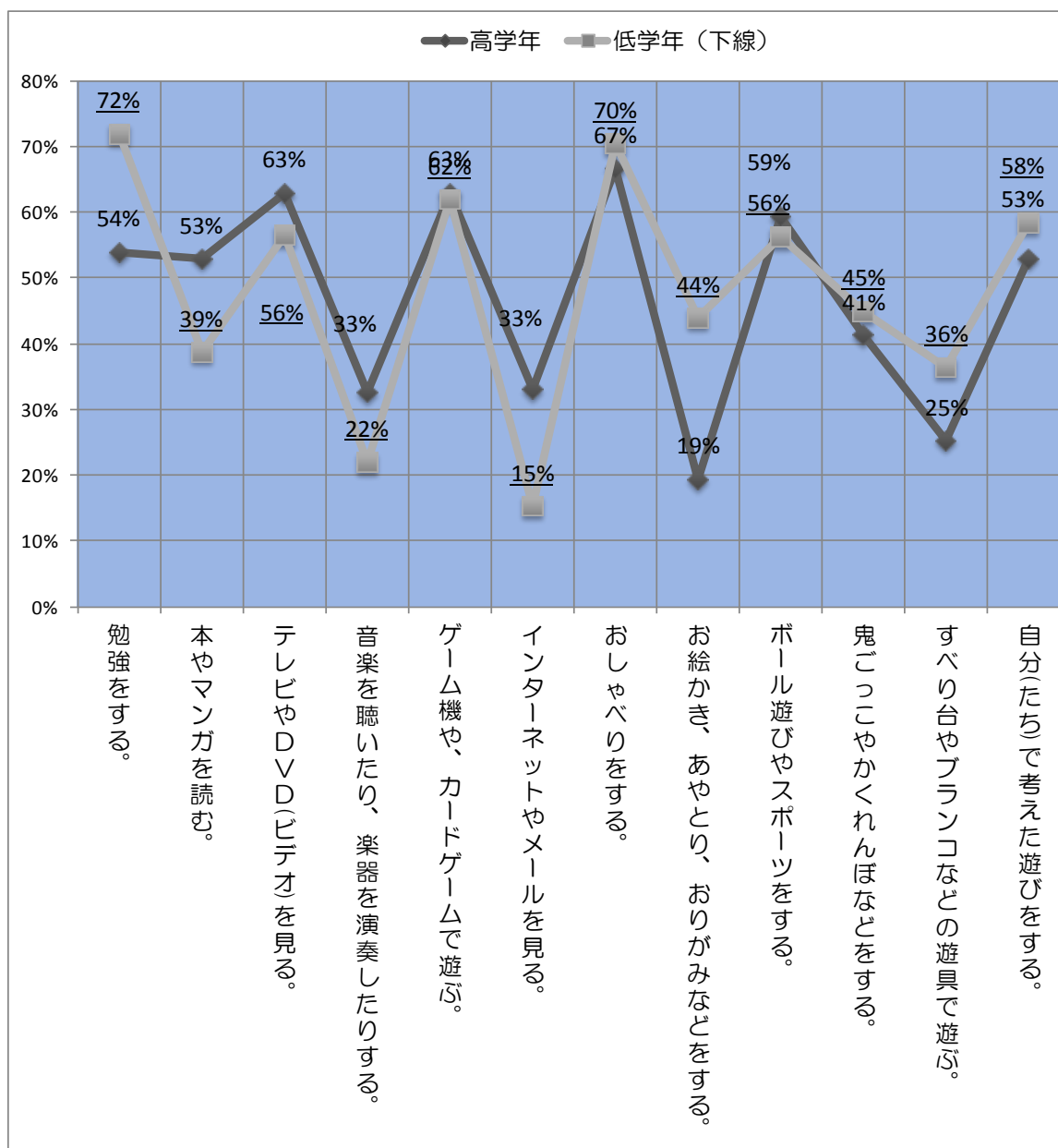
- 平日の放課後によく過ごす人数については、「2～3人」という選択肢が低学年・高学年ともに最も高く、半数程度を占めている。次いで「4人～6人」となっており、これらを合わせるとおよそ8割に上っている。低学年と高学年の結果を比較してみると、高学年では「1人」という選択肢の割合が若干高く、「10人以上」の割合が低いが、大きな違いはみられていない。

2.1.3 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人の属性



- 平日の放課後によく過ごす人はどんな人かをきいた結果では、「同じ学年の友だち」が最も高く高学年で74%、低学年では55%を占めている。ただし、低学年では「家の人」も54%と同程度となっている。
- 対して「小学校のほかの学年の人」は15%程度であり、異学年交流が活発であるとは言えないことも分かる。
- その他については、「兄弟・姉妹」と「塾や習い事の友だち」という記述が非常に多く、「祖父母（同居しているかどうかは定かではない）」という回答も複数見られている。また、「塾や習い事の先生」や「ペット」という記述も若干、見られている。

2.1.4 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によくすること

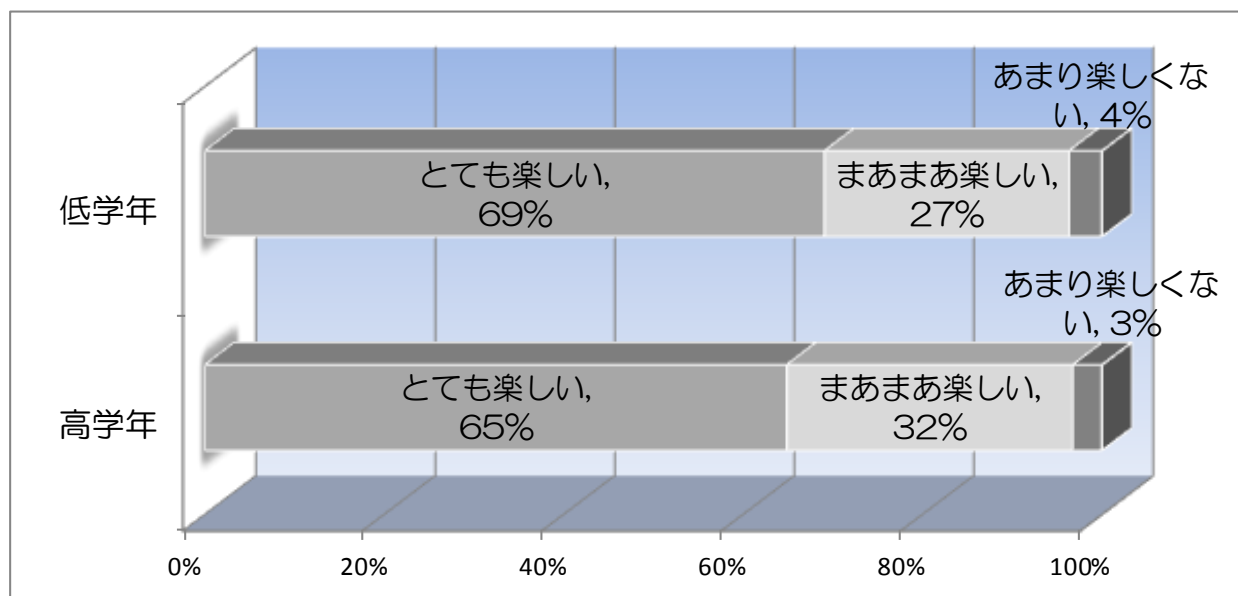


- 平日の放課後によくすることについては、学年に関わらず同程度の割合を占めた活動と、学年によって結果が異なる活動とに分かれた。
- 学年に関わらず高い値となったのは、「おしゃべりをする」であり、およそ 7 割に上っている。また、「ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ」と「ボール遊びやスポーツをする」も 6 割を占めている。
- 高学年が低学年の結果よりも高い割合を占めたのは、「本やマンガを読む」と「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」、「テレビやDVD(ビデオ)を見る」であった。対して、低学年が高い値となったのは「勉強をする」と「お絵かき、あやとり、おりがみなどをする」「すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ」であり、特に「勉強をする」については、高学年の結果よりも 18%ポイント高く、72%という結果は低学年の活動の中では最も高い活動となっている。
- 「インターネットやメールを見る」については、高学年で 33%、低学年でも 15%を占めており、

情報化社会を反映しているように思われる。

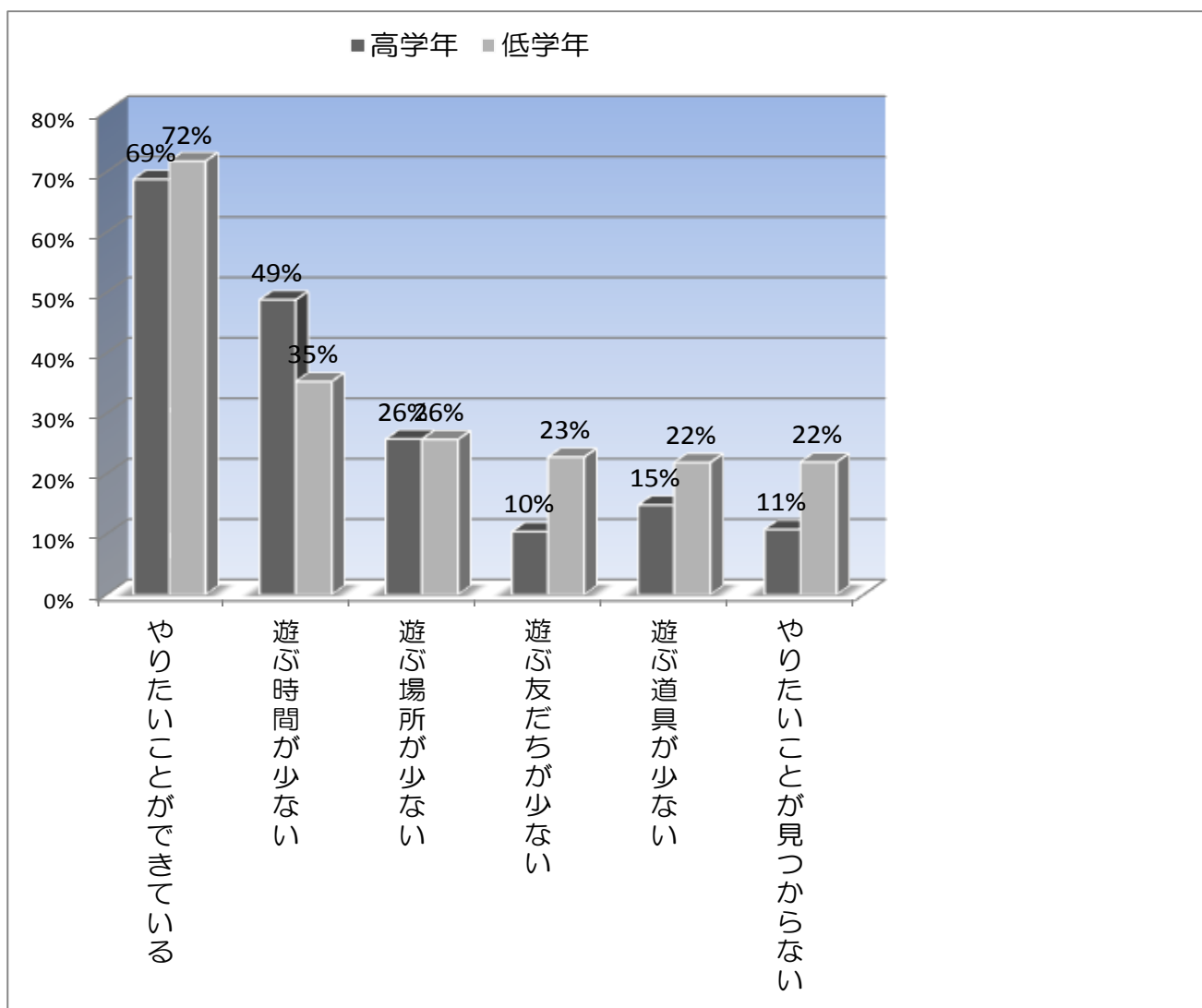
- また、選択肢以外の自由記述欄を見てみると、「スマートフォン」に関する記述が非常に多く、スマートフォンを使ってゲームをしたり、SNS（ソーシャルネットワーク）を使用したり、いじったりしているといった記述が見られている。その他には「ペットと遊ぶ」、「家事を手伝う」、「秘密基地を造る」、「ローラースケートやローラースケートで遊ぶ」、「塾で勉強をする」、「お菓子を作る」といった記述も複数見られている。また、少数ではあるが「昼寝をする」、「ピアノの練習をする」、「ごっこ遊ぶをする」、「シール交換をする」等の活動も書かれている。

2.1.5 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）は楽しいと感じているか



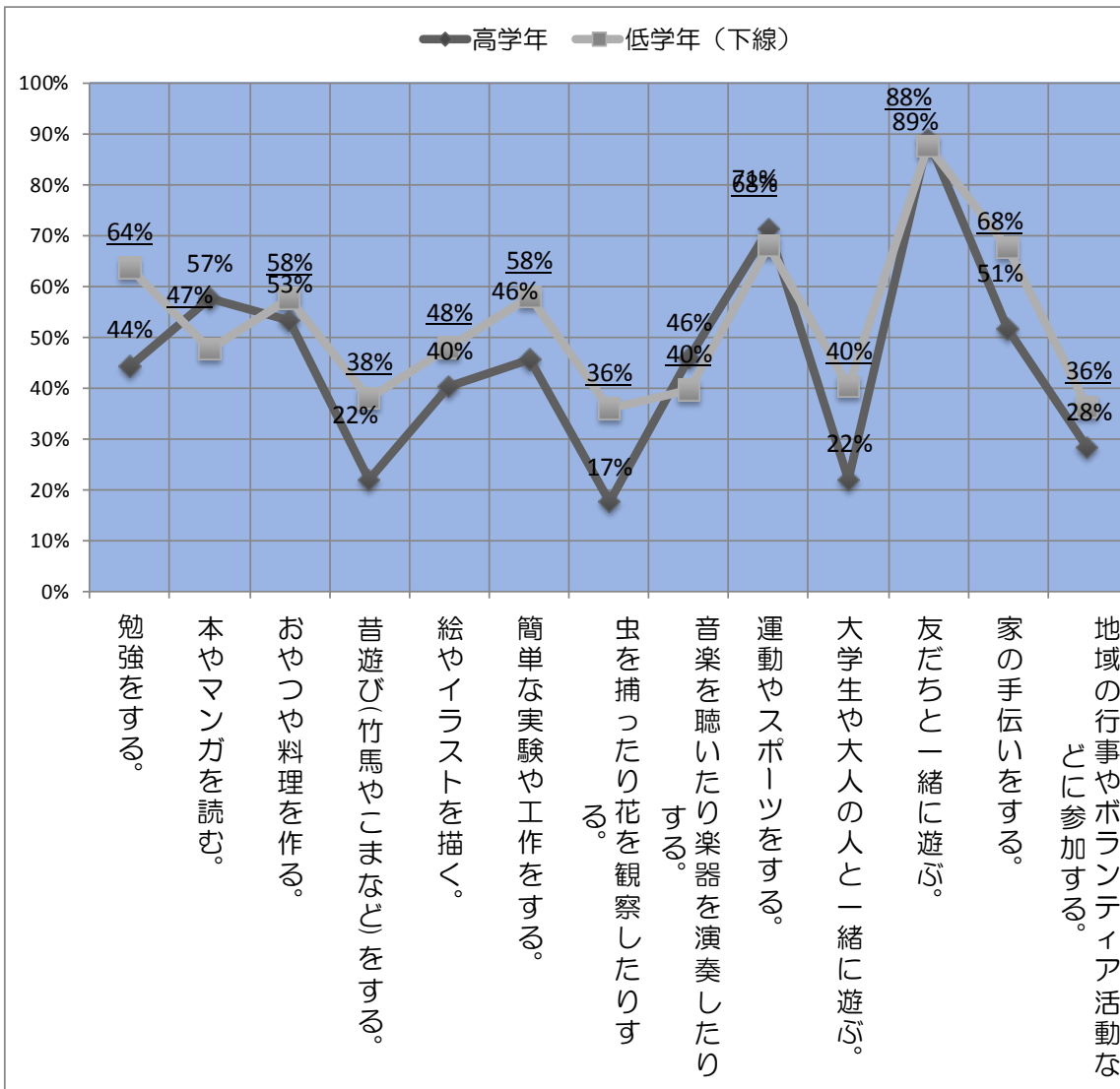
- 平日の放課後について、楽しいと感じるかどうかを質問した結果では、低学年・高学年ともに「とても楽しい」が最も高く割合を占め、7割近くに上っている。「まあまあ楽しい」を加えると、95%以上と非常に高い結果となっており、多くの子どもが放課後を楽しんでいることが分かる。

2.1.6 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）の時間をどのように感じているか



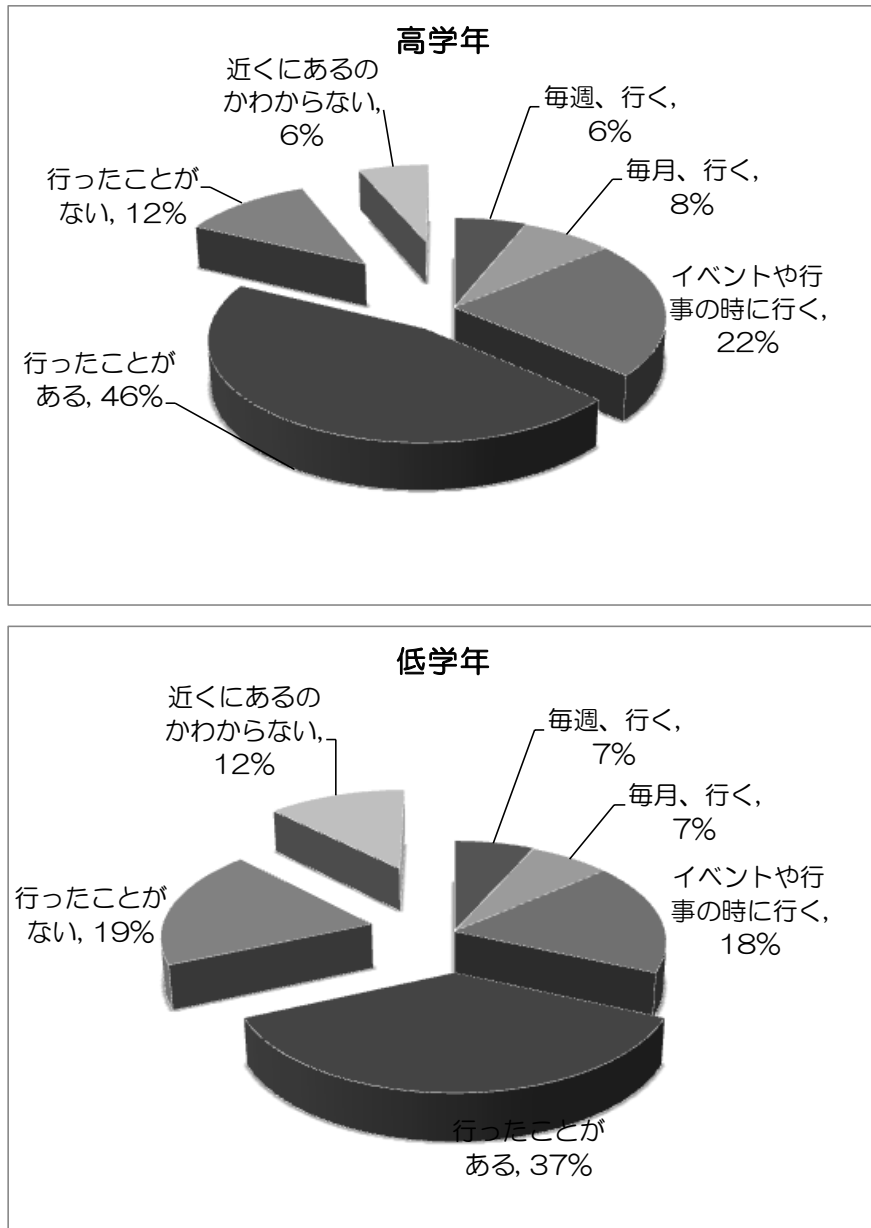
- 平日の放課後についてどのように感じているかを質問した結果では、7割近い子どもが「やりたいことができている」と回答している。
- 対して、課題として挙げられた中では、「遊ぶ時間が少ない」が最も高く割合を占めており、高学年で49%、低学年でも35%となっている。低学年の結果では、その他の4つの課題についてもそれぞれ2割程度を占めており、様々な課題があることが明らかとなっている。他方で、高学年については遊ぶ場所については26%となっているが、その他の3つの課題については15%以下となっている。特に三間と呼ばれる時間・空間・仲間については、低学年でそれぞれ課題となっているのに対して、高学年においては仲間を課題としている子は比較的少ないことが分かる。

2.1.7 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）にやってみたいこと



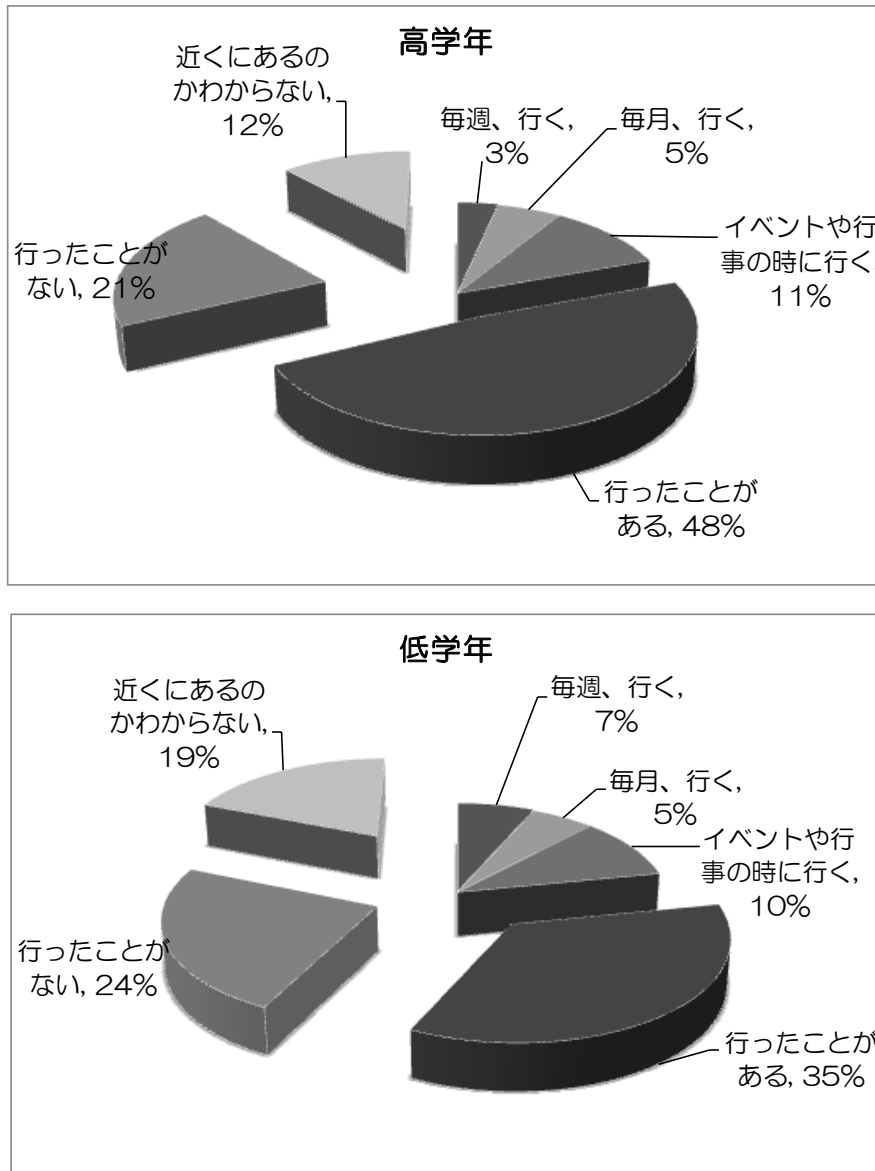
- 平日の放課後にやってみたいことについて、「はい」「いいえ」の二件法で質問した結果では、低学年・高学年ともに「友達と一緒に遊ぶ」が最も高い割合を占めており、9割近くに上っている。
- 高学年と低学年それぞれの結果を比較すると、「本やマンガを読む」と「運動やスポーツをする」を除いては、すべての活動において低学年の値が高学年の値を上回っていることがわかる。
- 「地域の行事やボランティア活動などに参加する」については、3割前後にとどまっている。
- 「大学生や大人の人と一緒に遊ぶ」についても、低学年では40%を占めているが、高学年では22%にとどまっていることが分かる。
- 選択肢以外の自由記述欄に書かれた回答では、「ゲームをしたい」という回答が非常に多く見られた。また、次いで「買い物に行きたい」、「インターネットで遊びたい」という記述も複数、見られている。その他には少数ではあるが、「映画を観たい」、「英語を勉強したい」、「パソコンを使いたい」、「探検や外出に出たい」という回答も得られている。

2.1.8 公民館、市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設の利用頻度



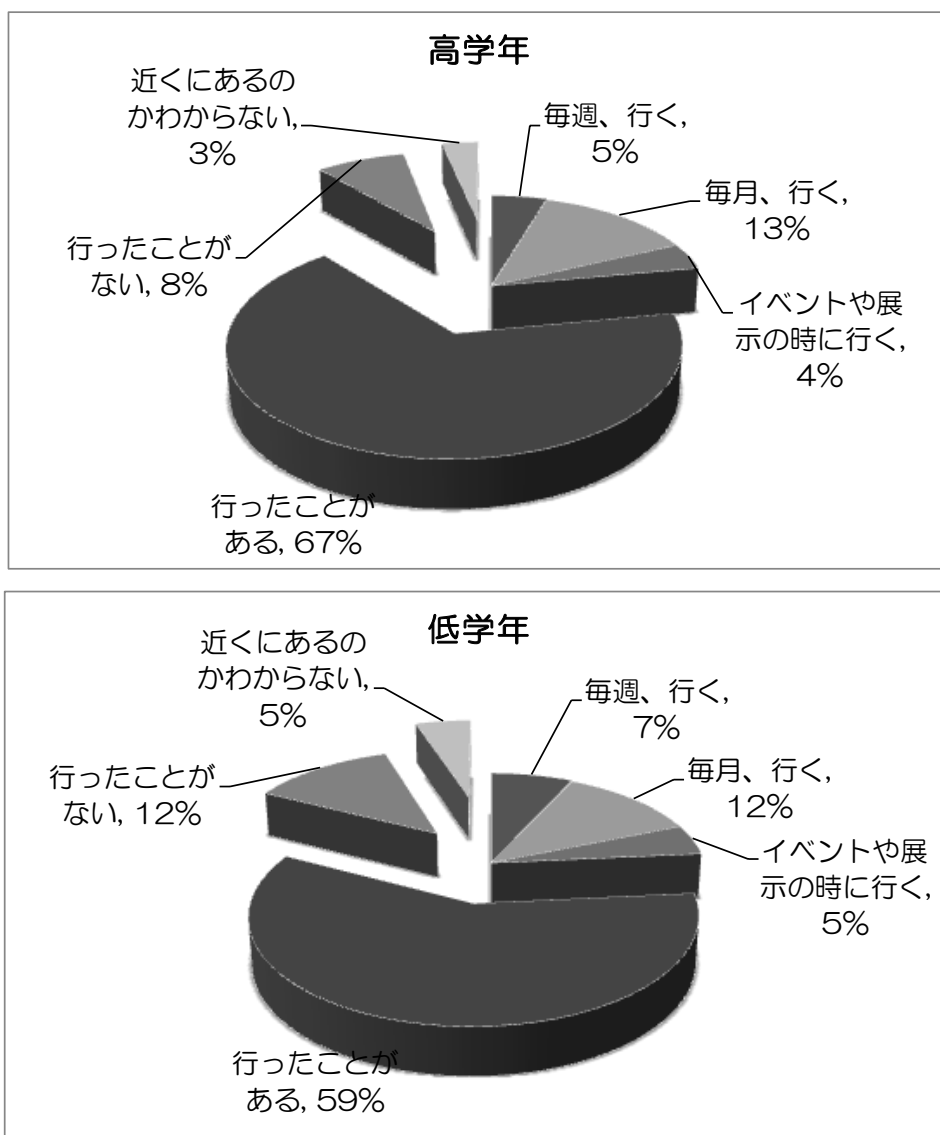
- 公民館、市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設をどのくらい利用しているか、頻度について質問した結果では、「毎週、行く」と「毎月、行く」と回答した定期的な利用をしている子どもの割合は、高学年・低学年ともに14%にとどまった。これに「イベントや行事の時に行く」を加えると、35%前後の子どもが公民館等を利用していることが明らかとなった。
- 「行ったことがない」という回答も高学年で12%、低学年では19%を占めている。

2.1.9 児童館等の子ども向けの施設の利用頻度



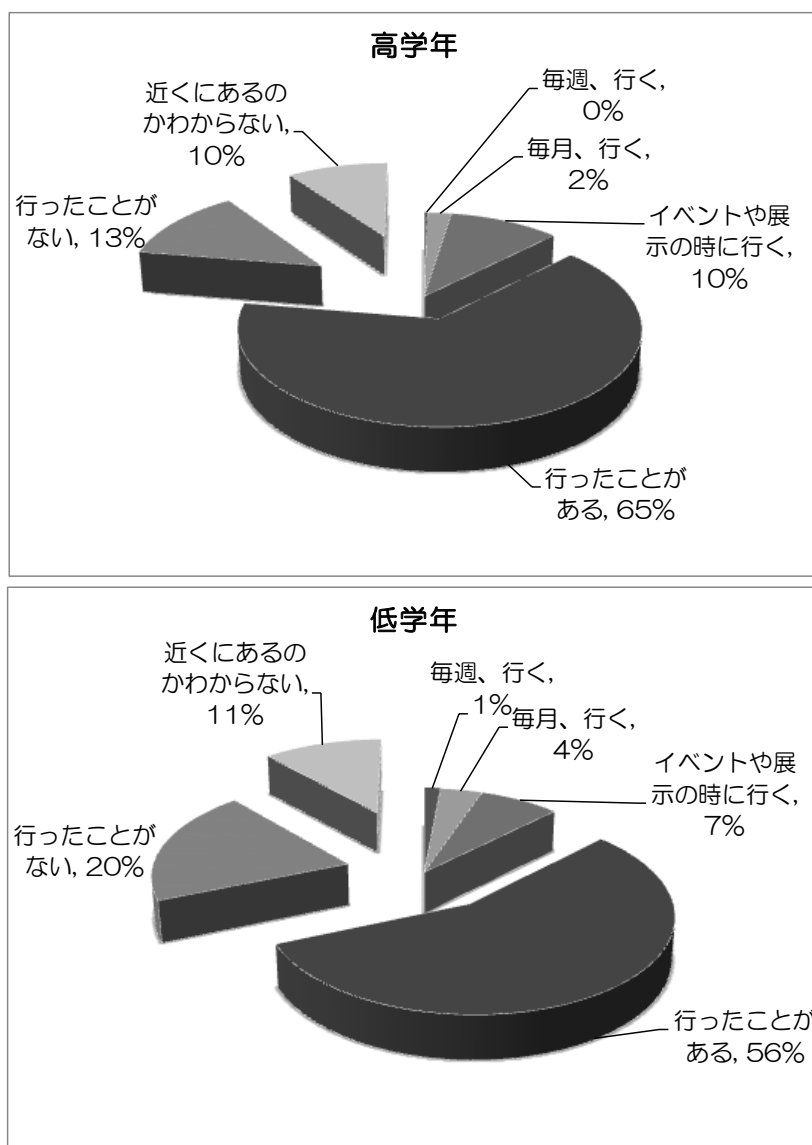
- 児童館等の子ども向けの施設をどのくらい利用しているか、頻度について質問した結果では、「毎週、行く」と「毎月、行く」と回答した定期的な利用をしている子どもの割合は、高学年・低学年ともに1割前後にとどまった。これに「イベントや行事の時に行く」を加えても、2割程度であり、公民館等の社会教育施設よりも利用頻度は低いことが明らかとなった。
- 「行ったことがない」という回答も高学年で21%、低学年では24%を占めている。

2.1.10 図書館の利用頻度



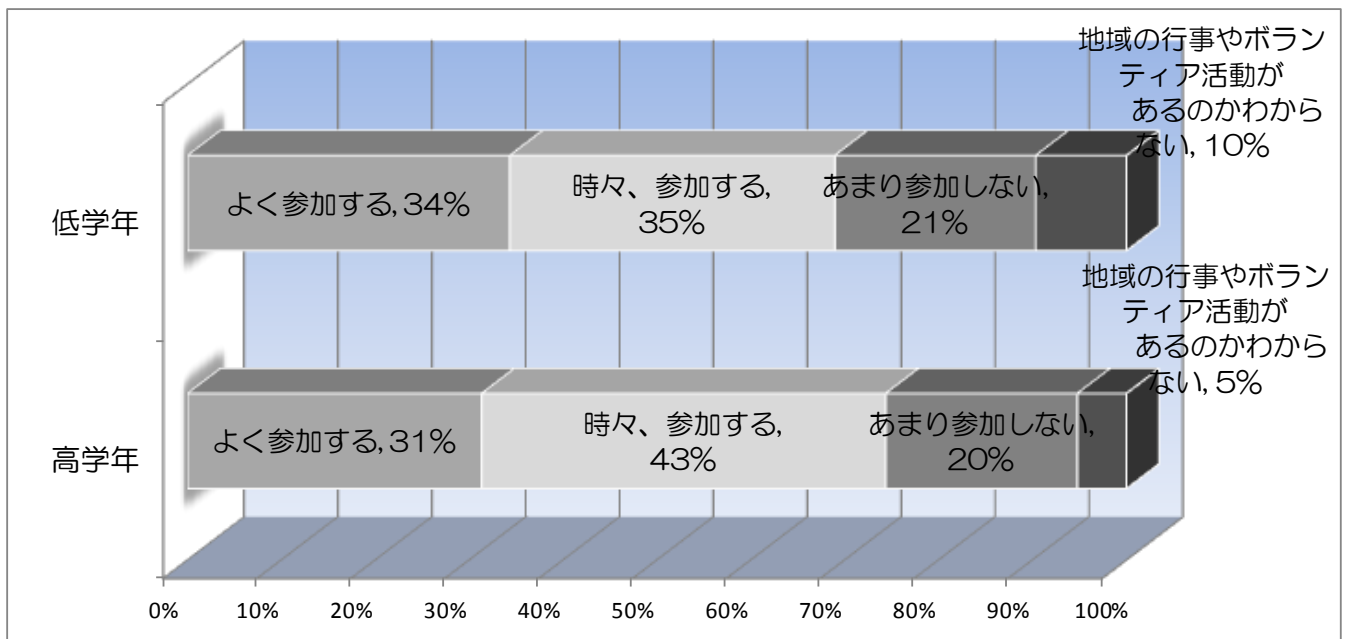
- 図書館をどのくらい利用しているか頻度について質問した結果では、「毎週、行く」と「毎月、行く」と回答した定期的な利用をしている子どもの割合は、高学年・低学年ともに2割程度を占めていた。これは公民館や児童館よりも高い割合であったが、「イベントや行事の時に行く」については5%程度と低く、定期的に利用する子どもが他の施設よりも多い反面、イベントや行事での利用は少ないことが分かった。
- 「行ったことがない」という回答も他の施設よりも低く、高学年で8%、低学年では12%にとどまっており、「近くにあるのかわからない」も5%以下と低い値であった。

2.1.11 博物館・美術館の利用頻度



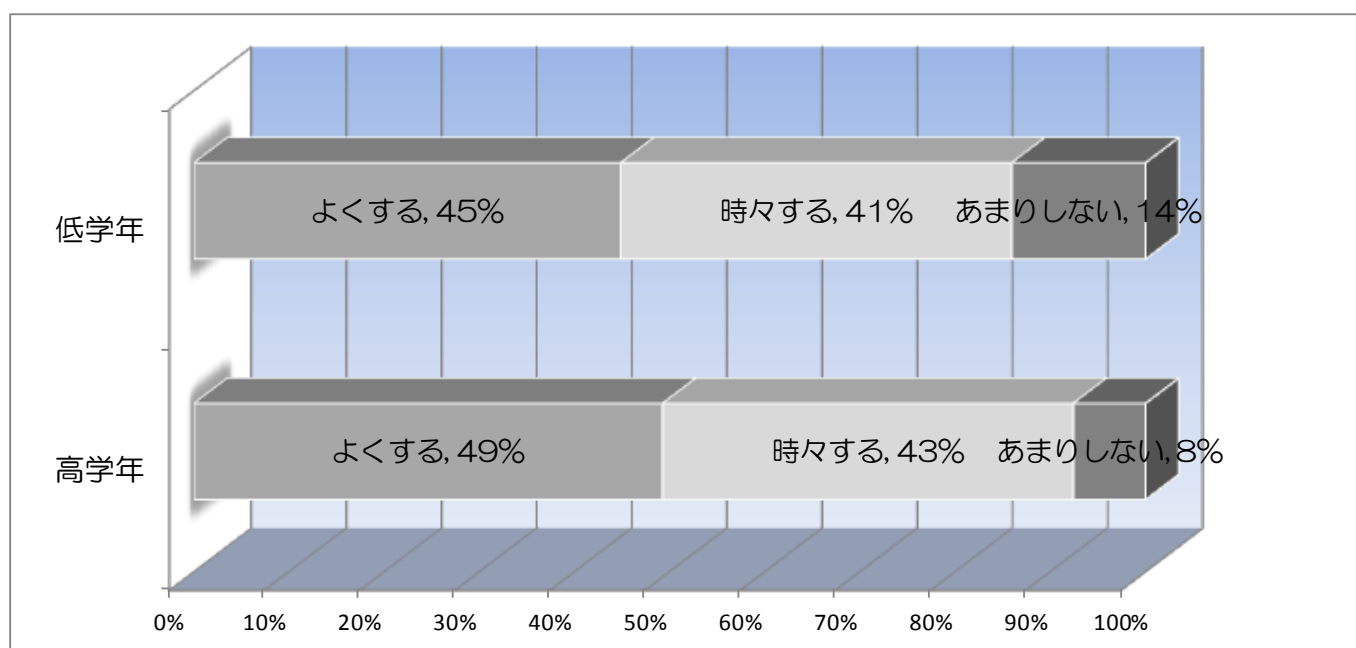
- 博物館や美術館をどのくらい利用しているか、頻度について質問した結果では、「毎週、行く」と「毎月、行く」と回答した定期的な利用をしている子どもの割合は他の施設と比べると最も低く、高学年で2%、低学年でも5%であった。「イベントや展示の時に行く」についても、1割以下であり、他の社会教育施設よりも利用頻度は低いことが明らかとなった。
- 「行ったことがない」という回答は高学年で13%、低学年では20%を占めている。

2.1.12 地域の祭り等の地域行事への参加や清掃活動等への参加頻度



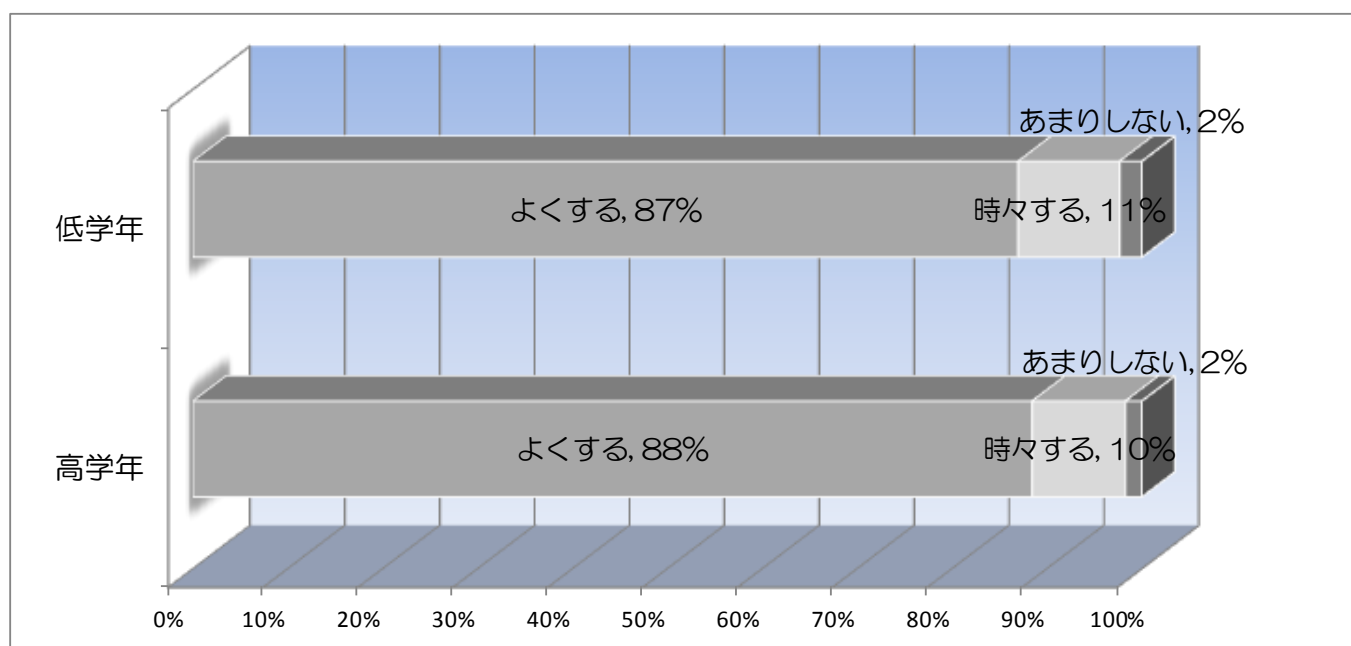
- 地域のお祭り等の地域行事や清掃活動に参加する頻度について質問した結果では、低学年・高学年ともに類似した結果となった。「よく参加する」という回答の割合は30%程度、「時々、参加する」が40%程度であり、合わせると7割程度の子どもが地域行事や清掃活動等に参加すると答えている。
- 対して、「あまり参加しない」と回答した子どもは20%程度となっている。

2.1.13 近所の大人と挨拶をしたり、話をしたりする頻度



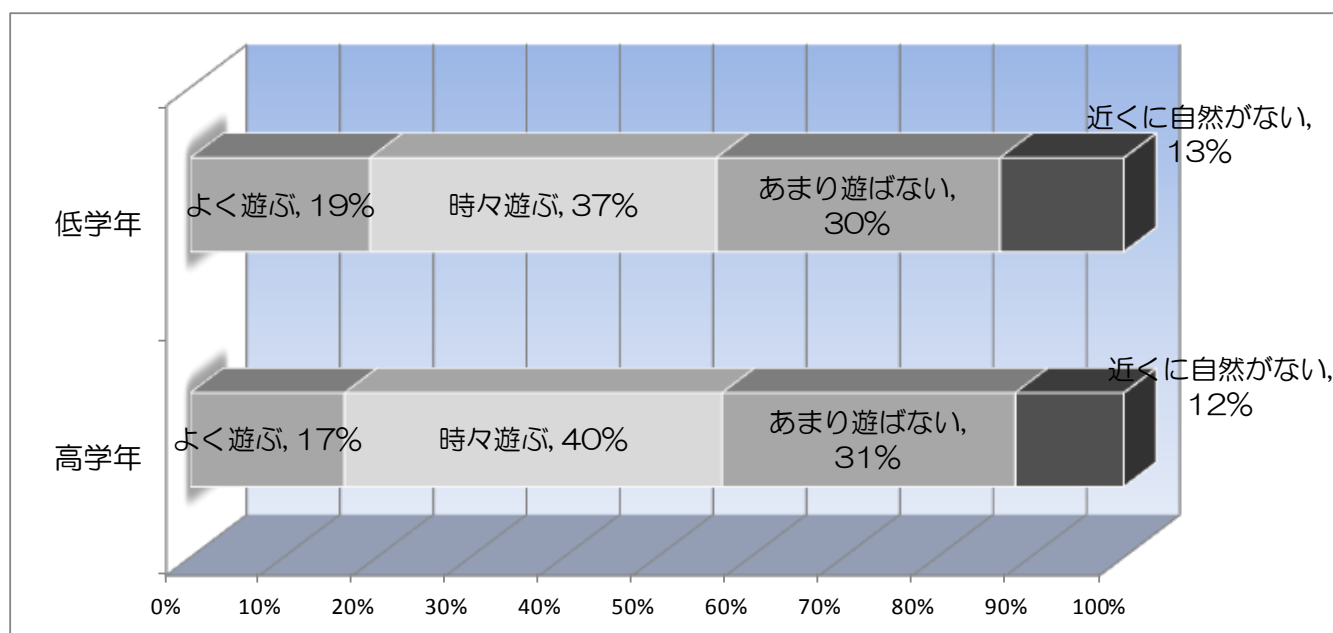
- 近所の大人と挨拶をしたり、話をしたりする頻度については、低学年よりも高学年のほうが「する」と回答した割合が若干高い結果となった。最も高い割合となったのは、低学年・高学年ともに「よくする」であり、「時々する」を加えると、9割前後に上っている。
- 「あまりしない」という回答は低学年の結果が高く、14%を占めており、高学年では8%にとどまっている。

2.1.14 家庭での会話の頻度



- 家庭で保護者や兄弟・姉妹等と話をする頻度については、低学年・高学年ともに「よくする」が9割近く、「時々する」を加えると、98%に上っている。
- 「あまりしない」という回答は非常に低く、低学年・高学年ともに2%であった。

2.1.15 山や森、川や海等の自然の中での活動体験



- 山や森、川や海等の自然の中で活動する頻度についても、高学年・低学年ともに同様の結果となった。最も高かったのは「時々遊ぶ」であり、低学年で37%、高学年では40%を占めている。次いで「あまり遊ばない」が30%程度、「よく遊ぶ」が2割弱となっている。以上の結果から、半数以上の子どもが山や森、川や海等の自然環境の中で遊んでいることが分かった。

2.2 クロス集計結果

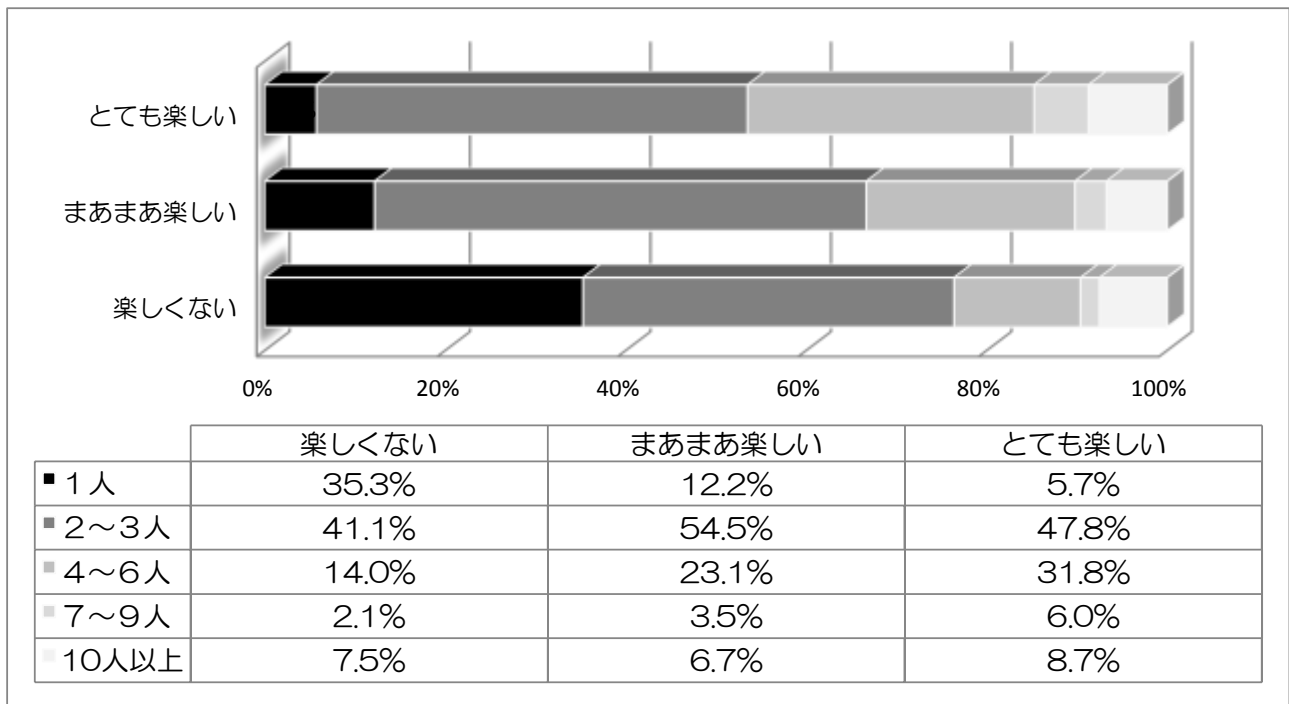
2.2.1 放課後を楽しんでいる子どもと感じていない子どもの比較

① 放課後によく過ごす場所

		問8 放課後の感じ方		
		とても楽しい	まあまあ楽しい	楽しくない
問4 よく 過ごす場 所	自分の家	75.4%	84.5%	84.7%
	友だちの家	42.6%	31.6%	24.4%
	塾や習い事	45.4%	48.9%	46.3%
	学校の校庭や体育館	14.3%	9.6%	5.8%
	放課後子ども教室の活動場所	4.0%	4.1%	3.7%
	学童(放課後児童クラブ)の活動場所	8.0%	7.9%	9.5%
	公園、空き地、広場など	44.8%	32.0%	22.8%
	公民館や地区センター、児童館など	5.1%	4.1%	3.3%
	図書館、博物館、美術館など	2.3%	1.8%	3.0%
	スーパーやコンビニエンスストア	5.5%	6.4%	6.5%

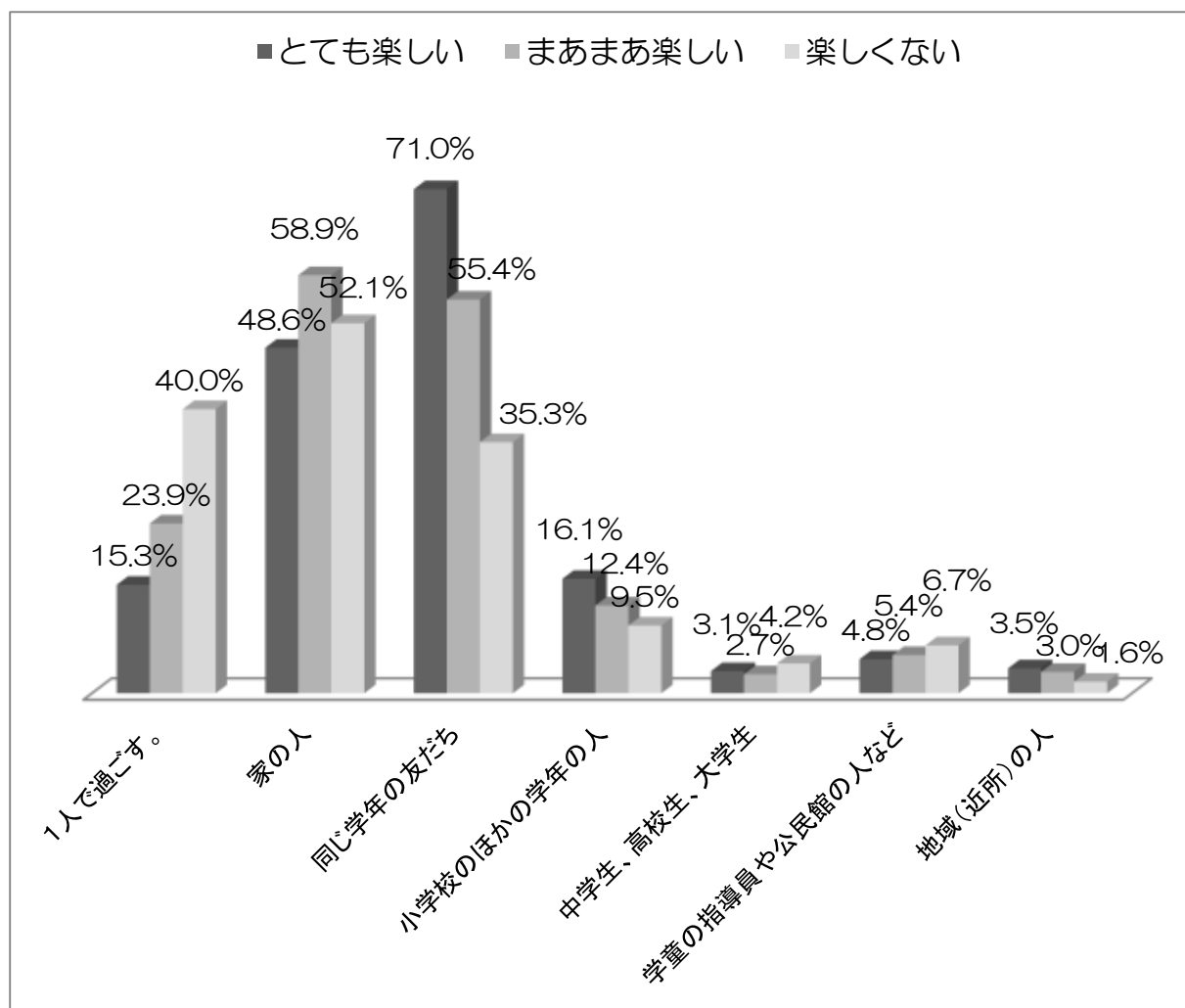
- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と問 4 の放課後によく過ごす場所について、クロス集計した結果である。
- 「友だちの家」や「学校の校庭や体育館」、「公園、空き地、広場」という選択肢については、「とても楽しい」群の回答が「まあまあ楽しい」群と「楽しくない」群よりも大きく上回っていることが分かる。
- 対して、「自分の家」については、「楽しくない」群の回答が「とても楽しい」群よりも値が高い。
- その他の「塾や習い事」や「放課後子ども教室の活動場所」等については、大きな違いはみられず、公民館や図書館等の社会教育施設についても同様に違いはみられていない。
- こうした結果から、放課後が「楽しくない」と感じている子どもの多くは屋外での活動が少なく、自宅で過ごすことが多い子どもであると言えるだろう。

② よく過ごす人の人数



- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と問5の放課後によく過ごす人の人数について、クロス集計した結果である。
- 「1人」で過ごすことが多いと回答した子どもの割合を見てみると、「とても楽しい」群が 5.7%、「まあまあ楽しい」群が 12.2%であったのに対して、「楽しくない」群では 35.3%と非常に高い値となっていることが分かる。
- 反対に「4人～6人」や「7人～9人」については、「楽しくない」群よりも「まあまあ楽しい」群と「とても楽しい」群の値が大きく上回っている。
- こうした結果から、放課後が「楽しくない」と感じている子どもは1人で過ごすことが多く、4人以上の多人数での交流が少ない傾向にあると言えるだろう。

③ よく過ごす人の属性



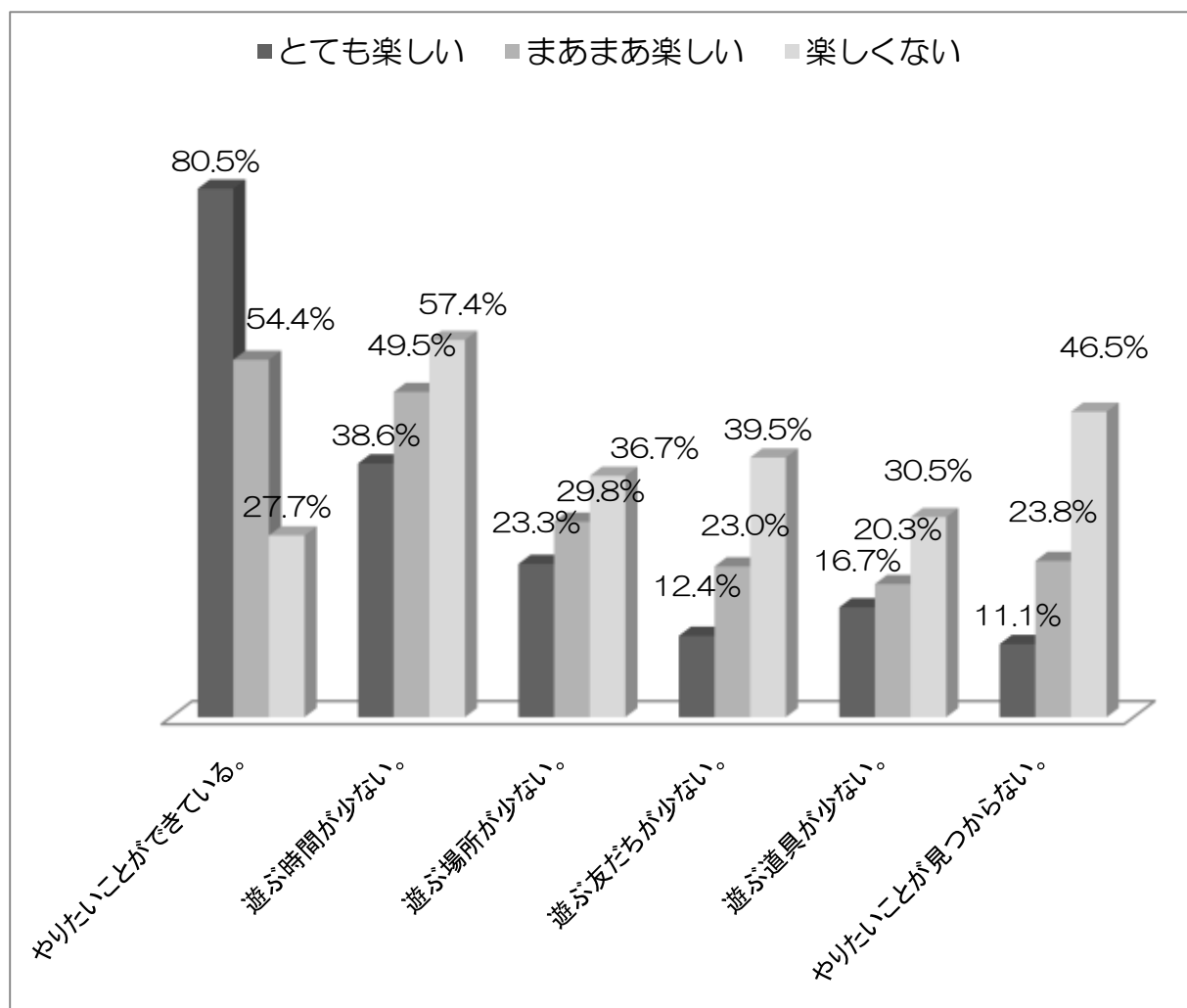
- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と問 6 の放課後によく過ごす人の属性について、クロス集計した結果である。
- 「1人で過ごす」については、前出の結果と同様に「楽しくない」群の値が他の「楽しい」群よりも高く、40.0%に上っていることが分かる。
- 「同じ学年の友だち」や「小学校のほかの学年の人」については、「とても楽しい」群の結果が最も高い結果となっている。特に「同じ学年の友だち」については、「楽しくない」群の値が 35.3%にとどまっているのに対して、「とても楽しい」群では 71.0%に上っていることが分かる。
- こうした結果から、放課後が「楽しくない」と感じている子どもの多くが放課後に他者との交流が少ない傾向にあると言えるだろう。

④ 放課後によくすること

		問8 放課後の感じ方		
		とても楽しい	まあまあ楽しい	楽しくない
問7 よく する活動	勉強をする。	62.1%	63.6%	67.2%
	本やマンガを読む。	45.9%	47.0%	41.5%
	テレビやDVD(ビデオ)を見る。	59.5%	60.8%	49.9%
	音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。	27.8%	27.7%	27.1%
	ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。	65.6%	56.8%	44.3%
	インターネットやメールを見る。	24.6%	24.8%	20.8%
	おしゃべりをする。	72.1%	61.9%	47.4%
	お絵かき、あやとり、おりがみなどをする。	32.8%	27.1%	23.9%
	ボール遊びやスポーツをする。	64.2%	46.5%	36.9%
	鬼ごっこやかくれんぼなどをする。	50.3%	30.0%	20.0%
	すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ。	35.4%	22.6%	18.5%
自分(たち)で考えた遊びをする。	61.1%	45.9%	37.6%	

- 問8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と、問7の放課後によくすることを「はい」「いいえ」の二件法について質問した結果とクロス集計した結果である。
- 「勉強をする」や「本やマンガを読む」、「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」等では、大きな違いはみられていない。
- 「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」それぞれの群の比較で大きな違いが見られた活動は、「おしゃべりをする」と「ボール遊びやスポーツをする」、「鬼ごっこやかくれんぼをする」、「自分(たち)で考えた遊びをする」、「ゲーム機やカードゲームで遊ぶ」であり、「楽しくない」群の値よりも20ポイント以上、「とても楽しい」の値が上回っている。これらは一人であるのではなく、他者との関わりが多い活動であることから、「楽しくない」と感じている子どもの多くが放課後の活動において、他者との関わりが少ないことがうかがえるだろう。

⑤ 放課後の時間をどのように感じているか



- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と、問9の放課後について感じていることとをクロス集計した結果である。
- 「やりたいことができています」という選択肢については、「とても楽しい」群が80.5%に上っているのに対して、「楽しくない」群の結果では、27.7%にとどまっており、大きな違いがみられている。
- それ以外の5つの課題についても「楽しくない」群の値が「まあまあ楽しい」群と「とても楽しい」群の結果を上回っており、違いがみられている。特に大きな違いが見られたのは「やりたいことが見つからない」であり、「とても楽しい」群がわずか11.1%であったのに対し、「楽しくない」群の結果では、46.5%と半数近くを占めていることが明らかとなった。
- また、遊びの三要素である時間・空間・仲間については、それぞれ「楽しくない」群の結果の値が高いものの、特に仲間については「とても楽しい」群が12.4%であるのに対して、「楽しくない」群では39.5%にまで上っていた。
- これらの結果から、放課後が「楽しくない」と感じている子どもの課題が、遊び時間の不足だけで

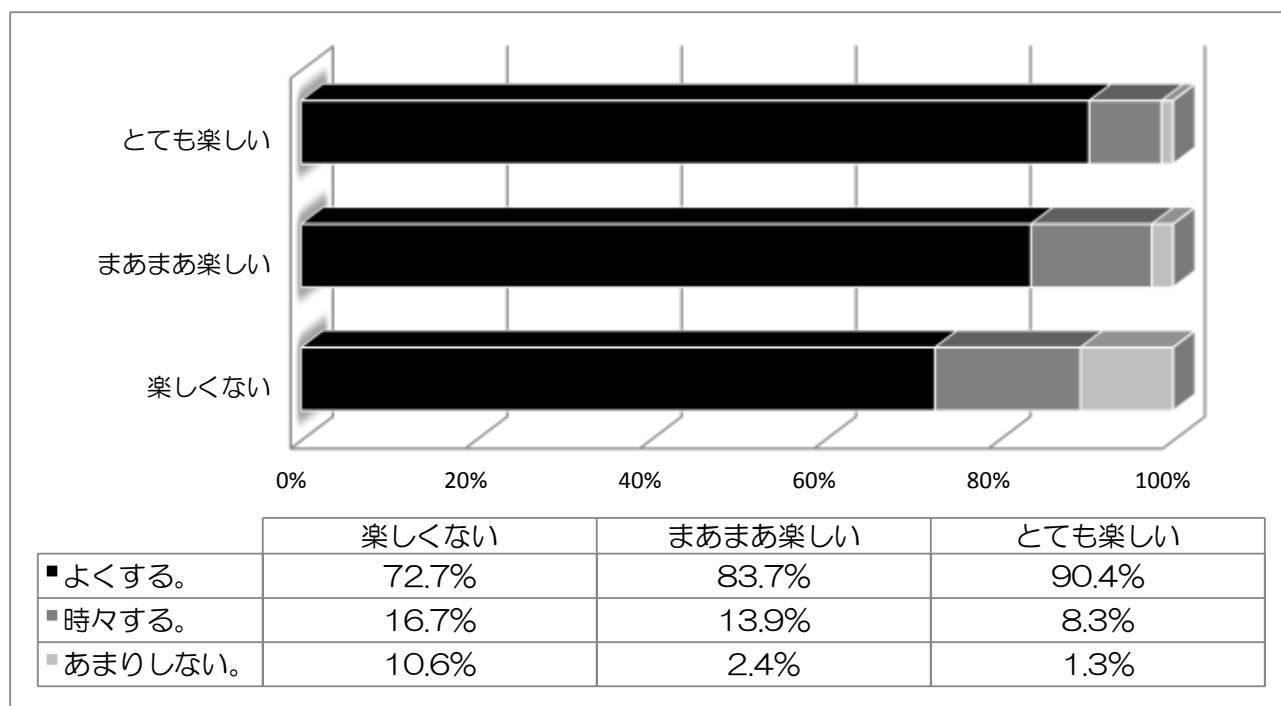
なく、「遊び仲間の不足」と「やりたいことが見つからない」ことであると言えるだろう。また、子どもの放課後をより充実したものにするためには、子どもが現状の放課後に対して感じている課題に応じて、具体的な支援の手立てを講じることが重要であることが分かる。

⑥ 放課後の時間にやりたいこと

		問8 放課後の感じ方		
		とても楽しい	まあまあ楽しい	楽しくない
問10 してみたい活動	勉強をする。	54.9%	50.4%	50.6%
	本やマンガを読む。	53.1%	52.7%	44.8%
	おやつや料理を作る。	55.5%	54.9%	53.2%
	昔遊び(竹馬やこまなど)をする。	31.1%	25.5%	26.2%
	絵やイラストを描く。	45.0%	41.3%	37.1%
	簡単な実験や工作をする。	53.0%	48.7%	46.2%
	虫を捕ったり花を観察したりする。	28.2%	21.4%	26.9%
	音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。	42.9%	42.7%	42.9%
	運動やスポーツをする。	73.6%	62.2%	54.7%
	大学生や大人の人と一緒に遊ぶ。	32.3%	26.8%	25.7%
	友だちと一緒に遊ぶ。	90.7%	84.9%	68.6%
	家の手伝いをする。	61.4%	55.5%	49.9%
	地域の行事やボランティア活動などに参加する。	33.5%	28.5%	27.5%

- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と、問 10の放課後にしてみたい活動を「はい」「いいえ」の二件法について質問した結果とをクロス集計した結果である。
- 「音楽を聴いたり楽器を演奏したりする」や「虫を捕ったり花を観察したりする」では違いはなく、その他の多くの活動についても、④放課後によくすることについてクロス集計した結果から比較すると、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」の三つの群での違いは大きくないことが分かる。
- しかしながら、「運動やスポーツをする」と「友だちと一緒に遊ぶ」については、20ポイント近くの違いがみられている。特に「友だちと一緒に遊ぶ」については、「とても楽しい」群が90.7%と非常に高く、「まあまあ楽しい」群も84.9%と高いのに対して、「楽しくない」群では68.6%にとどまっていることが分かる。
- これまでのクロス集計結果から「楽しくない」と感じている子どもは、放課後に一人で過ごすことが多い傾向にあることが明らかとなっているが、そうした子どもの表面的なニーズとして、「友だちと一緒に遊ぶ」ことについては比較的、強く求められていないという結果も明らかとなったわけである。

⑦ 家庭での会話の頻度



- 問 8「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。」という質問に対して、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」のそれぞれの回答と、問 17の家庭で保護者や兄弟・姉妹等との会話の頻度とをクロス集計した結果である。
- 「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「楽しくない」いずれの群の結果も最も多く選択されていたのは「よくする」であったが、全体に占める割合には違いがみられている。「とても楽しい」群では90.4%と非常に高く、「時々する」も合わせると、実に98.7%に上るが、「楽しくない」群では「よくする」と答えた子どもの割合は72.7%にとどまり、「時々する」を加えても89.4%であった。
- 「あまりしない」と回答した子どもの割合は、「楽しくない」群の結果では10.6%を占めている。
- こうした結果から、放課後が「楽しくない」と感じている子どもは、家庭においても保護者等と会話をする頻度が比較的少ないことが明らかとなった。

2.2.2 遊び時間が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較

① 放課後によく過ごす場所

	遊ぶ時間が少ない。	
	そう思う	そう思わない
自分の家	78.9%	78.0%
友だちの家	40.6%	37.3%
塾や習い事	50.9%	43.1%
学校の校庭や体育館	13.8%	11.6%
放課後子ども教室の活動場所	3.8%	4.2%
学童(放課後児童クラブ)の活動場所	6.9%	8.8%
公園、空き地、広場など	40.4%	40.1%
公民館や地区センター、児童館など	5.2%	4.4%
図書館、博物館、美術館など	2.2%	2.2%
スーパーやコンビニエンスストア	6.2%	5.5%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ時間が少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 4 の放課後によく過ごす場所についての結果をクロス集計した結果である。
- 遊び時間が少ないと感じている子どもは塾や習い事に行くことが多いと回答している割合が高いが、違いは7%程度であった。
- 放課後にそのまま活動できる「放課後子ども教室の活動場所」や「学童の活動場所」については、遊ぶ時間が少ないと感じている子どもの群の割合が思わない子どもの群よりも低い値となっている。
- また、「公民館や地区センター、児童館など」と「図書館、博物館、児童館」などの社会教育施設については大きな違いはみられていない。
- こうした結果から、遊び時間が少ないと感じている子どもほど、塾や習い事に通っていて多忙であり、放課後にそのまま活動できる放課後子ども教室や学童を多く利用しているというわけではないということが言えるだろう。

② 放課後の時間をどのように感じているか

	遊ぶ時間が少ない。	
	そう思う	そう思わない
やりたいことができている。	54.5%	82.5%
遊ぶ場所が少ない。	35.1%	18.7%
遊ぶ友だちが少ない。	20.0%	13.8%
遊ぶ道具が少ない。	24.0%	14.0%
やりたいことが見つからない。	20.9%	12.6%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ時間が少ない」と回答した群としなかった群とに分け、同じく問 9 の他の選択肢についてクロス集計した結果である（遊ぶ時間が少ないについては、当然 100% と 0%になるため、記載していない）。
- 遊ぶ時間が少ないと感じている子どもの群では、放課後に「やりたいことができている」と感じている割合は少なく、時間が少ないと感じていない子どもの群が 82.5%に上っているのに対して、54.5%と半数程度にとどまっている。
- その他の遊び空間や仲間等の課題については、いずれも遊ぶ時間に課題意識がない子どもの群よりも高い値となったが、中でも特に「遊ぶ場所が少ない」では、15%以上の違いがみられており、遊ぶ時間が少ないと感じる子どもの三分の一は遊び場所も少ないと感じていることが分かった。

2.2.3 遊び場所（空間）が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較

① 放課後によく過ごす場所

	遊ぶ場所が少ない。	
	そう思う	そう思わない
自分の家	78.2%	79.3%
友だちの家	42.1%	37.9%
塾や習い事	44.7%	47.5%
学校の校庭や体育館	13.4%	12.4%
放課後子ども教室の活動場所	4.2%	4.0%
学童（放課後児童クラブ）の活動場所	8.4%	8.0%
公園、空き地、広場など	43.4%	39.5%
公民館や地区センター、児童館など	5.8%	4.4%
図書館、博物館、美術館など	2.5%	2.1%
スーパーやコンビニエンスストア	7.0%	5.4%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ場所が少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 4 の放課後によく過ごす場所についての結果をクロス集計した結果である。
- 遊ぶ場所が少ないと回答した群が高かったのは「学校の校庭や体育館」や「友だちの家」、「公園、空き地、広場など」であり、反対に回答しなかった群が高かったのは「塾や習い事」「自分の家」等であるが、いずれの選択肢も大きな違いはみられていない。
- 遊ぶ場所が少ないと感じている子どもはそうでない子どもよりも比較的屋外で遊ぶ傾向にあるように考えられる。

② 公民館や児童館、図書館、博物館等の利用頻度

		遊ぶ場所が少ない。	
		そう思う	そう思わない
公民館・市民館・地区センター・コミュニティセンターなど	毎週、行く。	6.6%	6.1%
	毎月、行く。	8.0%	7.1%
	イベントや行事の時に行く。	20.8%	20.1%
	行ったことがある。	40.7%	41.9%
	行ったことがない。	14.4%	15.6%
	近くにあるのかわからない。	9.5%	9.2%
児童館	毎週、行く。	5.6%	4.6%
	毎月、行く。	6.7%	4.9%
	イベントや行事の時に行く。	10.1%	10.3%
	行ったことがある。	40.7%	42.2%
	行ったことがない。	21.5%	22.8%
	近くにあるのかわからない。	15.4%	15.1%
図書館	毎週、行く。	6.6%	5.3%
	毎月、行く。	13.4%	12.3%
	イベントや行事の時に行く。	4.8%	4.1%
	行ったことがある。	60.7%	64.2%
	行ったことがない。	10.1%	10.2%
	近くにあるのかわからない。	4.5%	3.8%
博物館・美術館	毎週、行く。	1.2%	0.8%
	毎月、行く。	3.1%	2.8%
	イベントや行事の時に行く。	9.2%	8.6%
	行ったことがある。	59.2%	61.2%
	行ったことがない。	15.5%	16.5%
	近くにあるのかわからない。	11.9%	10.1%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ場所が少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 11 の公民館等の社会教育施設、問 12 の児童館等の子ども向けの施設、問 13 の図書館、そして問 14 の博物館・美術館の利用頻度とをそれぞれクロス集計した結果である。
- 4 つのいずれの結果も 2%以内の違いにとどまっており、「遊ぶ場所が少ない」と感じている子どもも感じていない子どもも施設の利用頻度に違いはみられないことが明らかとなった。

③ 放課後の時間をどのように感じているか

	遊ぶ場所が少ない。	
	そう思う	そう思わない
やりたいことができている。	58.8%	75.5%
遊ぶ時間が少ない。	58.2%	37.3%
遊ぶ友だちが少ない。	29.0%	12.2%
遊ぶ道具が少ない。	40.3%	10.8%
やりたいことが見つからない。	28.7%	11.9%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ場所が少ない」と回答した群としなかった群とに分け、同じく問 9 の他の選択肢についてクロス集計した結果である（遊ぶ場所が少ないについては、当然 100% と 0%になるため、記載していない）。
- 遊ぶ時間が少ないと感じている子どもの群では、放課後に「やりたいことができている」と感じている割合は少なく、時間が少ないと感じていない子どもの群が 75.5%に上っているのに対して、58.8%にとどまっている。
- その他の遊び空間や仲間等の課題については、いずれも遊ぶ時間に課題意識がない子どもの群よりも高い値となったが、中でも特に「遊ぶ道具が少ない」では、およそ 30%という大きな違いがみられていた。
- 前出の「遊ぶ時間が少ない」と感じているか否かのクロス集計結果と比較すると、「遊ぶ場所が少ない」と感じている子どもの群のほうが様々な点で課題を感じていることが明らかとなった。特に遊ぶ場所が少ないと感じている子どもの半数以上は遊び時間も少ないと感じていることは特徴的である。

2.2.4 遊び友だち（仲間）が少ないと感じている子どもと感じていない子どもの比較

① 放課後によく過ごす場所

	遊ぶ友だちが少ない。	
	そう思う	そう思わない
自分の家	82.6%	77.5%
友だちの家	33.2%	39.8%
塾や習い事	45.0%	46.7%
学校の校庭や体育館	9.6%	13.1%
放課後子ども教室の活動場所	5.7%	3.7%
学童（放課後児童クラブ）の活動場所	10.7%	7.5%
公園、空き地、広場など	34.6%	41.3%
公民館や地区センター、児童館など	4.1%	4.9%
図書館、博物館、美術館など	2.6%	2.1%
スーパーやコンビニエンスストア	8.2%	5.3%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 4の放課後によく過ごす場所についての結果をクロス集計した結果である。
- 前出の遊ぶ時間や遊ぶ場所（空間）のクロス集計結果と比べると、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群としなかった群とに比較的違いが大きいことが分かる。「遊ぶ友だちが少ない」と回答した子どもの群では、「自分の家」で過ごす割合が82.6%と若干高い値となっている。反対に「学校の校庭や体育館」、「公園、空き地、広場など」については、「遊ぶ友だちが少ない」と回答しなかった群の割合が高くなっている。
- 「放課後子ども教室の活動場所」と「学童の活動場所」についても、「遊ぶ友だちが少ない」と回答している子どもの群の値が若干高いことが分かる。

② よく過ごす人の人数

	遊ぶ友だちが少ない。	
	そう思う	そう思わない
1人	14.6%	7.5%
2～3人	55.7%	48.3%
4～6人	19.7%	30.3%
7～9人	2.6%	5.6%
10人以上	7.5%	8.2%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 5の放課後によく過ごす人の人数について、クロス集計した結果である。
- 「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群は「1人」で過ごすことが多いと答えた子どもの割合が高く、「そう思わない」と回答した群のおよそ2倍の値となっている。また、「2～3人」という割合も若干であるが高くなっている。
- 対して、「4～6人」と「7～9人」、「10人以上」という選択肢については、「遊ぶ友だちが少ない」と回答しなかった群の値がいずれも高くなっている。
- こうした結果から、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した子どもは比較的、放課後に少人数で過ごす傾向にあると言えるだろう。

③ よく過ごす人の属性

	遊ぶ友だちが少ない。	
	そう思う	そう思わない
1人で過ごす。	26.1%	17.1%
家の人	57.6%	50.5%
同じ学年の友だち	48.3%	68.2%
小学校のほかの学年の人	15.2%	14.6%
中学生、高校生、大学生	3.1%	3.0%
学童の指導員や公民館の人など	7.2%	4.6%
地域(近所)の人	4.1%	3.1%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群としなかった群とに分け、問 6の放課後によく過ごす人の属性について、クロス集計した結果である。
- 「遊ぶ友だちが少ない」と回答した子どもの群の結果では、回答しなかった子どもの群と比べ、「1人で過ごす」と「家の人」、そして「学童の指導員や公民館の人など」という選択肢の割合が高くなっている。
- 対して、「遊ぶ友だちが少ない」と回答しなかった子どもの群では、「同じ学年の友だち」という選択肢の割合がおよそ20ポイント高くなっている。
- こうした結果から、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した子どもは、放課後に同学年の友だちと過ごすことが少ない傾向にあるということが分かった。

④ 放課後の時間をどのように感じているか

	遊ぶ友だちが少ない。	
	そう思う	そう思わない
やりたいことができている。	56.6%	73.4%
遊ぶ時間が少ない。	51.6%	40.5%
遊ぶ場所が少ない。	45.1%	21.8%
遊ぶ道具が少ない。	37.1%	14.5%
やりたいことが見つからない。	36.6%	12.1%

- 問 9「あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）の時間をどのように感じていますか。」という質問に対して、「遊ぶ友だちが少ない」と回答した群としなかった群とに分け、同じく問 9 の他の選択肢についてクロス集計した結果である（遊び仲間が少ないについては、当然100%と0%になるため、記載していない）。
- 遊ぶ仲間が少ないと感じている子どもの群では、放課後に「やりたいことができている」と感じている割合は少なく、時間が少ないと感じていない子どもの群が 73.4%に上っているのに対して、56.6%にとどまっている。
- その他の遊び時間や空間等の課題については、いずれも遊ぶ時間に課題意識がない子どもの群よりも高い値となっており、「遊ぶ時間が少ない」を除いてはおよそ25%程度高い。
- 前出の「遊ぶ時間が少ない」や「遊ぶ場所が少ない」と感じているか否かのクロス集計結果と比較すると、「遊ぶ友だちが少ない」と感じている子どもの群のほうが様々な点で課題を感じていることが明らかとなった。特に遊ぶ仲間が少ないと感じている子どものおよそ半数が遊び時間や遊び場所も少ないと感じていることは特徴的である。

2.2.5 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度による比較

① 児童館等の子ども向けの施設に行く頻度

		問11 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度					
		毎週、行く。	毎月、行く。	イベントや行事の時に行く。	行ったことがある。	行ったことがない。	近くにあるのかわからない。
問12 児童館などの子ども向けの施設に行く頻度	毎週、行く。	26.2%	5.8%	4.4%	2.8%	2.5%	4.0%
	毎月、行く。	9.4%	24.5%	4.6%	3.3%	2.3%	3.3%
	イベントや行事の時に行く。	8.9%	9.7%	29.7%	4.9%	3.4%	4.5%
	行ったことがある。	27.9%	35.6%	36.1%	56.5%	27.0%	28.1%
	行ったことがない。	15.3%	12.2%	14.0%	19.3%	54.6%	15.4%
	近くにあるのかわからない。	12.3%	12.3%	11.2%	13.2%	10.2%	44.7%

- 問 11 の公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度について、「毎週、行く」「毎月、行く」「イベントや行事の時に行く」、「行ったことがある」「行ったことがない」そして「近くにあるのかわからない」のそれぞれの回答と、問 12 の児童館等の子ども向けの施設に行く頻度とを、クロス集計した結果である。
- 問 11 で公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに「行ったことがない」と回答した子どもの群では、同じく児童館等の子ども向けの施設についても「行ったことがない」と回答している割合が半数以上を占めていることがわかる。
- 同様に公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターが「近くにあるのかわからない」と回答した子どもの群は、児童館等の子ども向けの施設についても半数近くが「近くにあるのかわからない」と回答しており、最も高い割合となっている。
- それ以外の「毎週、行く」「毎月、行く」「イベントや行事の時に行く」、「行ったことがある」の選択肢を回答した子どもの群については、いずれも「行ったことがある」が最も高い割合を占めていたものの、特徴的だと言えるのは公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに「毎週、いく」という子どもの群は児童館等の子ども向けの施設にも「毎週、いく」という割合が高いことである。
- こうした傾向は公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度を基にしたクロス集計でのみ見られており、児童館や図書館、博物館・美術館のクロス集計では見られていない。

② 図書館に行く頻度

		問11 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度					
		毎週、行く。	毎月、行く。	イベントや行事の時に行く。	行ったことがある。	行ったことがない。	近くにあるのかわからない。
問13 図書館に行く頻度	毎週、行く。	24.0%	8.5%	6.0%	3.2%	3.8%	3.6%
	毎月、行く。	16.6%	31.4%	15.6%	10.7%	6.4%	7.7%
	イベントや展示の時に行く。	4.4%	3.7%	10.8%	2.2%	2.3%	3.2%
	行ったことがある。	44.6%	48.9%	58.4%	72.9%	58.7%	62.9%
	行ったことがない。	6.3%	5.8%	6.6%	7.9%	24.7%	9.3%
	近くにあるのかわからない。	4.1%	1.7%	2.6%	3.1%	4.1%	13.2%

- 問11の公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度について、「毎週、行く」「毎月、行く」「イベントや行事の時に行く」「行ったことがある」「行ったことがない」そして「近くにあるのかわからない」のそれぞれの回答と、問13の図書館に行く頻度とを、クロス集計した結果である。
- 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度については、全ての選択肢の群で図書館には「行ったことがある」が最も高い割合を占めており、図書館は多くの子どもが行ったことがある身近な施設であるということがわかった。
- しかしながら図書館に「行ったことがない」と回答した子どもの割合が24.7%と他の群に比べて非常に高かったのは、公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターにも「行ったことがない」と回答した群の子どもであった。このことから、公民館等の施設に行かない子どもは図書館にも行かないことが少なくないことがわかる。
- 図書館に「毎週、行く」と回答した割合が24.0%と高かったのは、公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターにも「毎週、行く」と答えた子どもの群であった。日常的に公民館等の施設に行くことの多い子どもは図書館にも行くことが多いことがわかる。

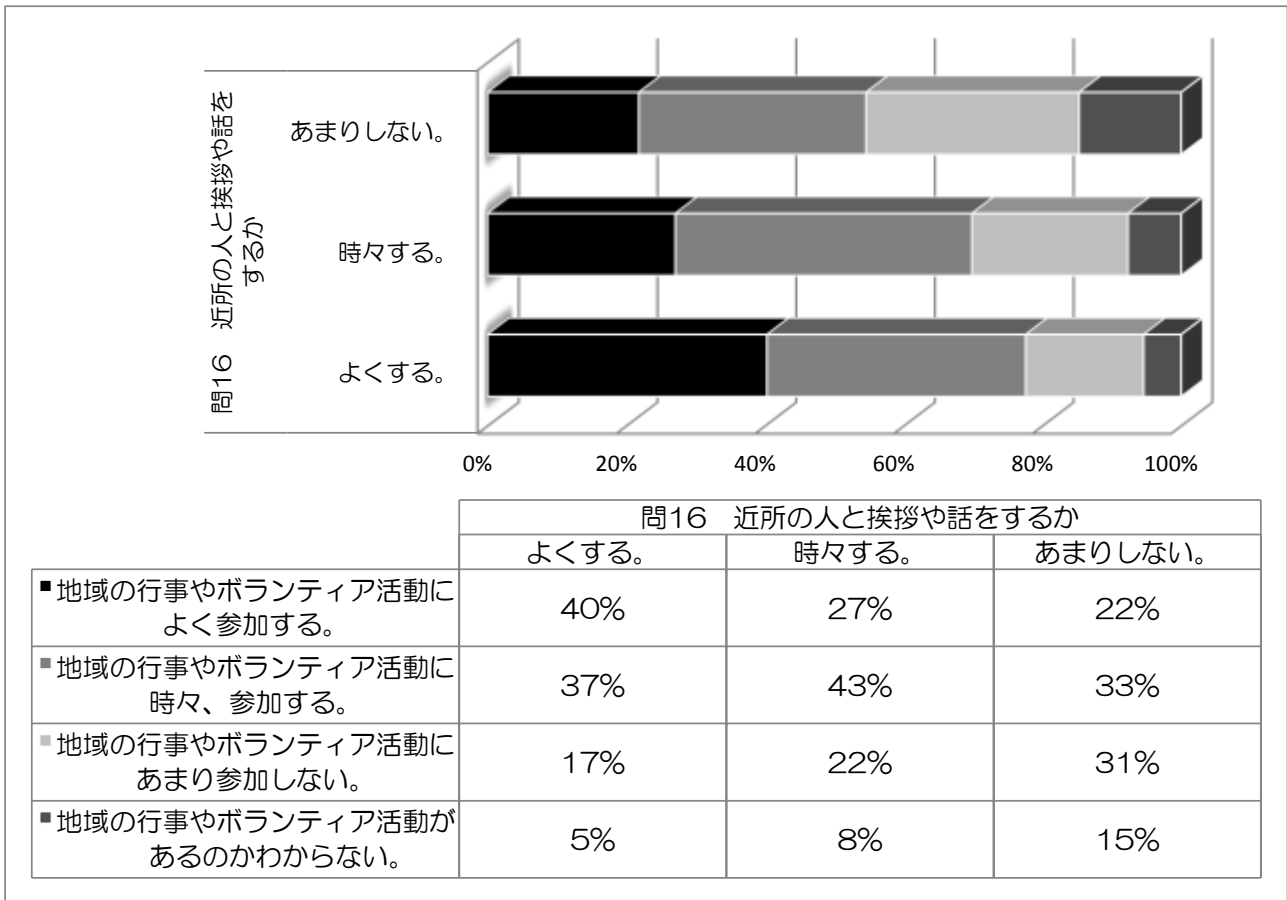
③ 博物館や美術館に行く頻度

		問11 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度					
		毎週、行く。	毎月、行く。	イベントや行事の時に行く。	行ったことがある。	行ったことがない。	近くにあるのかわからない。
問14 博物館や美術館に行く頻度	毎週、行く。	4.6%	1.7%	0.7%	0.4%	0.5%	0.6%
	毎月、行く。	4.6%	7.7%	3.8%	1.8%	2.0%	2.2%
	イベントや行事の時に行く。	13.9%	12.6%	15.1%	6.6%	5.0%	4.4%
	行ったことがある。	54.1%	57.3%	60.7%	67.4%	51.4%	53.9%
	行ったことがない。	12.0%	12.8%	11.4%	14.4%	32.7%	13.4%
	近くにあるのかわからない。	10.7%	7.8%	8.4%	9.3%	8.4%	25.4%

- 問 11 の公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度について、「毎週、行く」「毎月、行く」「イベントや行事の時に行く」、「行ったことがある」「行ったことがない」そして「近くにあるのかわからない」のそれぞれの回答と、問 14 の博物館や美術館に行く頻度とを、クロス集計した結果である。
- 前出の図書館の結果同様、「行ったことがある」がすべての選択肢で最も高い割合であった。
- 博物館や美術館に「行ったことがない」と回答した子どもの割合が 32.7%と他の群よりも 2 倍以上の値で高かったのは、公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに「行ったことがない」と回答した子どもの群であり、図書館とのクロス集計の結果同様に、公民館等の施設に行かない子どもは博物館や美術館にも行かない子が少なくないことがわかる。
- 博物館や美術館に「毎週、行く」と「毎月、行く」といった定期的な利用を選択した子どもの割合は、公民館等の施設にも「毎週、行く」「毎月、行く」と回答した子どもの群が最も高く、およそ 10%を占めているが、「イベントや行事の時に行く」では 4.5%、「行ったことがある」と「行ったことがない」の群では 2.2%と 2.5%にとどまっている。

2.2.6 地域とのかかわりに関する比較

① 近所の人との日常的な交流と地域行事・ボランティア活動への参加



- 問 16 の近所の人と挨拶や話をするかどうか、その頻度について、「よくする」「時々する」「あまりしない」のそれぞれの回答と、問 15 の地域のおまつり等の行事や、清掃等のボランティア活動への参加の頻度とをクロス集計した結果である。
- 地域の行事や清掃等のボランティア活動によく参加すると回答した子どもの割合は、近所の人と挨拶や話等の日常的な交流を「よくする」と回答した子どもの群が 40%、「時々する」が 27%、そして「あまりしない」が 22%であった。
- 反対に、地域の行事や清掃等のボランティア活動にあまり参加しないと回答した子どもの割合は、近所の人と挨拶や話などの日常的な交流を「よくする」と回答した子どもの群が 17%にとどまっていたのに対して、「時々する」は 22%、そして「あまりしない」では 31%に上っていた。
- こうしたことから、日頃から地域の大人と交流している子どもほど、地域の行事や活動にも参加する子どもが多い傾向にあることがわかる。

② 放課後に地域行事やボランティア活動に参加したいと思うか

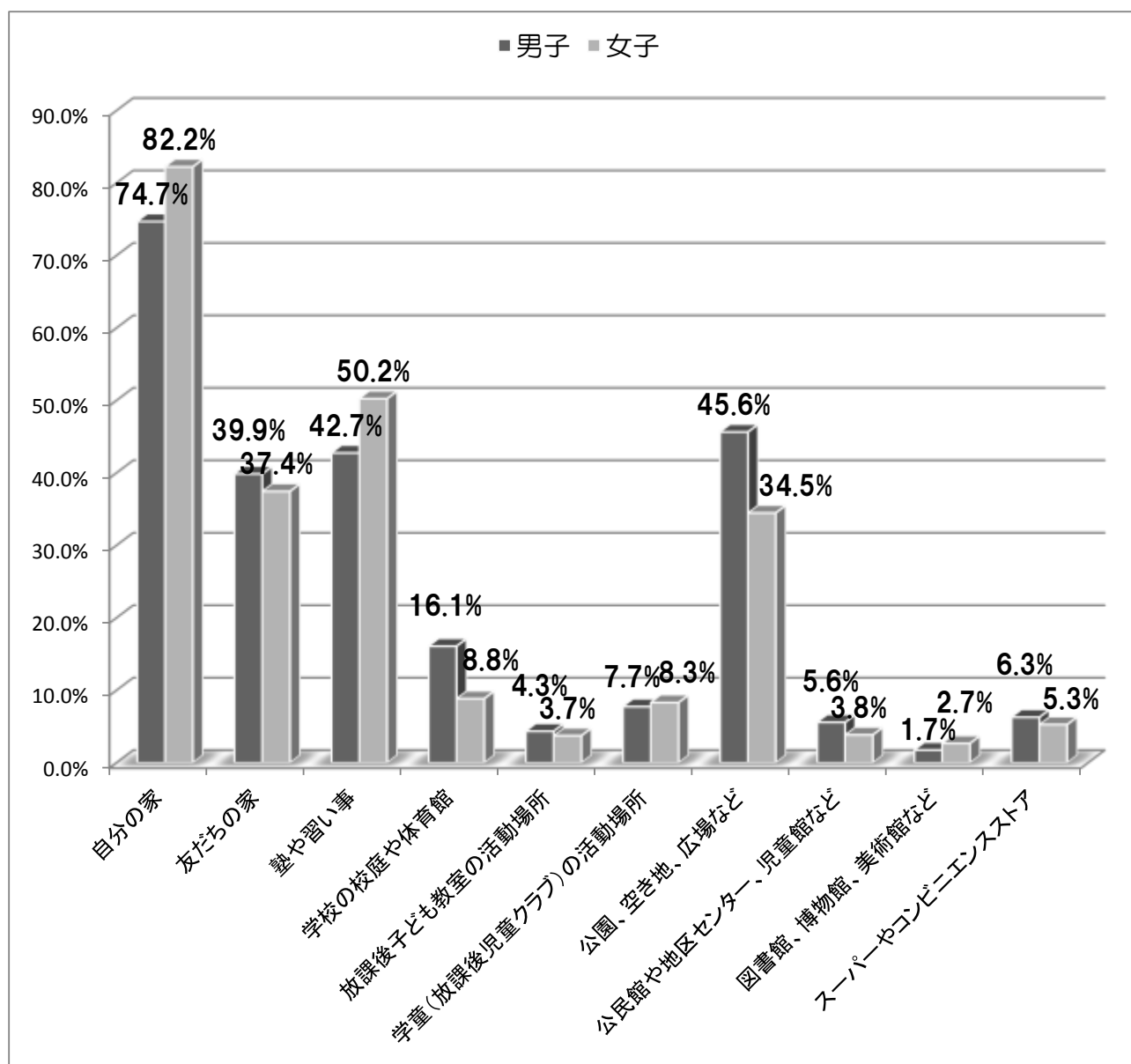
		問15 地域の行事やボランティア活動に参加するか			
		よくする。	時々、参加する。	あまり参加しない。	あるのかわからない。
放課後に地域の行事やボランティア活動などに参加したいと思うか。	思う	47.0%	29.3%	17.1%	19.1%
	思わない	53.0%	70.7%	82.9%	80.9%

		問16 近所の人と挨拶や話をするか		
		よくする。	時々する。	あまりしない。
放課後に地域の行事やボランティア活動などに参加したいと思うか。	思う	39.5%	27.0%	17.2%
	思わない	60.5%	73.0%	82.8%

- 平日の放課後にやってみたい活動について質問した問 10 の中で、地域に関する内容項目である「地域の行事やボランティア活動等に参加したいと思うか」について、「はい」「いいえ」の二件法で回答してもらった結果と、問 15 の地域の行事やボランティア活動への参加の頻度、そして問 16 の近所の人との挨拶や話などの日常的な交流の頻度とをクロス集計した結果である。
- 地域の行事やボランティア活動を「よくする」と回答した子どもの群では、放課後に地域の行事やボランティア活動をやってみたいと回答している子どもの割合が 47.0%と半数程度を占めていた。対して「時々、参加する」では 29.3%、「あまり参加しない」と回答した子どもでは 17.1%にとどまっている。
- 同様に、近所の人と挨拶や話をするなどの日常的な交流を「よくする」と回答した子どもの群でも、放課後に地域の行事やボランティア活動をやってみたいと回答している子どもの割合は 39.5%であったが、「あまりしない」と回答した子どもの群では 17.2%にとどまっている。
- こうしたことから、現在、地域の行事やボランティア活動に参加していたり、地域の大人とのあいさつや話をするなどの日常的な交流をしていたりする子どもほど、放課後にも地域の行事や活動に対して参加したいと前向きな考えをもっていることが明らかとなった。

2.2.7 男女による比較

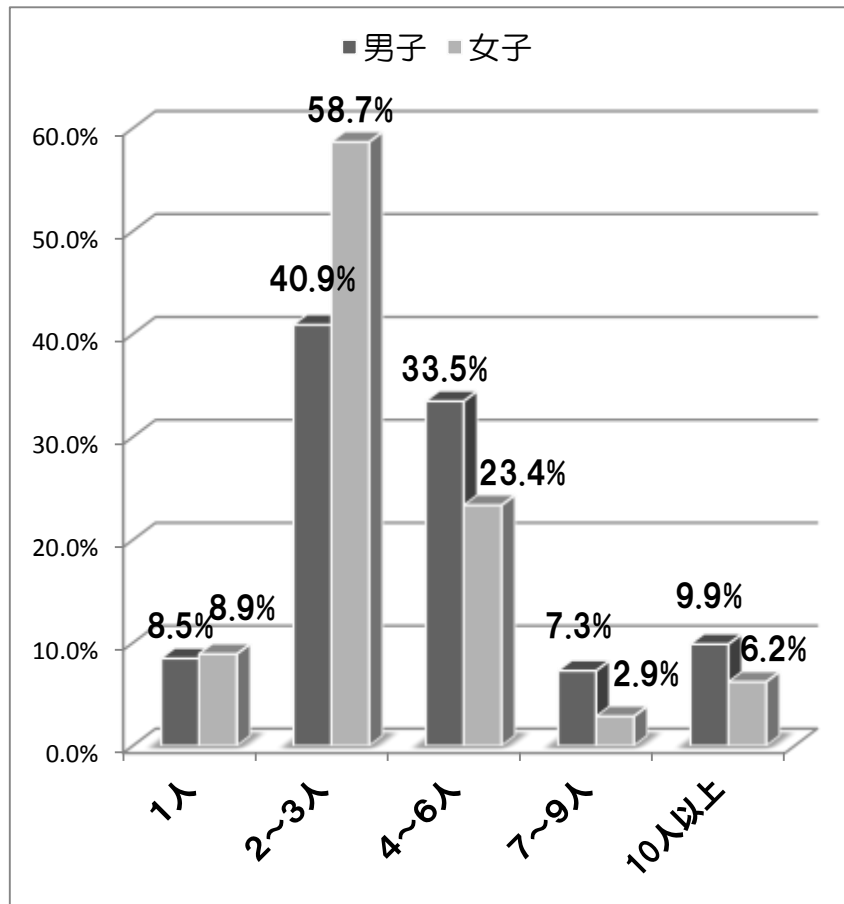
① 放課後によく過ごす場所



- 放課後によく過ごす場所について、男女別に集計した結果では、男子・女子ともに最も高い値であったのは「自分の家」であり、75%前後であった。次いで高い割合であったのは、男子では「公園、空き地、広場など」、「塾や習い事」であり、女子では「塾や習い事」、「友だちの家」であり、違いが見られた。
- 男子と女子の結果の比較で 10 ポイント以上の違いが見られたのは「公園、空き地、広場など」だけであり、男子が 45.6%と女子の 34.5%を 11.1 ポイント上回っていた。また、「学校の校庭や体育館」についても、男子が 16.1%と女子の 8.8%を 7.3 ポイント上回っており、こうした結果から男子の方が女子よりも屋外で過ごす子どもが比較的多いことがわかった。

○ 反対に女子が男子の値を上回っていたのは「自分の家」と「塾や習い事」であり、およそ7ポイント高い値となっている。

② よく過ごす人の人数

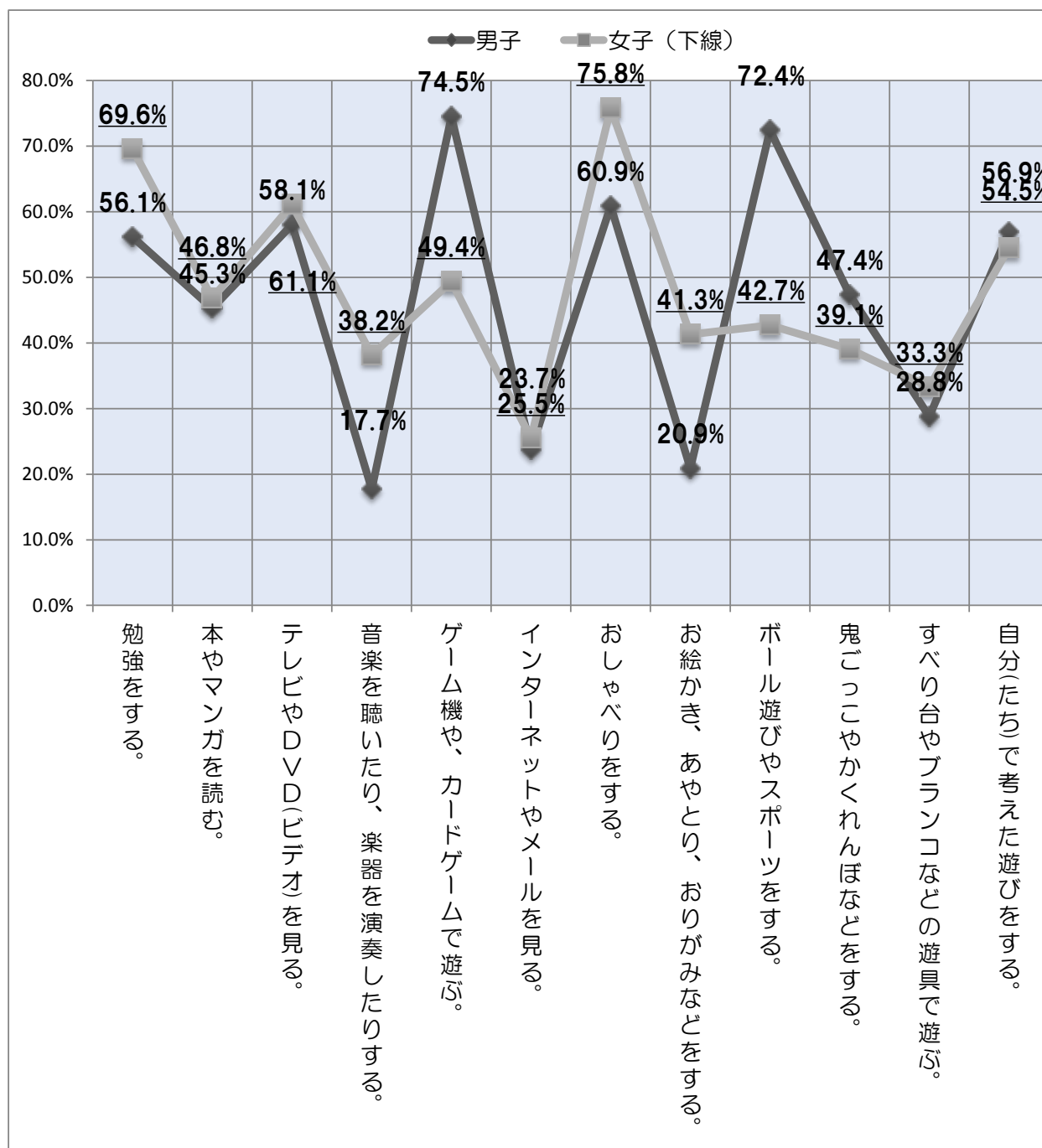


○ 放課後に一緒に過ごすことの多い人数については、男女別に集計した結果では、男子・女子ともに「2~3人」が最も高く、次いで「4~6人」となっている。しかし、その割合は大きな違いが見られており、半数以上となる58.7%もの女子が「2~3人」と回答したのに対して、男子の結果では40.9%にとどまっており、「4~6人」という中規模な人数の回答数が男子では女子よりも10ポイント以上高くなっている。さらに「7~9人」や「10人以上」という選択肢についても、男子の結果が女子の結果をおよそ5ポイント上回っている。

○ 「1人」と回答した割合は男女間で大きな違いは見られていない。

○ こうした結果から、女子は放課後に「2~3人」という小規模な集団で過ごすことが多く、対して男子は女子よりも一緒に過ごす人数が多い傾向にあると言えるだろう。

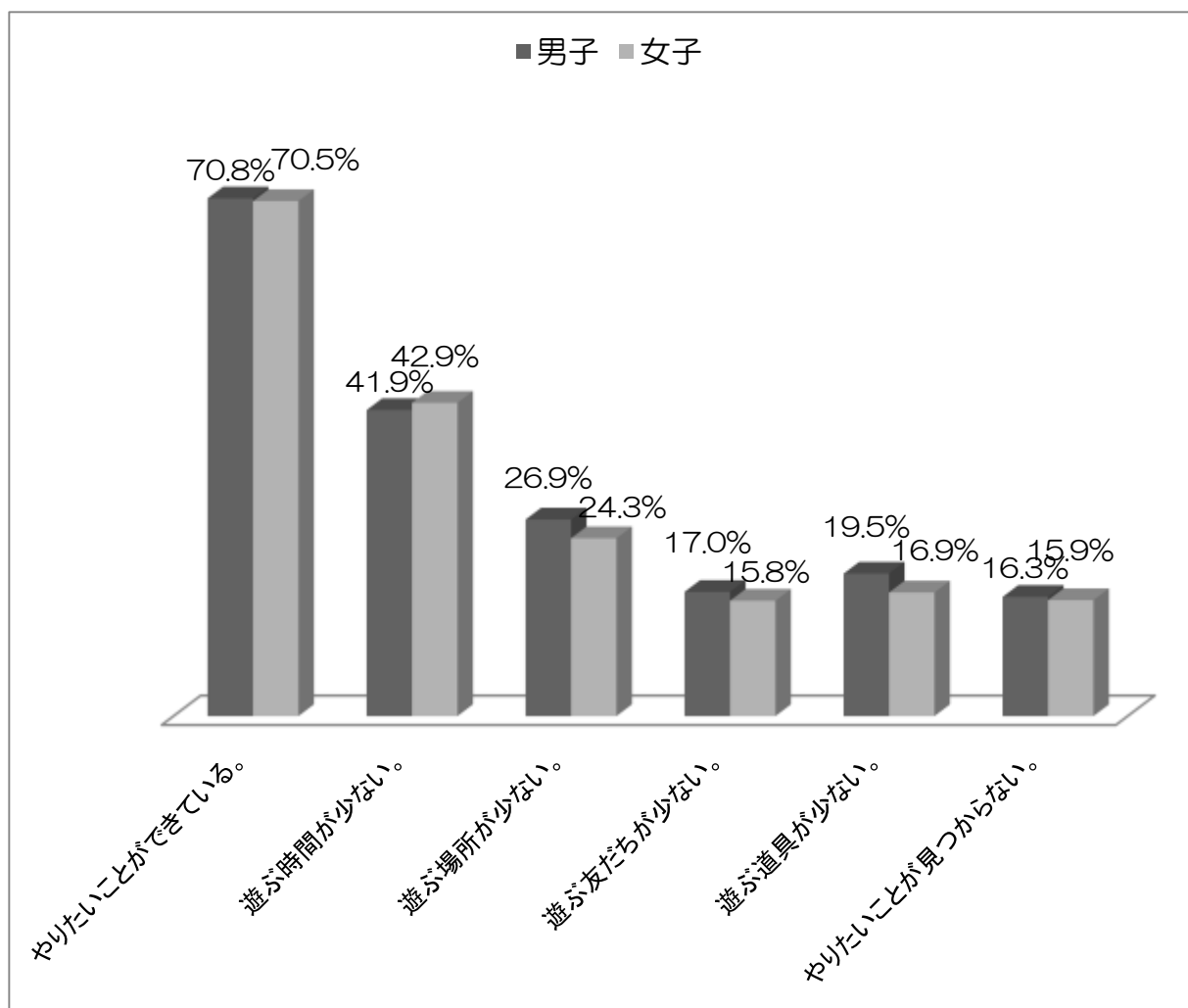
③ 放課後によくすること



- 放課後によくすることを男女別に集計した結果では、違いが多く見られている。
- 男子の結果で最も高かったのは「ゲーム機やカードゲームで遊ぶ」であり、74.5%に上っている。また、次いで「ボール遊びやスポーツをする」も72.4%と高い値となっている。
- 女子の結果では、「おしゃべりをする」が75.8%と最も高く、次いで「勉強をする」が69.6%、「テレビやDVD(ビデオ)を見る」が61.1%となっている。
- 男女それぞれの結果とも半数以上の割合に達していたのは、「勉強をする」、「テレビやDVD(ビデオ)を見る」、「おしゃべりをする」、「自分(たち)で考えた遊びをする」であった。

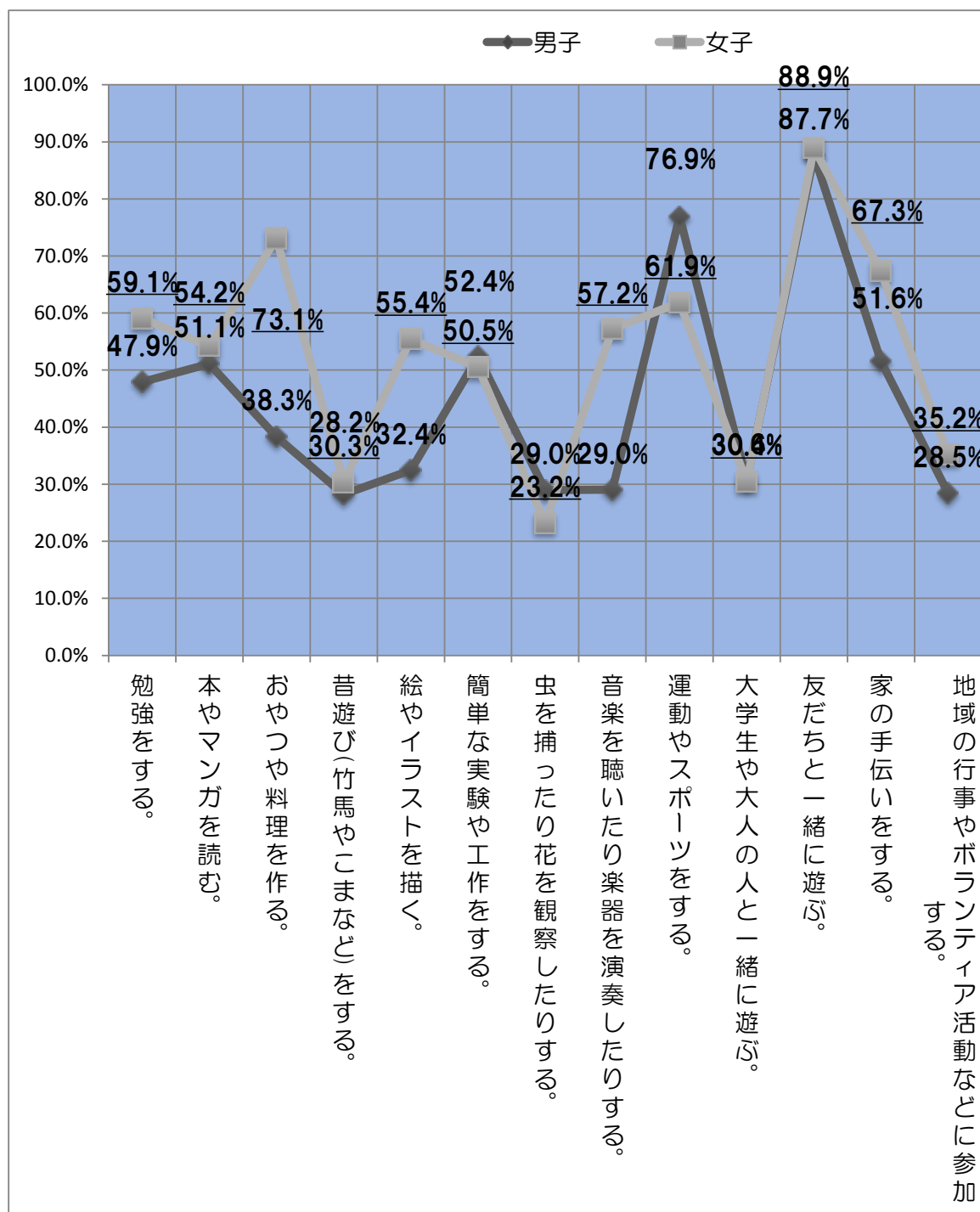
- 「インターネットやメールを見る」については、男子が23.7%、女子が25.5%であり、大きな違いは見られていない。

④ 放課後の時間をどのように感じているか



- 問9の放課後をどのように感じているかについて、男女別に集計した結果では、いずれの選択肢も3ポイント以内の違いであり、大きな違いは見られなかった。
- 男女ともに7割の子どもは「やりたいことができている」と回答しており、課題については「遊ぶ時間が少ない」が4割程度、「遊ぶ場所が少ない」が25%前後となっている。

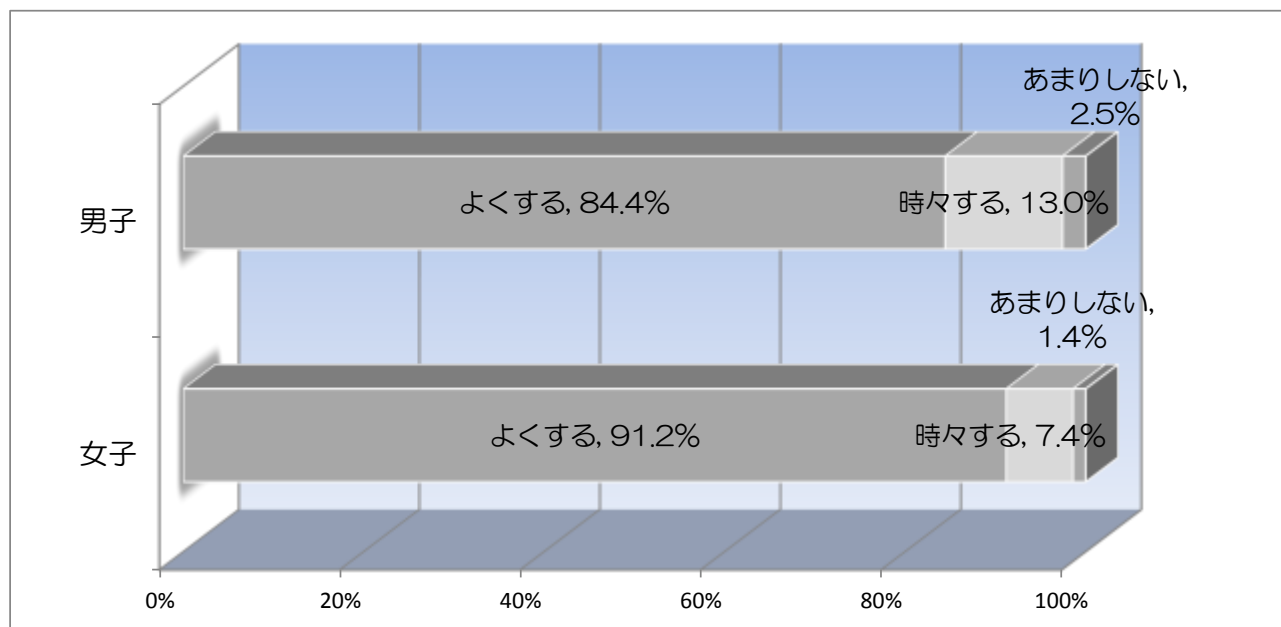
⑤ 放課後の時間にやりたいこと



- 問 10 の放課後の時間にやってみたいことを男女別に集計した結果では、男子・女子ともに「友だちと一緒に遊ぶ」が最も高く 9 割近くに上った。
- 男子の結果では、「運動やスポーツをする」が 76.9%、「簡単な実験や工作をする」が 52.4% で次いで高かったが、半数を超えた活動は 4 つであった。
- 対して、女子の結果では、半数を超えた活動は 9 つであり、「家の手伝いをする」が 67.3%、「運動やスポーツをする」が 61.9%、「勉強をする」が 59.1%となっていた。

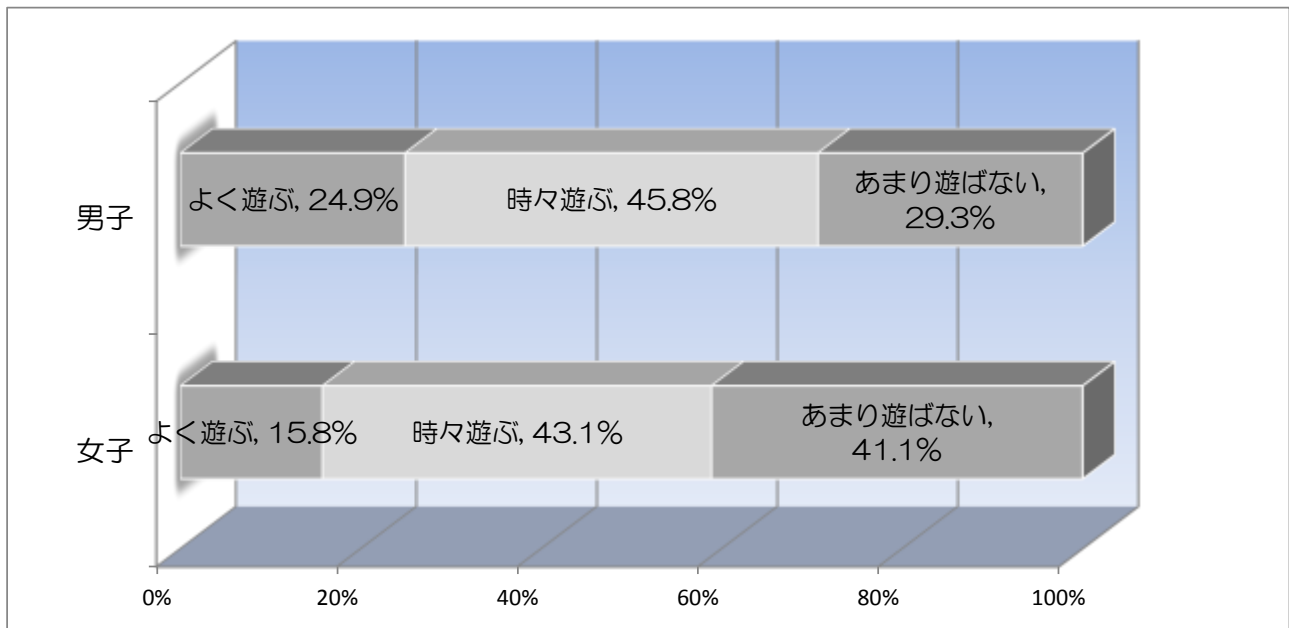
- 男子の結果よりも女子の結果が上回っている活動が多く、こうしたことから女子の方が放課後にやってみたいと考えている活動が多い子どもの割合が高いことがわかる。

⑥ 家庭での会話の頻度



- 問 17 の家庭での保護者や兄弟・姉妹との会話の頻度について、男女別に集計した結果では、「よくする」と回答した割合が男子では 84.4%、女子が 91.2%であり、女子の値が 6.8 ポイント高い結果であった。この結果に「時々する」を加えると、男子が 97.4%、女子も 98.6%であり、非常に高い値となった。
- 「あまりしない」という割合は男子で 2.5%、女子では 1.4%と低い値にとどまっている。

⑦ 自然の中での遊びの頻度



- 山や森、川や海等の自然の中で遊ぶ頻度について男女別で集計した結果では、「よく遊ぶ」と回答した割合が男子では 24.9%であったのに対して、女子の結果では 15.8%にとどまっていた。これに「時々遊ぶ」を加えると、男子の結果では 70.7%、女子は 58.9%であり、10 ポイント以上の違いが見られた。
- この結果より、男子の方が女子よりも山や森、川や海等の自然の中で遊ぶ子どもが多いことがわかった。

2.2.8 学年による比較

① 放課後によく過ごす場所

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問4 よく過 ごす場 所	自分の家	78.5%	76.7%	77.4%	79.2%	80.9%	77.4%
	友だちの家	29.5%	36.5%	41.6%	40.4%	40.2%	43.0%
	塾 や習い事	39.4%	45.9%	50.6%	46.4%	51.2%	44.1%
	学校の校庭や体育館	7.8%	10.2%	9.7%	14.8%	14.7%	17.5%
	放課後子ども教室の活動場所	9.5%	6.6%	3.2%	2.7%	2.1%	0.9%
	学童(放課後児童クラブ)の活動場所	18.5%	13.0%	9.6%	4.4%	2.5%	1.5%
	公園、空き地、広場など	27.5%	40.5%	43.1%	46.4%	42.2%	40.5%
	公民館や地区センター、児童館など	2.9%	3.6%	3.9%	4.4%	6.2%	7.1%
	図書館、博物館、美術館など	3.3%	1.9%	1.8%	2.1%	1.9%	2.1%
	スーパーやコンビニエンスストア	7.5%	4.5%	5.4%	4.3%	5.7%	7.5%

- 放課後によく過ごす場所について、学年別に詳細に集計した結果では、いずれの学年の結果でも最も高い値となったのは「自分の家」であり、8割前後を占めていたが、その他の場所については、様々な違いが見られている。
- 学年が上がるにつれて割合が高くなる傾向が見られたのは、「友だちの家」、「学校の校庭や体育館」、「公民館や地区センター、児童館など」であった。
- 反対に学年が上がるにつれ、割合が低くなる傾向が見られたのは、「放課後子ども教室の活動場所」と「学童(放課後児童クラブ)の活動場所」であり、これらは1年生の子どもでは9.5%と18.5%を占めていたが、6年生の子どもの結果では、わずか0.9%と1.5%となっている。
- 「公園、空き地、広場など」については、1年生の結果は27.5%であるが、2年生以降は4割程度となっている。
- 「図書館、博物館、美術館など」は全学年通して2割前後、「スーパーやコンビニエンスストア」も5%前後となっている。また、「塾や習い事」についても、全学年通して45%前後となっている。

② よく過ごす人の人数

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問5 よく 過ごす 人数	1人	7.3%	6.2%	6.8%	8.4%	10.7%	12.4%
	2～3人	56.3%	52.9%	50.9%	49.3%	46.7%	42.1%
	4～6人	21.1%	25.8%	28.6%	31.2%	29.1%	34.6%
	7～9人	3.3%	4.4%	4.8%	5.4%	6.3%	6.4%
	10人以上	12.1%	10.7%	9.0%	5.8%	7.2%	4.5%

- 放課後によく過ごす人の人数について、学年別に詳細に集計した結果では、いずれの学年の結果でも最も高い値となったのは「2～3人」であり、5割前後を占めており、次いで「4～6人」が3割前後となっていた。
- 「1人」という回答については、学年が上がるにつれ割合も増加しており、6年生では12.4%を占めている。
- 反対に「10人以上」という回答については、学年が上がるにつれ割合は減少する傾向にあり、1年生では12.1%と占めているが、6年生の結果では4.5%にとどまっている。

③ よく過ごす人の属性

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問6 一緒に過ごす人の属性	1人で過ごす。	13.2%	13.8%	17.3%	19.1%	21.8%	25.5%
	家の人	56.9%	54.4%	51.3%	52.6%	50.2%	45.1%
	同じ学年の友だち	43.0%	58.9%	64.4%	71.2%	72.6%	77.1%
	小学校のほかの学年の人	13.4%	18.7%	19.3%	14.4%	13.4%	9.5%
	中学生、高校生、大学生	3.7%	3.5%	3.2%	2.7%	2.3%	2.9%
	学童の指導員や公民館の人など	12.8%	7.7%	5.7%	2.7%	1.4%	0.9%
	地域(近所)の人	4.4%	3.7%	4.6%	3.6%	2.3%	1.4%

- 放課後によく過ごす人の属性について、学年別に詳細に集計した結果で最も高い値となったのは、1年生では「家の人」で56.9%、その他の学年では「同じ学年の友だち」であった。
- 「1人で過ごす」については、学年が上がるにつれて割合は高くなっており、1年生では13.2%であるが6年生になると25.5%を占めている。同様に「同じ学年の友だち」についても1年生では43.0%であるが、3年生で64.4%、6年生では77.1%に上っている。
- 反対に学年が上がるにつれて割合が低くなっているのは、「学童の指導員や公民館の人など」であり、1年生では12.8%を占めているが、6年生になると1%以下の0.9%となっている。
- 「小学校のほかの学年の人」については、3年生で最も高い値の19.3%となっており、1年生で13.4%、6年生でも9.5%にとどまっている。

④ 放課後によくすること

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問7 よくする活動	勉強をする。	77.4%	69.0%	68.7%	60.4%	55.8%	47.0%
	本やマンガを読む。	33.2%	40.6%	42.1%	48.8%	53.0%	56.2%
	テレビやDVD(ビデオ)を見る。	55.9%	57.5%	55.1%	57.9%	62.4%	67.6%
	音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。	20.0%	21.0%	24.3%	27.5%	31.8%	39.8%
	ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。	60.1%	61.6%	62.5%	61.7%	65.2%	62.2%
	インターネットやメールを見る。	12.1%	13.6%	20.0%	21.5%	30.3%	47.1%
	おしゃべりをする。	71.0%	70.4%	68.9%	67.4%	66.0%	65.9%
	お絵かき、あやとり、おりがみなどをする。	52.9%	44.3%	34.2%	26.2%	19.3%	12.3%
	ボール遊びやスポーツをする。	50.7%	56.1%	62.3%	61.1%	61.5%	55.3%
	鬼ごっこやかくれんぼなどをする。	41.6%	47.3%	46.6%	47.3%	42.1%	35.1%
	すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ。	36.8%	39.1%	34.9%	32.1%	25.1%	19.4%
	自分(たち)で考えた遊びをする。	60.3%	55.7%	59.6%	58.4%	54.9%	46.0%

- 放課後によくすることについて、学年別に詳細に集計した結果では、学年によって高い割合を示した活動が異なっている。1年生では「勉強をする」が77.4%、2年生と3年生では「おしゃべりをする」がそれぞれ70.4%と68.9%であり、3年生までは「勉強をする」と「おしゃべりをする」が7割前後を占め、高い割合となっていた。4年生と5年生については「おしゃべりをする」が67.4%と66.0%で、次いで「ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ」が61.7%と65.2%で高い。6年生では「テレビやDVD(ビデオ)を見る」が67.7%と最も高く、「おしゃべりをする」は65.9%となっている。
- 「勉強をする」については、1年生では全活動中で最も高い77.4%であったが、学年が上がるにつれて値は減少しており、6年生では47.0%と半数以下にとどまっている。同様に「お絵かき、あや

とり、おりがみなどをする」についても、1年生では52.9%に上っているが、6年生になると12.3%まで減少している。

- 反対に学年が上がるにつれて値が増加しているのは、「本やマンガを読む」と「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」であり、1年生と6年生の結果を比較すると20ポイント以上増加しているのがわかる。
- 「インターネットやメールを見る」については、1年生でも12.1%を占めており、5年生でおよそ3人に1人となる30.3%、6年生ではおよそ半数にあたる47.1%に上っている。

⑤ 放課後の時間をどのように感じているか

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問9 放課後に望むこと	やりたいことができている。	68.3%	73.2%	74.8%	71.0%	67.7%	69.1%
	遊ぶ時間が少ない。	33.7%	34.9%	37.0%	45.1%	54.3%	47.6%
	遊ぶ場所が少ない。	27.3%	26.2%	23.9%	24.7%	25.7%	26.3%
	遊ぶ友だちが少ない。	26.8%	23.8%	18.0%	13.8%	10.4%	7.3%
	遊ぶ道具が少ない。	23.4%	23.3%	19.6%	17.6%	16.0%	10.4%
	やりたいことが見つからない。	25.0%	22.9%	17.7%	12.5%	10.7%	9.1%

- 放課後の時間をどのように感じているかについて、学年別に詳細に集計した結果では、「やりたいことができている」については、7割前後と全学年を通じて一定であったが、課題については大きな違いが見られた。
- 学年が上がるにつれて値が増加していたのは、「遊ぶ時間が少ない」であり、1年生と2年生では35%程度であるが、3年生・4年生になると40%前後、さらに5年生・6年生になると50%前後となっている。
- 反対に学年が上がるにつれて値が減少していたのは、「遊ぶ友だちが少ない」と「遊ぶ道具が少ない」、そして「やりたいことが見つからない」であり、それぞれ1年生では25%程度であるが、6年生になると10%程度にとどまっている。
- 他方で、「遊ぶ場所が少ない」については、学年を通じて25%前後を占めており、4人に1人が課題と感じていることがわかった。
- こうしたことから、高学年では遊び時間の確保、低学年では遊び仲間や活動の充実、そして全学年を通じて遊び場所を確保するといったように学年に応じた対応が重要であることが明らかとなった。

⑥ 放課後の時間にやりたいこと

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問10 してみたい活動	勉強をする。	70.1%	62.1%	58.8%	47.8%	43.8%	40.3%
	本やマンガを読む。	40.3%	48.4%	52.6%	54.2%	59.6%	58.8%
	おやつや料理を作る。	53.9%	59.3%	58.9%	56.7%	54.7%	48.3%
	昔遊び(竹馬やこまなど)をする。	44.2%	35.2%	33.3%	28.2%	22.3%	14.4%
	絵やイラストを描く。	46.3%	48.0%	48.8%	47.2%	40.5%	32.0%
	簡単な実験や工作をする。	56.2%	60.0%	56.9%	54.7%	46.9%	35.4%
	虫を捕ったり花を観察したりする。	40.4%	38.0%	28.4%	22.3%	19.3%	10.9%
	音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。	38.1%	40.1%	40.2%	40.5%	45.2%	52.0%
	運動やスポーツをする。	61.8%	67.1%	74.3%	70.2%	73.2%	70.1%
	大学生や大人の人と一緒に遊ぶ。	43.2%	41.8%	34.9%	27.3%	22.1%	16.1%
	友だちと一緒に遊ぶ。	83.9%	87.9%	90.6%	88.8%	89.5%	88.3%
	家の手伝いをする。	70.6%	67.8%	64.7%	60.8%	49.5%	44.0%
地域の行事やボランティア活動などに参加する。	32.9%	36.5%	38.1%	30.8%	28.2%	24.4%	

- 放課後の時間にやりたいことについて、学年別に詳細に集計した結果では、全学年を通じて「友だちと一緒に遊ぶ」が最も高く、9割程度を占めていた。その他の活動については、学年が上がるにつれて「やりたい」と回答する子どもの割合は減少している活動が多く、10ポイント以上減少していた活動だけで7つに上っている。
- 学年が上がるにつれて「やりたい」と回答する子どもの割合が減少している活動のうち、値の変化が顕著であったのは、「勉強をする」と「昔遊び(竹馬やこまなど)をする」、「虫を捕ったり花を観察したりする」、そして「大学生や大人の人と一緒に活動をする」であり、およそ30ポイント値が

減少している。

- 反対に学年が上がるにつれて「やりたい」と回答する子どもの割合が増加していた活動は、「本やマンガを読む」と「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」であり、この結果は前出の放課後によくすることの結果と同様であった。
- 「地域の行事やボランティア活動に参加する」については、3年生の結果で38.1%と最も高い割合を占めていたが、4年生の結果では30.8%に減少し、6年生では24.4%にとどまっている。
- こうしたことから、学年が上がるにつれて、放課後にいろいろなことに取り組んでみたいと考えている子どもの割合は大きく減少する傾向にあると言えるだろう。

⑦ 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問11 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターに行く頻度	毎週、行く。	6.1%	6.7%	6.7%	5.4%	6.7%	5.9%
	毎月、行く。	6.0%	7.1%	7.4%	8.8%	7.6%	6.9%
	イベントや展示の時に 行く。	13.7%	18.6%	21.5%	24.2%	21.6%	21.1%
	行ったことがある。	29.2%	40.4%	40.5%	42.4%	45.1%	50.4%
	行ったことがない。	25.6%	17.8%	15.0%	11.9%	11.9%	11.0%
	近くにあるのかわか らない。	19.4%	9.6%	8.8%	7.2%	7.1%	4.6%

- 公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンター等の社会教育施設に行く頻度について、学年別に詳細に集計した結果では、「毎週、行く」が6%前後、「毎月、行く」も7%前後となっており、定期的に利用している子どもの割合については全学年同様の結果となった。
- 「イベントや展示の時に行く」については、4年生で24.2%と最も高く、1年生の結果では13.7%にとどまっていたが、その他の学年は20%前後となっている。
- 「行ったことがない」と「近くにあるのかわからない」については、学年が上がるにつれて値は減少している。特に1年生と2年生の結果の比較において、減少幅が大きいようであった。

⑧ 児童館等の子ども向けの施設に行く頻度

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問12 児童館などの子ども向けの施設に行く頻度	毎週、行く。	6.6%	6.0%	6.9%	4.5%	3.2%	2.5%
	毎月、行く。	4.4%	6.0%	5.6%	6.2%	5.7%	4.1%
	イベントや展示の時に行く。	8.5%	10.4%	10.3%	11.9%	11.1%	9.1%
	行ったことがある。	29.2%	35.1%	40.7%	46.4%	47.5%	50.1%
	行ったことがない。	27.8%	23.6%	22.1%	19.9%	19.9%	22.3%
	近くにあるのかわからない。	23.5%	18.9%	14.4%	11.2%	12.5%	11.9%

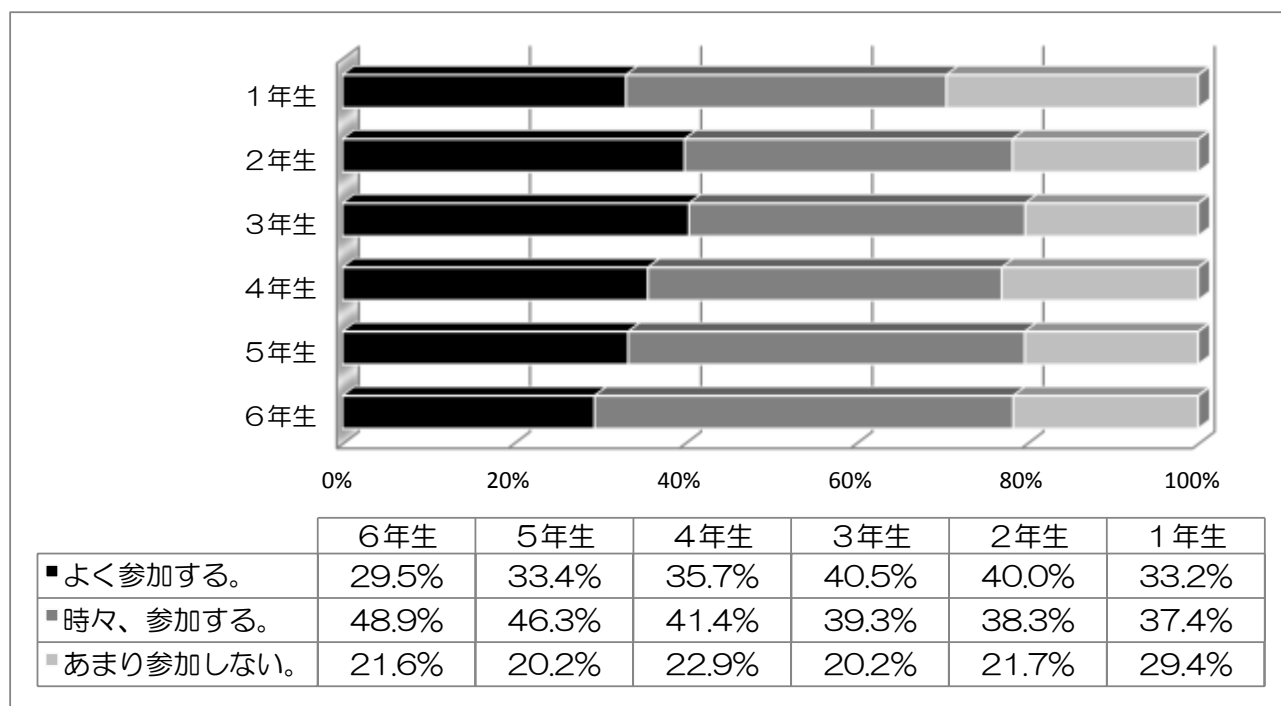
- 児童館等の子ども向けの施設に行く頻度について、学年別に詳細に集計した結果では、「毎週、行く」と「毎月、行く」を合わせた定期的な利用をしている子どもの割合が1年生から4年生までは11%前後を占めていたが、5年生では8.9%と若干低く、6年生になると6.6%とさらに低下していた。
- 「イベントや展示の時に行く」については、全学年で10%前後となっている。
- 「行ったことがある」については、学年が上がるにつれて値は増加しており、6年生では半数となる50.1%の子どもが回答している。

◎ 図書館に行く頻度

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
問13 図書館に行く頻度	毎週、行く。	7.4%	5.9%	7.0%	5.4%	5.0%	3.4%
	毎月、行く。	11.0%	11.0%	13.3%	15.1%	13.7%	11.3%
	イベントや展示の時に 行く。	4.8%	4.8%	4.1%	4.7%	4.0%	3.2%
	行ったことがある。	53.5%	62.5%	61.4%	62.9%	66.7%	71.7%
	行ったことがない。	15.5%	11.8%	10.9%	8.3%	7.5%	7.6%
	近くにあるのかわか らない。	7.8%	3.9%	3.3%	3.5%	3.1%	2.8%

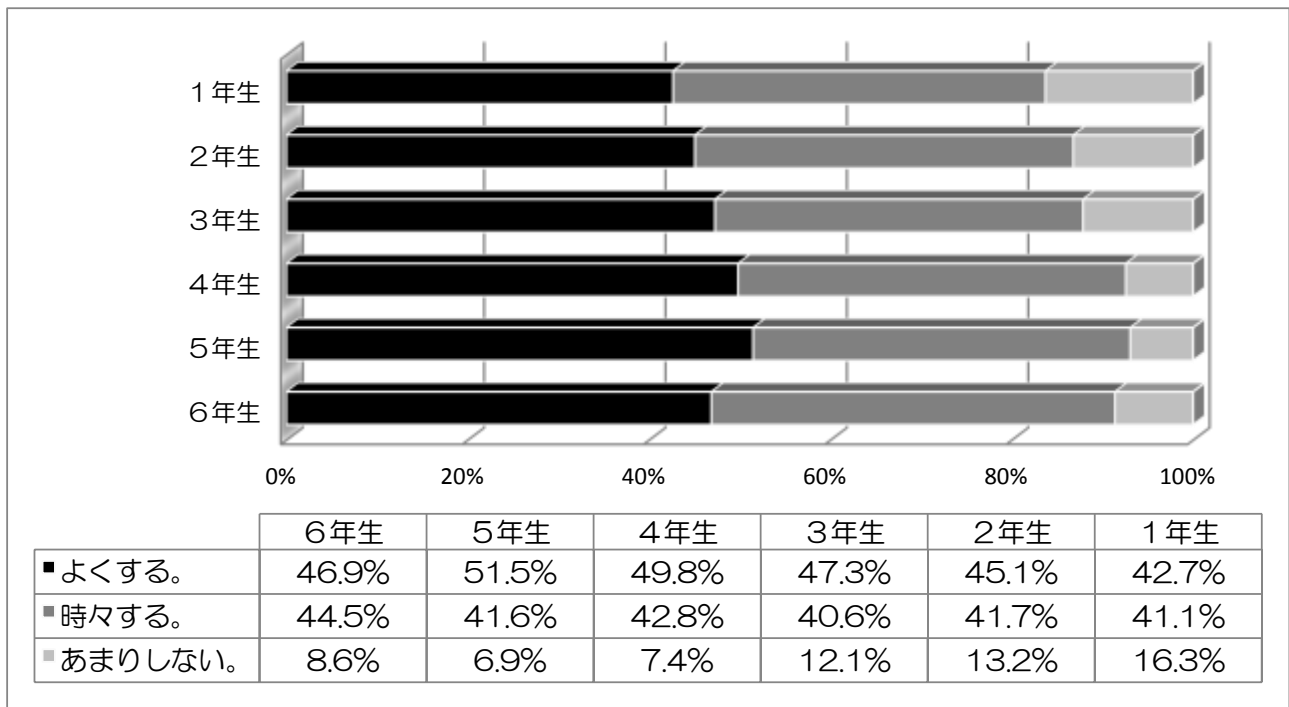
- 図書館に行く頻度について、学年別に詳細に集計した結果では、3年生と4年生の値が最も高く、「毎週、行く」と「毎月、行く」を合わせると20%近くを占めていたが、6年生では15%程度と若干低い値であった。しかしながら、前出の公民館等の社会教育施設や児童館等の子ども向けの施設と比較すると図書館の利用率は高いと言える。
- 「行ったことがない」と「近くにあるのかわからない」については、学年が上がるにつれて値は減少しており、公民館等の社会教育施設の結果と同様に、特に1年生と2年生の結果の比較において、減少幅が大きいようである。

⑩ 地域活動への参加の頻度



- 地域のお祭り等の地域行事や、清掃等のボランティア活動への参加の頻度について、学年別に詳細に集計した結果では、「よく参加する」と「時々、参加する」を合わせると1年生を除いておよそ8割に上っていた。
- 「よく参加する」については、3年生が最も高く40.5%であり、最も低かったのは6年生の29.5%であった。
- 対して、「あまり参加しない」と回答した割合は1年生で最も高く、29.4%となっていたが、その他の学年では2割程度にとどまっている。

⑪ 地域住民とのあいさつや会話等の交流の頻度



- 地域の大人と挨拶をしたり、話をしたりするなど日常的に交流している頻度について、学年別に詳細に集計した結果では、「よくする」と「時々する」と回答した子どもの割合は全学年で85%前後に上っていた。
- 「よくする」と「時々する」という回答の割合が最も高かったのは、5年生であり、93.1%に上っている。反対に最も低かったのは1年生の結果であり、83.8%であった。

2.3 地域別集計結果

2.3.1 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす場所

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
自分の家	77%	79%	78%	75%	74%	74%	78%	76%	77%	75%	80%	77%	74%	80%	77%
友だちの家	36%	41%	39%	34%	34%	34%	33%	44%	39%	30%	41%	36%	36%	36%	36%
塾 や習い事	45%	47%	46%	48%	50%	49%	49%	47%	48%	47%	47%	47%	40%	41%	41%
学校の校庭や体育館	9%	15%	12%	7%	11%	9%	5%	11%	8%	4%	15%	10%	11%	12%	12%
放課後子ども教室の活動場所	6%	2%	4%	8%	1%	4%	3%	1%	2%	2%	1%	1%	2%	2%	2%
学童(放課後児童クラブ)の活動場所	14%	3%	8%	11%	4%	7%	14%	2%	8%	23%	2%	12%	5%	3%	4%
公園、空き地、広場など	36%	43%	40%	42%	51%	47%	45%	52%	48%	44%	45%	45%	49%	45%	47%
公民館や地区センター、児童館など	3%	6%	5%	2%	8%	5%	2%	5%	3%	5%	4%	5%	4%	4%	4%
図書館、博物館、美術館など	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%	1%	2%	1%	2%	1%	4%	3%	4%
スーパーやコンビニエンスストア	6%	6%	6%	5%	5%	5%	6%	6%	6%	6%	5%	5%	7%	11%	9%
その他	5%	5%	5%	5%	4%	5%	7%	4%	5%	3%	4%	4%	10%	10%	10%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
自分の家	79%	81%	80%	81%	84%	82%	79%	82%	81%	80%	85%	82%	79%	86%	82%
友だちの家	44%	45%	45%	42%	49%	46%	33%	44%	39%	38%	51%	45%	42%	41%	41%
塾 や習い事	43%	53%	48%	47%	48%	47%	44%	45%	45%	35%	36%	36%	31%	37%	34%
学校の校庭や体育館	13%	18%	15%	16%	22%	19%	8%	13%	11%	7%	17%	12%	21%	38%	30%
放課後子ども教室の活動場所	3%	1%	2%	5%	1%	3%	10%	5%	7%	13%	4%	8%	8%	5%	7%
学童(放課後児童クラブ)の活動場所	13%	4%	8%	16%	4%	10%	14%	2%	8%	19%	1%	9%	17%	1%	9%
公園、空き地、広場など	33%	35%	34%	24%	28%	26%	29%	39%	34%	18%	38%	28%	17%	19%	18%
公民館や地区センター、児童館など	3%	4%	3%	3%	0%	1%	11%	13%	12%	2%	2%	2%	2%	3%	2%
図書館、博物館、美術館など	3%	3%	3%	1%	2%	2%	4%	2%	3%	2%	3%	2%	2%	2%	2%
スーパーやコンビニエンスストア	8%	7%	7%	6%	4%	5%	5%	6%	6%	8%	7%	8%	6%	6%	6%
その他	6%	6%	6%	3%	4%	3%	5%	5%	5%	2%	4%	3%	5%	7%	6%

○ 平日の放課後によく過ごす場所について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果

では、地域によって若干の違いがみられている。

- 「学校の校庭や体育館」については、県内全体では 12%であるが、足柄下地区の割合では 30%と高い値となっている。さらに高学年の結果では県内全体では 15%に対して、38%を占めていた。
- 「放課後子ども教室の場所」については、横浜や川崎、相模原等の政令市が 5%未満であるのに対して、県央や足柄上、足柄下地区では 7%、8%と若干高い値となっている。
- 低学年の「学童（放課後児童クラブ）の場所」を選択した割合についても、相模原では 23%、足柄上地区では 19%であるのに対して、横須賀ではわずか 5%にとどまっている。
- 「公園、空き地、広場など」については、中地区や足柄上・下地区が 25%前後であるのに対して、横浜や川崎、相模原、横須賀といった政令市と中核市では、ほぼ半数を占める 45%以上に上っている。
- 「公民館や地区センター、児童館など」については、県央地区の値が他の地域と比べて非常に高く、他の地域が 5%以下であるのに対して、倍以上の 12%を占めている。

2.3.2 平日の放課後（学校下校後～午後 5 時まで）によく過ごす人数

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
1人	7%	11%	9%	6%	10%	8%	7%	10%	8%	5%	12%	9%	6%	13%	9%
2～3人	53%	46%	50%	54%	42%	48%	53%	44%	49%	57%	48%	52%	50%	49%	49%
4～6人	25%	32%	28%	25%	34%	30%	26%	30%	28%	20%	29%	25%	31%	26%	29%
7～9人	4%	6%	5%	5%	7%	6%	3%	9%	6%	6%	5%	6%	5%	8%	6%
10人以上	11%	6%	8%	10%	7%	9%	12%	8%	9%	11%	6%	8%	8%	4%	6%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
1人	6%	10%	8%	7%	11%	9%	8%	11%	10%	11%	11%	11%	7%	12%	10%
2～3人	53%	55%	54%	54%	43%	48%	53%	45%	49%	57%	55%	56%	44%	46%	45%
4～6人	26%	30%	28%	25%	32%	29%	24%	35%	30%	22%	26%	24%	30%	34%	32%
7～9人	4%	2%	3%	4%	6%	5%	3%	4%	4%	3%	6%	4%	6%	4%	5%
10人以上	9%	3%	6%	10%	8%	9%	12%	4%	8%	8%	2%	5%	12%	4%	8%

- 平日の放課後によく過ごす人数について、県内を 9 つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。
- 「2～3人」については足柄上地区が 56%、対して足柄下地区では 45%であり、11 ポイントの違いがみられている。

2.3.3 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によく過ごす人の属性

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
1人で過ごす。	15%	22%	18%	15%	19%	17%	16%	22%	19%	14%	25%	20%	14%	22%	18%
家の人	54%	49%	51%	53%	47%	50%	55%	47%	50%	49%	46%	48%	54%	46%	50%
同じ学年の友だち	55%	73%	64%	55%	74%	65%	57%	77%	68%	61%	74%	68%	56%	71%	63%
小学校のほかの学年の人	17%	12%	15%	19%	12%	15%	14%	12%	13%	18%	13%	15%	22%	15%	18%
中学生、高校生、大学生	3%	3%	3%	3%	2%	2%	3%	3%	3%	3%	4%	4%	5%	4%	4%
学童の指導員や公民館の人など	9%	2%	5%	7%	2%	5%	7%	1%	4%	11%	0%	6%	4%	2%	3%
地域(近所)の人	4%	2%	3%	3%	2%	2%	4%	1%	3%	4%	3%	4%	5%	5%	5%
その他	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	3%	4%	4%	5%	2%	4%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
1人で過ごす。	14%	22%	18%	19%	19%	19%	13%	24%	18%	13%	26%	20%	11%	27%	19%
家の人	55%	50%	53%	55%	55%	55%	53%	50%	52%	60%	52%	56%	54%	60%	57%
同じ学年の友だち	59%	76%	68%	49%	49%	49%	52%	72%	62%	49%	71%	60%	52%	63%	58%
小学校のほかの学年の人	14%	10%	12%	18%	18%	18%	17%	13%	15%	12%	9%	11%	19%	18%	18%
中学生、高校生、大学生	4%	3%	4%	4%	4%	4%	4%	3%	4%	3%	2%	2%	5%	2%	3%
学童の指導員や公民館の人など	9%	2%	5%	10%	10%	10%	12%	1%	6%	13%	0%	6%	12%	0%	6%
地域(近所)の人	5%	3%	4%	5%	5%	5%	7%	3%	5%	3%	3%	3%	2%	1%	1%
その他	3%	4%	4%	4%	4%	4%	5%	4%	5%	2%	3%	2%	2%	4%	3%

- 平日の放課後によく過ごす人の属性について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。
- 「学童の指導員や公民館の人など」については、中地区では低学年だけでなく、高学年も10%と比較的高い割合であった。
- 「家の人」については、足柄下地区の高学年の子どもの結果では60%を占めており、県内全体の平均である49%よりも11ポイント高い結果であった。

2.3.4 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）によくすること

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
勉強をする。	72%	54%	63%	74%	57%	65%	71%	53%	62%	70%	54%	62%	69%	49%	59%
本やマンガを読む。	39%	53%	46%	41%	55%	48%	36%	49%	42%	39%	48%	44%	36%	52%	44%
テレビやDVD(ビデオ)を見る。	56%	63%	60%	55%	61%	58%	55%	61%	58%	57%	64%	60%	59%	64%	61%
音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。	22%	33%	27%	20%	32%	26%	20%	31%	25%	16%	30%	23%	24%	34%	29%
ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。	62%	63%	62%	60%	64%	62%	62%	64%	63%	60%	61%	61%	67%	60%	63%
インターネットやメールを見る。	15%	33%	24%	13%	35%	24%	16%	31%	23%	12%	32%	22%	23%	34%	28%
おしゃべりをする。	70%	67%	69%	72%	67%	69%	64%	67%	66%	74%	67%	71%	72%	69%	70%
お絵かき、あやとり、おりがみなどをする。	44%	19%	32%	45%	19%	32%	42%	17%	29%	42%	18%	30%	44%	18%	31%
ボール遊びやスポーツをする。	56%	59%	58%	55%	60%	57%	54%	60%	57%	54%	50%	52%	62%	65%	64%
鬼ごっこやかくれんぼなどをする。	45%	41%	43%	48%	47%	48%	43%	45%	44%	47%	38%	43%	50%	47%	49%
すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ。	36%	25%	31%	40%	31%	36%	35%	33%	34%	38%	21%	30%	39%	16%	28%
自分(たち)で考えた遊びをする。	58%	53%	56%	57%	54%	55%	54%	54%	54%	58%	51%	54%	65%	57%	61%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
勉強をする。	73%	52%	63%	67%	52%	59%	75%	56%	66%	65%	55%	60%	77%	50%	63%
本やマンガを読む。	44%	51%	47%	39%	58%	49%	35%	50%	43%	43%	57%	50%	34%	58%	46%
テレビやDVD(ビデオ)を見る。	60%	63%	62%	54%	64%	59%	55%	62%	59%	62%	67%	65%	60%	71%	66%
音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。	30%	37%	34%	24%	32%	28%	23%	35%	29%	20%	30%	25%	22%	30%	26%
ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。	67%	63%	65%	63%	64%	64%	59%	63%	61%	66%	62%	64%	60%	61%	60%
インターネットやメールを見る。	20%	33%	27%	15%	36%	25%	15%	30%	22%	18%	31%	25%	12%	33%	22%
おしゃべりをする。	74%	66%	70%	70%	66%	68%	68%	63%	66%	78%	68%	73%	67%	69%	68%
お絵かき、あやとり、おりがみなどをする。	45%	22%	33%	46%	20%	33%	41%	20%	30%	54%	21%	38%	41%	24%	32%
ボール遊びやスポーツをする。	61%	56%	59%	58%	66%	62%	54%	61%	58%	59%	64%	61%	55%	55%	55%
鬼ごっこやかくれんぼなどをする。	50%	39%	44%	40%	34%	37%	39%	39%	39%	42%	37%	39%	42%	27%	34%
すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ。	40%	21%	30%	28%	20%	24%	34%	24%	29%	26%	23%	24%	33%	17%	25%
自分(たち)で考えた遊びをする。	63%	49%	56%	64%	48%	56%	58%	55%	56%	63%	58%	60%	51%	53%	52%

○ 平日の放課後によくすることについて、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果で

は、地域間で大きな違いはみられていない。

- 「テレビやDVD（ビデオ）を見る」については、県内全体では60%であったが、足柄下地区では66%となっている。
- 「お絵かき、あやとり、おりがみなどをする」については、県内全体では32%であったが、足柄上地区では38%となっている。
- 「ボール遊びやスポーツをする」については、県内全体では58%であったが、横須賀市では64%となっている。

2.3.5 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）は楽しいと感じているか

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
とても楽しい。	69%	65%	67%	71%	68%	69%	70%	65%	68%	68%	62%	65%	68%	66%	67%
まあまあ楽しい。	27%	32%	30%	26%	29%	28%	26%	31%	29%	28%	34%	31%	27%	31%	29%
あまり楽しくない。	4%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	3%	4%	4%	4%	5%	3%	4%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
とても楽しい。	69%	63%	66%	64%	62%	63%	67%	64%	65%	69%	63%	66%	68%	65%	66%
まあまあ楽しい。	27%	34%	30%	31%	35%	33%	30%	33%	31%	28%	34%	31%	27%	32%	30%
あまり楽しくない。	4%	4%	4%	5%	3%	4%	4%	4%	4%	3%	3%	3%	3%	3%	3%

- 平日の放課後が楽しいかどうかを「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」、「あまり楽しくない」の三件法によって回答してもらった結果について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。いずれの選択肢においても県内全体の平均値とは4%以内の違いにとどまっている。

2.3.6 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）の時間をどのように感じているか

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
やりたいことができている。	72%	69%	70%	73%	69%	71%	71%	71%	71%	72%	64%	68%	71%	68%	70%
遊ぶ時間が少ない。	35%	49%	42%	30%	42%	36%	35%	47%	42%	36%	55%	46%	40%	54%	47%
遊ぶ場所が少ない。	26%	26%	26%	19%	23%	21%	26%	26%	26%	25%	23%	24%	35%	31%	33%
遊ぶ友だちが少ない。	23%	10%	17%	21%	9%	15%	22%	9%	15%	24%	11%	17%	27%	9%	18%
遊ぶ道具が少ない。	22%	15%	18%	18%	12%	15%	21%	15%	18%	23%	13%	18%	31%	18%	25%
やりたいことが見つからない。	22%	11%	16%	18%	8%	13%	22%	10%	16%	23%	11%	17%	25%	11%	18%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
やりたいことができている。	72%	68%	70%	72%	71%	71%	69%	69%	69%	73%	63%	68%	71%	72%	72%
遊ぶ時間が少ない。	41%	54%	47%	38%	52%	46%	38%	54%	46%	38%	56%	47%	31%	41%	36%
遊ぶ場所が少ない。	32%	28%	30%	25%	29%	27%	31%	24%	28%	20%	34%	27%	27%	25%	26%
遊ぶ友だちが少ない。	24%	11%	17%	20%	10%	15%	25%	13%	19%	23%	11%	17%	23%	14%	18%
遊ぶ道具が少ない。	25%	18%	21%	18%	14%	16%	25%	16%	20%	22%	20%	21%	24%	16%	20%
やりたいことが見つからない。	25%	15%	19%	23%	10%	16%	27%	14%	20%	21%	13%	17%	22%	12%	17%

- 平日の放課後についてどのように感じているかについて、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、「やりたいことができている」と回答した子どもの割合は70%前後であり、大きな違いはみられていない。
- 他方で、課題についてはいくつか違いがみられている。「遊ぶ時間が少ない」と回答した子どもの割合では、横浜と足柄下地区では36%にとどまっているが、相模原や横須賀、湘南三浦、中、県央、足柄上の各地区では46%、47%と10ポイント高い値となっている。
- 「遊ぶ場所が少ない」と回答した子どもの割合についても、横浜では21%であったが、湘南三浦地区で30%、横須賀では33%に上っていた。
- 「遊ぶ道具が少ない」については、横浜と中地区が15%と16%であったのに対して、横須賀では25%を占めている。
- 「やりたいことが見つからない」については、横浜が13%に対して、県央では20%となっている。
- 県内全体の結果と各地区を比較すると、横浜は5つの課題すべてが低く、対して横須賀や湘南三浦、県央については高い値となっている。

2.3.7 平日の放課後（学校下校後～午後5時まで）にやってみたいこと

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
勉強をする。	64%	44%	54%	64%	46%	55%	64%	43%	53%	66%	40%	53%	66%	47%	56%
本やマンガを読む。	47%	57%	52%	49%	60%	55%	46%	58%	52%	46%	57%	52%	45%	55%	50%
おやつや料理を作る。	58%	53%	55%	57%	53%	55%	51%	51%	51%	58%	48%	53%	61%	56%	58%
昔遊び(竹馬やこまなど)をする。	38%	22%	30%	39%	24%	32%	30%	19%	25%	38%	19%	28%	40%	25%	33%
絵やイラストを描く。	48%	40%	44%	50%	40%	45%	44%	37%	41%	50%	40%	45%	50%	40%	45%
簡単な実験や工作をする。	58%	46%	52%	57%	46%	51%	55%	44%	49%	63%	40%	51%	61%	44%	52%
虫を捕ったり花を観察したりする。	36%	17%	27%	36%	17%	26%	32%	17%	24%	37%	16%	26%	40%	16%	28%
音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。	40%	46%	43%	39%	47%	43%	36%	45%	41%	35%	42%	39%	45%	46%	45%
運動やスポーツをする。	68%	71%	69%	69%	73%	71%	66%	71%	69%	67%	64%	66%	69%	73%	71%
大学生や大人の人と一緒に遊ぶ。	40%	22%	31%	40%	21%	31%	32%	20%	26%	39%	18%	29%	45%	29%	37%
友だちと一緒に遊ぶ。	88%	89%	88%	89%	90%	89%	88%	90%	89%	89%	90%	90%	83%	86%	85%
家の手伝いをする。	68%	51%	60%	70%	52%	61%	64%	51%	57%	68%	50%	59%	67%	49%	58%
地域の行事やボランティア活動などに参加する。	36%	28%	32%	43%	32%	38%	26%	24%	25%	32%	24%	28%	37%	26%	31%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
勉強をする。	60%	38%	49%	60%	42%	51%	64%	47%	56%	58%	51%	55%	69%	49%	59%
本やマンガを読む。	51%	48%	50%	46%	62%	54%	44%	57%	51%	54%	58%	56%	43%	61%	52%
おやつや料理を作る。	64%	53%	59%	55%	54%	55%	60%	57%	58%	53%	56%	55%	60%	54%	57%
昔遊び(竹馬やこまなど)をする。	46%	23%	35%	35%	25%	30%	36%	19%	27%	37%	23%	30%	41%	20%	31%
絵やイラストを描く。	47%	37%	42%	46%	42%	44%	46%	41%	44%	51%	37%	44%	46%	47%	47%
簡単な実験や工作をする。	61%	46%	54%	55%	49%	52%	59%	48%	54%	57%	46%	52%	56%	47%	52%
虫を捕ったり花を観察したりする。	39%	17%	28%	34%	17%	25%	36%	18%	27%	35%	20%	28%	36%	21%	29%
音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。	47%	48%	47%	39%	48%	43%	39%	45%	42%	36%	45%	40%	39%	45%	42%
運動やスポーツをする。	70%	67%	69%	67%	75%	71%	66%	72%	69%	66%	75%	71%	70%	69%	70%
大学生や大人の人と一緒に遊ぶ。	45%	25%	35%	40%	23%	32%	39%	21%	30%	47%	26%	36%	44%	22%	33%
友だちと一緒に遊ぶ。	89%	84%	87%	83%	89%	86%	87%	89%	88%	86%	91%	89%	91%	89%	90%
家の手伝いをする。	67%	46%	57%	68%	54%	61%	69%	54%	62%	63%	55%	59%	67%	53%	60%
地域の行事やボランティア活動などに参加する。	38%	24%	31%	30%	30%	30%	35%	26%	31%	39%	29%	34%	40%	33%	36%

- 平日の放課後にやってみたいことについて、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、いくつかの活動で10ポイント程度の違いがみられている。
- 「勉強をする」については、県内全体が54%に対して、最も高い割合であったのが足柄下地区で59%、最も低かったのは湘南三浦地区で49%であった。
- 「昔遊び（竹馬やこまなど）をする」については、県内全体が30%に対して、最も高い割合であったのが湘南三浦地区で35%、最も低かったのは川崎で25%であった。
- 「大学生や大人の人と一緒に遊ぶ」については、県内全体が31%に対して、最も高い割合であったのが横須賀で37%、最も低かったのは川崎で26%であった。
- 「地域の行事やボランティア活動に参加する」については、県内全体が32%に対して、最も高い割合であったのが横浜で38%、最も低かったのは川崎で25%であった。
- 県内全体の平均値と各地域の結果とを比較すると、川崎の結果がほぼすべての活動について低い値となっていた。

2.3.8 公民館、市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設の利用頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	7%	6%	6%	7%	8%	7%	4%	3%	3%	7%	3%	5%	7%	7%	7%
毎月、行く。	7%	8%	7%	9%	11%	10%	5%	6%	5%	4%	6%	5%	8%	6%	7%
イベントや行事の時に行く。	18%	22%	20%	15%	15%	15%	13%	14%	13%	25%	27%	26%	10%	15%	13%
行ったことがある。	37%	46%	41%	39%	49%	44%	32%	51%	42%	38%	49%	44%	40%	49%	45%
行ったことがない。	19%	12%	15%	19%	11%	15%	28%	16%	22%	16%	10%	13%	23%	17%	20%
近くにあるのかわからない。	12%	6%	9%	12%	6%	9%	18%	9%	13%	10%	6%	8%	12%	6%	9%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	6%	4%	5%	8%	4%	6%	8%	9%	8%	13%	11%	12%	8%	6%	7%
毎月、行く。	5%	8%	7%	8%	5%	6%	8%	8%	8%	7%	9%	8%	5%	6%	5%
イベントや行事の時に行く。	18%	23%	20%	30%	43%	37%	21%	29%	25%	21%	25%	23%	24%	32%	28%
行ったことがある。	40%	44%	42%	29%	36%	33%	36%	42%	40%	35%	44%	40%	34%	36%	35%
行ったことがない。	16%	12%	14%	17%	9%	13%	16%	9%	12%	17%	8%	12%	18%	14%	16%
近くにあるのかわからない。	14%	9%	11%	8%	3%	6%	11%	3%	6%	7%	2%	4%	10%	7%	9%

- 公民館や市民館、地区センター、コミュニティセンター等の社会教育施設を利用している頻度につ

いて、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域によっていくつか違いがみられている。

- 「毎週、行く」と「毎月、行く」といった定期的な利用をしていると回答した子どもの割合では、県内全体が13%であったが、足柄上地区では20%、横浜では17%、県央地区でも16%となっていた一方で、相模原は10%、川崎はわずか8%にとどまっていた。
- 「イベントや行事の時に行く」についても同様であり、中地区では37%、足柄下地区では28%を占めていたが、川崎は13%にとどまっていた。
- 県内全体と各地区との結果の比較では、川崎の子どもが利用することが少ない傾向にあることがわかる。

2.3.9 児童館等の子ども向けの施設の利用頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	7%	3%	5%	5%	4%	4%	7%	3%	5%	14%	2%	8%	8%	5%	7%
毎月、行く。	5%	5%	5%	6%	5%	6%	4%	8%	6%	7%	6%	6%	6%	8%	7%
イベントや行事の時に行く。	10%	11%	10%	8%	8%	8%	11%	9%	10%	12%	9%	11%	7%	6%	6%
行ったことがある。	35%	48%	42%	35%	46%	41%	35%	55%	45%	48%	68%	58%	31%	49%	40%
行ったことがない。	24%	21%	22%	25%	22%	23%	24%	17%	21%	14%	12%	13%	29%	22%	26%
近くにあるのかわからない。	19%	12%	15%	20%	15%	18%	18%	8%	13%	6%	2%	4%	19%	10%	14%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	5%	2%	3%	5%	2%	3%	8%	7%	7%	7%	3%	5%	2%	1%	2%
毎月、行く。	5%	3%	4%	5%	3%	4%	6%	7%	7%	6%	5%	5%	2%	2%	2%
イベントや行事の時に行く。	8%	14%	11%	11%	13%	12%	13%	16%	14%	16%	13%	15%	6%	11%	8%
行ったことがある。	35%	43%	39%	36%	46%	42%	32%	45%	39%	37%	53%	46%	26%	31%	28%
行ったことがない。	23%	23%	23%	23%	23%	23%	26%	16%	21%	23%	21%	22%	32%	35%	34%
近くにあるのかわからない。	24%	15%	19%	20%	14%	17%	15%	9%	12%	11%	5%	8%	31%	19%	25%

- 児童館等の子ども向けの施設を利用している頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、足柄下地区で若干、利用していると回答した子どもの割合が低いものの、地域間で大きな違いはみられていない。
- 「行ったことがない」と「近くにあるのかわからない」については、県内全体では22%と15%であったが、足柄下地区では34%と25%と比較的高い割合であった。

2.3.10 図書館の利用頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	7%	5%	6%	6%	4%	5%	6%	4%	5%	5%	5%	5%	6%	5%	5%
毎月、行く。	12%	13%	13%	12%	13%	13%	10%	12%	11%	14%	14%	14%	12%	12%	12%
イベントや行事の時に 行く。	5%	4%	4%	5%	3%	4%	4%	2%	3%	5%	4%	5%	3%	4%	3%
行ったことがある。	59%	67%	63%	60%	68%	64%	55%	63%	59%	60%	69%	65%	61%	65%	63%
行ったことがない。	12%	8%	10%	12%	8%	10%	15%	12%	13%	11%	6%	8%	13%	10%	11%
近くにあるのかわか らない。	5%	3%	4%	5%	4%	4%	8%	5%	7%	5%	2%	3%	5%	4%	5%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	7%	5%	6%	7%	5%	6%	10%	6%	8%	9%	5%	7%	5%	4%	4%
毎月、行く。	10%	14%	12%	14%	16%	15%	12%	13%	12%	13%	14%	13%	13%	10%	12%
イベントや行事の時に 行く。	6%	4%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	10%	8%	9%	3%	7%	5%
行ったことがある。	61%	69%	65%	60%	69%	65%	57%	64%	61%	57%	66%	62%	60%	66%	63%
行ったことがない。	13%	5%	9%	10%	3%	6%	13%	9%	11%	10%	6%	8%	13%	9%	11%
近くにあるのかわか らない。	3%	2%	3%	4%	2%	3%	4%	2%	3%	2%	1%	2%	5%	4%	4%

- 図書館を利用している頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。

2.3.11 博物館・美術館の利用頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	1%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	1%	0%	1%	3%	0%	2%
毎月、行く。	4%	2%	3%	4%	2%	3%	2%	2%	2%	3%	2%	3%	3%	1%	2%
イベントや行事の時に行く。	7%	10%	9%	7%	10%	9%	6%	8%	7%	8%	9%	8%	10%	15%	13%
行ったことがある。	56%	65%	61%	54%	63%	59%	55%	64%	60%	53%	69%	61%	59%	63%	61%
行ったことがない。	20%	13%	16%	21%	14%	17%	23%	14%	18%	24%	11%	17%	16%	11%	14%
近くにあるのかわからない。	11%	10%	11%	12%	11%	11%	13%	11%	12%	12%	9%	10%	9%	9%	9%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
毎週、行く。	1%	1%	1%	1%	0%	1%	2%	0%	1%	2%	0%	1%	1%	0%	1%
毎月、行く。	4%	2%	3%	7%	4%	5%	4%	1%	3%	5%	2%	3%	5%	4%	4%
イベントや行事の時に行く。	6%	9%	8%	8%	12%	10%	6%	8%	7%	9%	11%	10%	11%	12%	12%
行ったことがある。	52%	64%	58%	64%	74%	70%	50%	60%	55%	61%	68%	65%	68%	70%	69%
行ったことがない。	21%	14%	18%	15%	5%	10%	26%	15%	21%	14%	9%	11%	8%	11%	9%
近くにあるのかわからない。	15%	9%	12%	5%	4%	4%	12%	15%	13%	10%	9%	10%	6%	3%	4%

- 博物館や美術館を利用している頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。
- 「行ったことがない」と回答した子どもの割合では、県内全体が16%であったのに対して、県央地区では21%と若干高い値となっており、反対に足柄下地区では9%、中地区では10%にとどまっている。

2.3.12 地域の祭り等の地域行事への参加や清掃活動等への参加頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よく参加する。	34%	31%	33%	40%	35%	37%	26%	22%	24%	30%	23%	26%	37%	35%	36%
時々、参加する。	35%	43%	39%	35%	42%	39%	33%	44%	39%	37%	44%	41%	30%	38%	34%
あまり参加しない。	21%	20%	21%	17%	19%	18%	29%	26%	27%	21%	25%	23%	20%	20%	20%
地域の行事やボランティア活動があるのかわからない。	10%	5%	7%	8%	4%	6%	11%	8%	10%	11%	8%	9%	13%	7%	10%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よく参加する。	33%	27%	30%	29%	34%	32%	33%	29%	31%	42%	42%	42%	39%	49%	44%
時々、参加する。	33%	46%	40%	34%	43%	39%	38%	46%	42%	32%	39%	35%	37%	39%	38%
あまり参加しない。	23%	20%	21%	26%	19%	23%	20%	21%	21%	19%	17%	18%	17%	11%	14%
地域の行事やボランティア活動があるのかわからない。	11%	6%	9%	10%	4%	7%	9%	5%	7%	7%	3%	5%	5%	1%	3%

- 地域の祭り等の行事や清掃等のボランティア活動に参加している頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域によって違いがみられている。
- 「よく参加する」と回答した子どもの割合では、県内全体の平均値が33%であったのに対して、足柄下地区では最も高い44%に上っており、次いで足柄上地区の42%、横浜の37%となっている。対して、最も低い値となったのは川崎で24%、相模原も26%にとどまっていた。

2.3.13 近所の大人と挨拶をしたり、話をしたりする頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よくする。	45%	49%	47%	46%	48%	47%	41%	47%	44%	36%	40%	38%	54%	56%	55%
時々する。	41%	43%	42%	42%	44%	43%	44%	45%	44%	48%	51%	49%	35%	38%	37%
あまりしない。	14%	8%	11%	11%	7%	9%	17%	8%	12%	16%	9%	13%	11%	5%	8%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よくする。	52%	51%	51%	40%	47%	44%	46%	50%	48%	43%	62%	53%	44%	53%	48%
時々する。	35%	40%	38%	42%	45%	44%	41%	42%	42%	37%	33%	35%	40%	40%	40%
あまりしない。	13%	8%	10%	17%	8%	12%	13%	8%	10%	19%	6%	12%	17%	6%	11%

- 地域の大人と挨拶や話をしたりする頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。
- 「よくする」と回答した子どもの割合では、県内全体が47%であったのに対して、最も高かったのは横須賀の55%、次いで足柄上地区の53%であり、最も低かったのは相模原で38%であった。しかしながら「時々する」を加えると、県内のいずれの地域においても90%前後に上っており、大きな違いはみられていない。

2.3.14 家庭での会話の頻度

	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よくする。	87%	88%	88%	88%	88%	88%	86%	88%	87%	90%	89%	90%	88%	89%	89%
時々する。	11%	10%	10%	10%	10%	10%	11%	10%	11%	9%	8%	8%	8%	9%	9%
あまりしない。	2%	2%	2%	1%	2%	2%	3%	2%	2%	1%	3%	2%	3%	2%	3%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よくする。	87%	89%	88%	87%	91%	89%	86%	86%	86%	84%	86%	85%	81%	87%	84%
時々する。	10%	8%	9%	12%	8%	10%	11%	12%	12%	14%	12%	13%	14%	12%	13%
あまりしない。	3%	2%	3%	1%	1%	1%	3%	1%	2%	2%	2%	2%	4%	1%	2%

- 家庭で保護者や兄弟・姉妹と会話をする頻度について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で大きな違いはみられていない。

2.3.15 山や森、川や海等の自然の中での活動体験

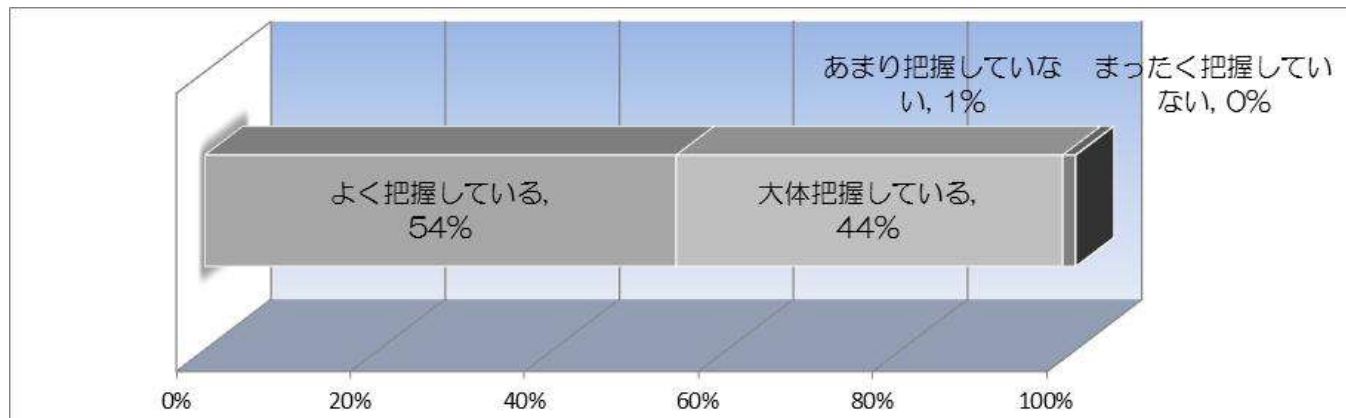
	全体			横浜			川崎			相模原			横須賀		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よく遊ぶ。	19%	17%	18%	18%	15%	16%	16%	12%	14%	13%	13%	13%	25%	17%	21%
時々遊ぶ。	37%	40%	39%	39%	39%	39%	32%	36%	34%	36%	35%	36%	32%	43%	37%
あまり遊ばない。	30%	31%	31%	31%	32%	31%	33%	31%	32%	27%	31%	29%	33%	34%	34%
近くに自然がない。	13%	12%	12%	13%	13%	13%	18%	21%	20%	23%	21%	22%	9%	7%	8%
	湘南三浦			中			県央			足柄上			足柄下		
	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体	低学年	高学年	全体
よく遊ぶ。	25%	17%	21%	16%	19%	18%	21%	21%	21%	26%	24%	25%	21%	19%	20%
時々遊ぶ。	41%	46%	43%	34%	41%	38%	37%	41%	39%	38%	42%	40%	42%	45%	44%
あまり遊ばない。	25%	29%	27%	33%	33%	33%	32%	30%	31%	27%	29%	28%	31%	34%	33%
近くに自然がない。	9%	6%	8%	17%	7%	11%	10%	8%	9%	9%	4%	6%	5%	2%	3%

- 山や森、川や海等の自然の中で活動した体験について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間でいくつか違いがみられている。
- 「よく遊ぶ」と「時々遊ぶ」を合わせた結果では、川崎と相模原がおよそ50%であるのに対して、湘南三浦地区と足柄上地区、足柄下地区ではおよそ65%に上っている。
- また、「近くに自然がない」と回答した子どもの割合では、最も値が低かった足柄下地区で3%、足柄上地区も6%であったが、相模原では22%、川崎でも20%に上っていた。

第3章 保護者向け調査の結果

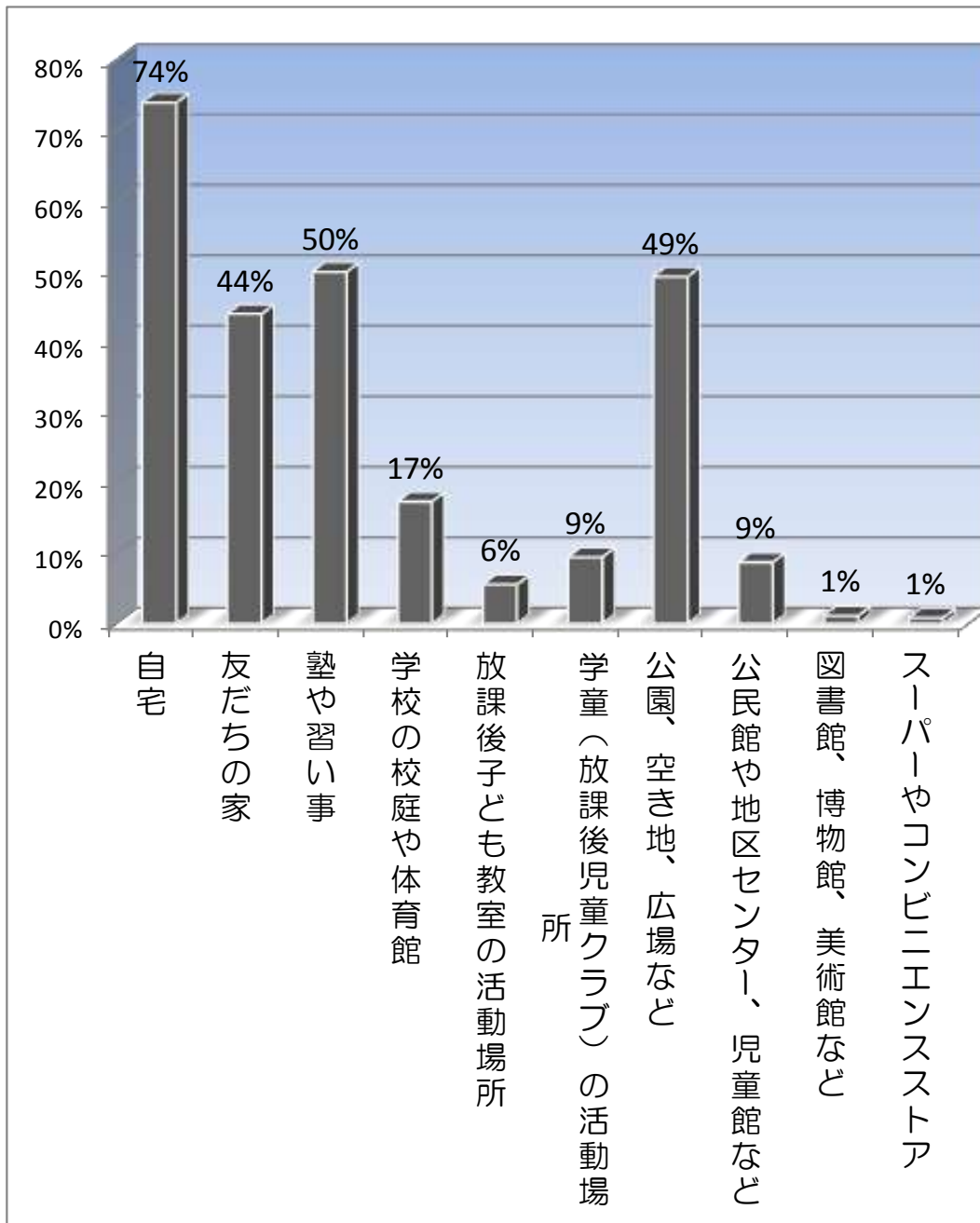
3.1 単純集計結果

3.1.1 子どもの放課後の活動場所の把握の有無



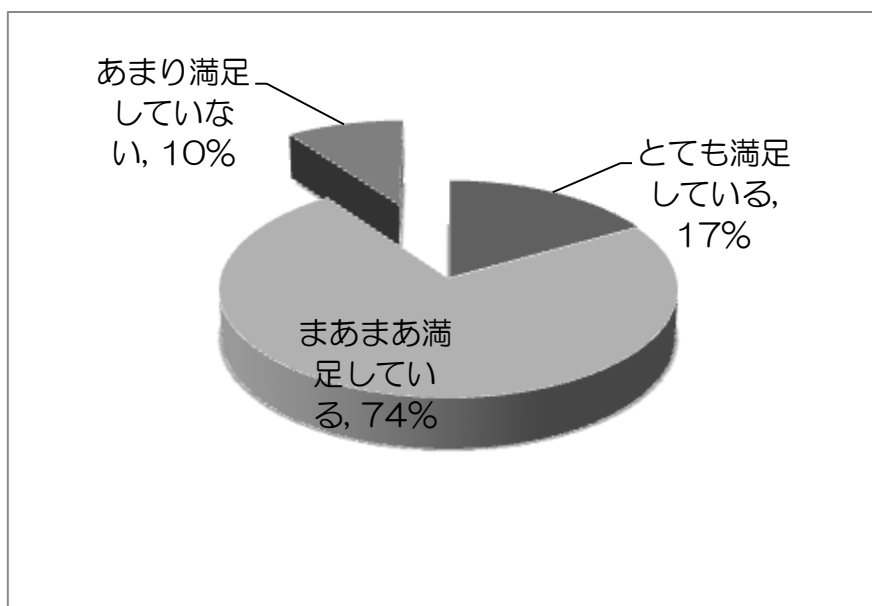
- 保護者に対して「お子さんが、放課後、どのような場所で過ごしているか、把握していますか。」と質問した結果では、「よく把握している」と回答した割合が最も高く、54%と半数を占めた。これに「大体把握している」を合わせると、実に98%に上っており、回答したほぼ全ての保護者が子どもの放課後の活動場所を把握していることがわかった。

3.1.2 子どもが放課後に活動している場所



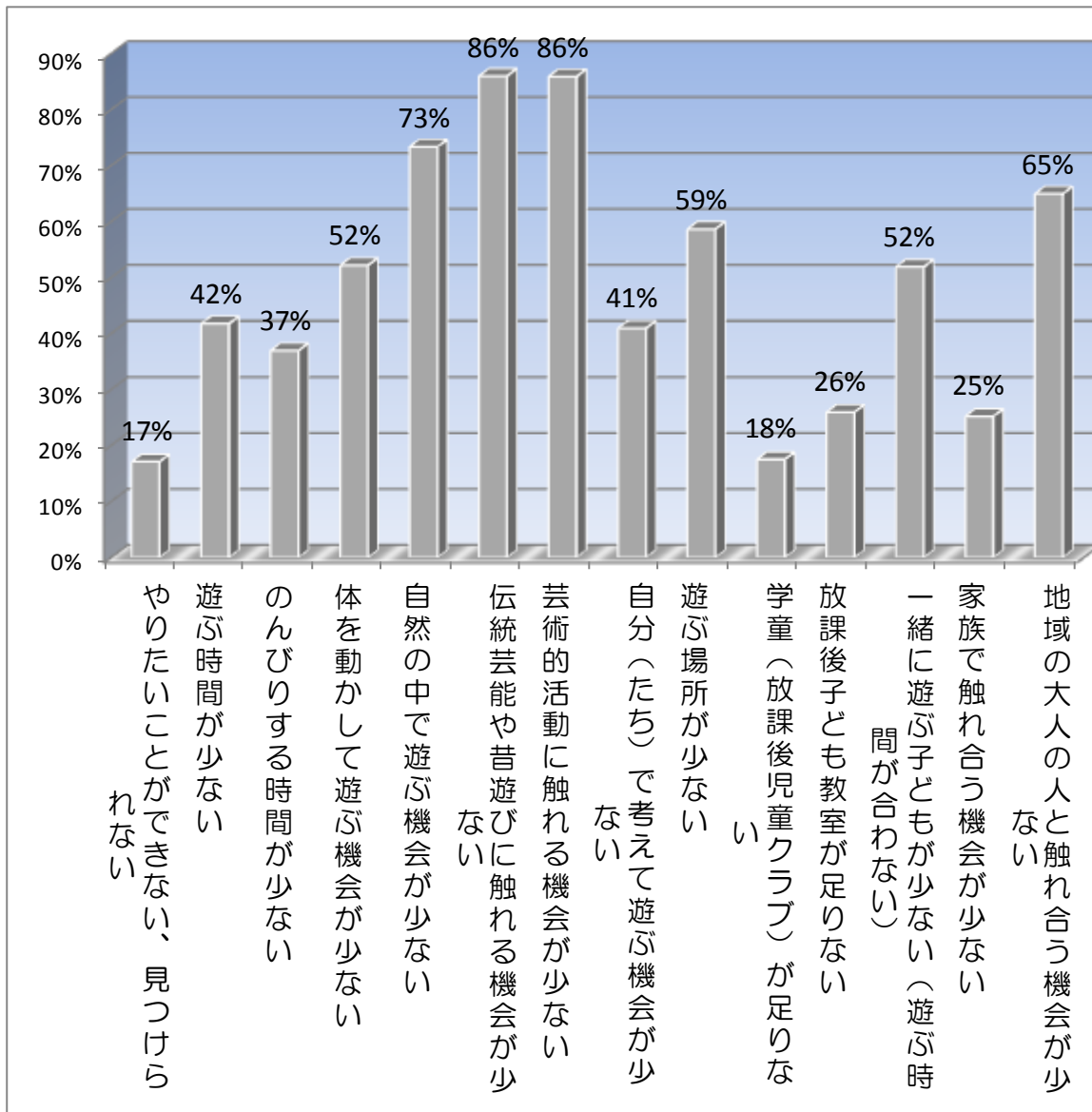
- 前出の質問で子どもの居場所を「よく把握している」と「大体把握している」と回答した保護者に対して、「お子さんが放課後、主に過ごしている（と思われる）場所を次の中から3つまで選んでください。」と質問した結果では、「自宅」という回答が最も高い割合を占め 74%に上った。次いで「塾や習い事」が50%、「公園、空き地、広場など」が49%、「友だちの家」が44%とそれぞれ半数程度になっている。
- 「公民館や地区センター、児童館など」と「放課後子ども教室の活動場所」については、それぞれ9%と6%にとどまっている。
- こうした結果は子どもに対して行った質問紙調査の結果とほぼ同じものであった。

3.1.3 子どもの放課後の過ごし方への満足度



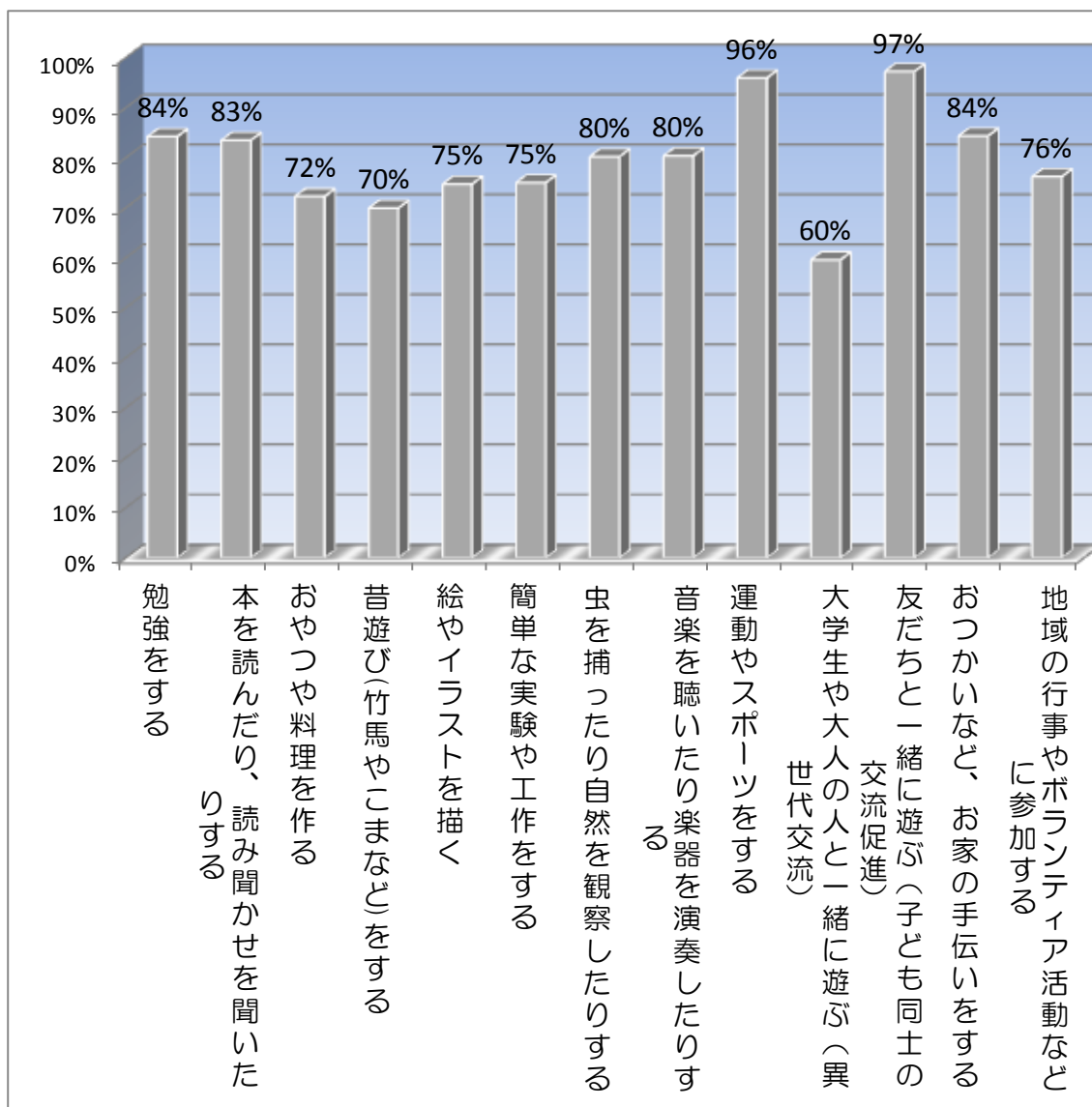
- 「お子さんの放課後の過ごし方について、満足していますか。」と質問した結果で、最も高い割合であったのは「まあまあ満足している」であり、74%を占めていた。また、「とても満足している」という回答は 17%であり、合わせると 9 割の保護者が子どもの放課後の過ごし方に満足しているという結果であった。
- 対して、「あまり満足していない」については 10%を占めており、その理由については「外で遊ばない」、「家でゲームばかりしている」といった記述が多くみられた。

3.1.4 子どもの放課後の過ごし方について、課題に思うこと



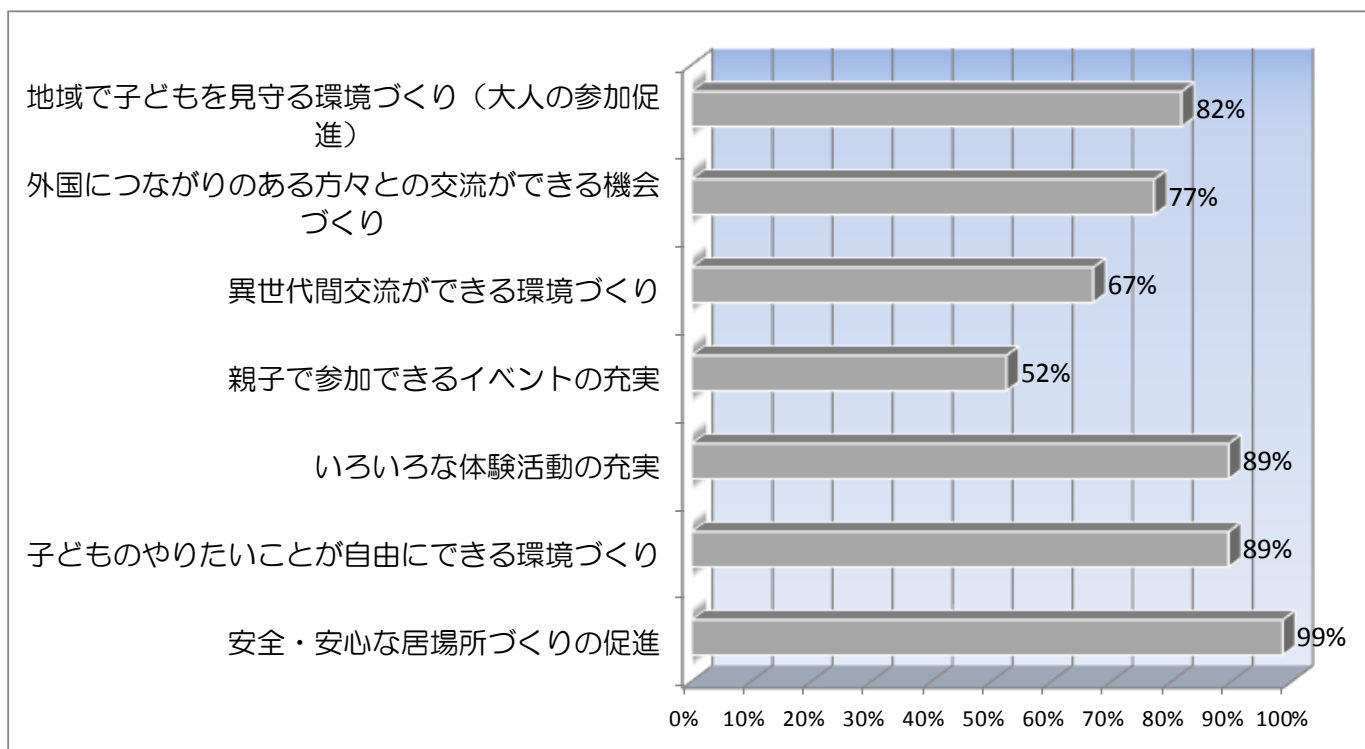
- 放課後の子どもの現状について、「はい」と「いいえ」の二件法で回答してもらった結果では、「伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない」と「芸術的な活動に触れる機会が少ない」がそれぞれ86%を占め、最も高い値であった。次いで「自然の中で遊ぶ機会が少ない」が73%、「地域の大人の人と触れ合う機会が少ない」が65%となっている。
- 半数以上の保護者が放課後の子どもの現状であると回答したのは、ほかに「遊ぶ場所が少ない」と「体を動かして遊ぶ機会が少ない」、「一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)」であった。
- 反対に最も割合が低かったのは17%を占めていた「やりたいことができない、見つけられない」であり、「学童(放課後児童クラブ)が足りない」も18%であった。
- 「放課後子ども教室が足りない」という回答の割合も26%にとどまった。

3.1.5 放課後の時間に子どもにさせたいこと



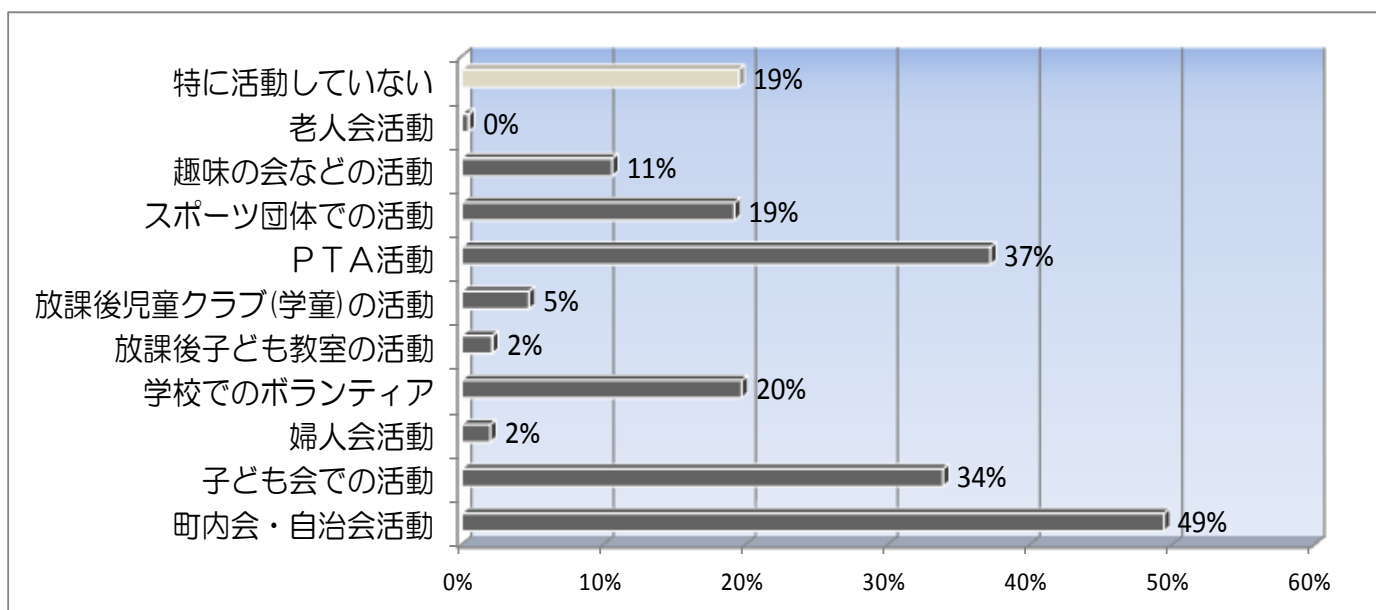
- 放課後の時間を活用して、子どもにさせたいことについて、「はい」「いいえ」の二件法で回答してもらった結果では、13個の質問項目すべてで半数以上の保護者が「させたい」と回答していた。
- 最も高い割合を占めていたのは「友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)」であり97%、次いで「運動やスポーツをする」が96%、「勉強をする」と「おつかいなど、お家の手伝いをする」がともに84%に上っていた。
- 比較的、回答が少なかったのは「大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)」であり、60%にとどまっていた。

3.1.6 子どもの放課後を充実したものにするために必要だと考えていること



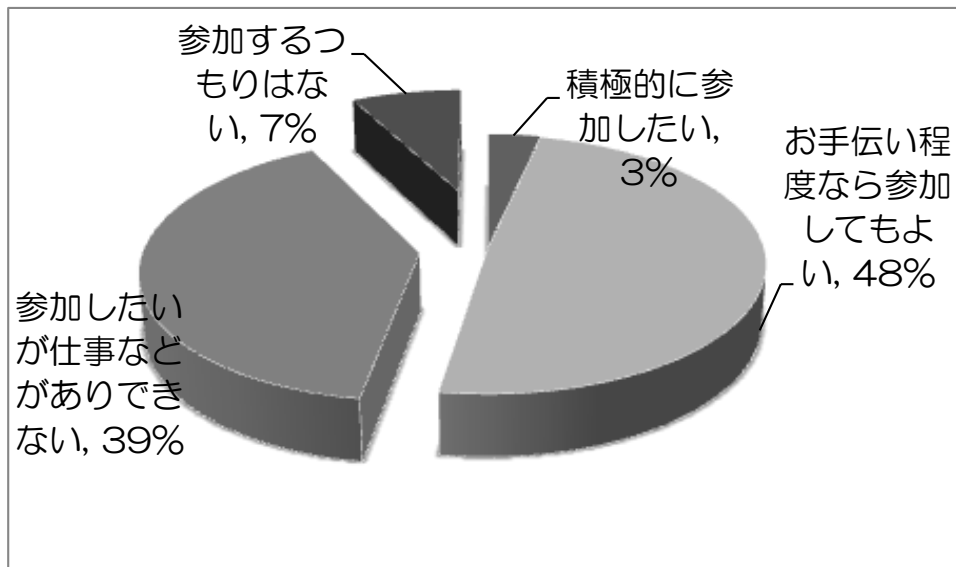
- 放課後の子どもの居場所を考えるうえで、今後、充実させてほしいことについて、「はい」「いいえ」の二件法で回答してもらった結果では、7つの質問項目すべてで半数以上の保護者が「充実させてほしい」と回答していた。
- 最も高い割合を占めていたのは「安全・安心な居場所づくりの促進」であり、実に99%に上っていた。また、「いろいろな体験活動の充実」と「子どものやりたいことが自由にできる環境づくり」についても89%と高い割合を占めていた。
- 対して、「異世代間交流ができる環境づくり」は67%、最も低い値となった「親子で参加できる環境づくり」については52%にとどまった。

3.1.7 保護者自身が地域の団体や組織で活動していること（有償・無償は問わない）



- 「あなたが参加している（有償・無償を含めて）地域の団体や組織で、あてはまるものすべてに○をつけてください。」と保護者に質問した結果では、「町内会・自治会活動」が最も高く、およそ半数の49%を占めていた。次いで「PTA活動」が37%、「子ども会での活動」が34%となっている。
- 「特に活動していない」と回答した保護者の割合は19%を占め、5人に1人は地域の団体や組織で活動していないということが明らかとなった。
- その他については、「ボーイスカウト」が17人と最も多く、次いで「幼稚園の役員」が14人、「子育てサークル」が12人、「消防団」が7人と続いている。

3.1.8 保護者自身が今後、子どもの放課後の居場所づくりに参加したいと考えているか



- 「あなたは、今後、放課後の子どもの居場所づくりに、自ら参加したいと思いますか。」と保護者に質問した結果では、「お手伝い程度なら参加してもよい」が最も高く、およそ半数の48%を占めていた。
- 次いで「参加したいが仕事などがない」が39%となっている。
- 「積極的に参加したい」については最も低い3%にとどまったが、これに「お手伝い程度なら参加してもよい」を合わせると、過半数の保護者は子どもの放課後の居場所づくりに自身も参加する意思があるということが明らかとなった。
- 「参加するつもりはない」という保護者は7%であった。

3.2 クロス集計結果

3.2.1 子どもの放課後の過ごし方について満足している保護者としていない保護者の比較

① 子どもが放課後に過ごしている場所

		問4 子どもが放課後の過ごし方について満足しているか		
		とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない
問3 子どもが放課後に過ごしていると思われる場所	自宅	63.5%	75.0%	81.1%
	友だちの家	38.3%	45.2%	43.9%
	塾や習い事	49.7%	49.7%	49.9%
	学校の校庭や体育館	18.8%	17.5%	11.6%
	放課後子ども教室の活動場所	5.2%	4.8%	4.3%
	学童(放課後児童クラブ)の活動場所	14.7%	8.4%	8.9%
	公園、空き地、広場など	46.1%	52.0%	44.5%
	公民館や地区センター、児童館など	8.6%	9.3%	7.5%
	図書館、博物館、美術館など	0.8%	1.0%	1.2%
	スーパーやコンビニエンスストア	0.4%	0.8%	1.8%

- 問4で子どもの放課後の過ごし方について満足しているかどうかについて質問した結果と、問3の子どもが放課後に過ごしていると思われる場所とをクロス集計した結果では、いくつか違いがみられている。
- 「とても満足している」と回答した保護者の群の値が「あまり満足していない」と比べて顕著に高かったのは、「学校の校庭や体育館」と「学童(放課後児童クラブ)の活動場所」であった。
- 反対に「自宅」については、「とても満足している」と回答した保護者の群の値が63.5%であるのに対して、「あまり満足していない」と回答した保護者の群の値は81.1%と高かった。
- 「塾や習い事」や「公園、空き地、広場など」、「スーパーやコンビニエンスストア」については大きな違いはみられていない。
- 「放課後子ども教室の活動場所」と「公民館や地区センター、児童館」、「図書館、博物館、美術館など」といった社会教育施設や子ども向けの施設についても、大きな違いはみられていない。

② 子どもの放課後の現状として思うこと

		問4 子どもの放課後の過ごし方について満足しているか		
		とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない
問5 子どもの放課後の現状として思うこと	やりたいことができない、見つけれられない	4.5%	16.2%	42.7%
	遊ぶ時間が少ない	32.5%	42.7%	51.7%
	のんびりする時間が少ない	32.0%	37.3%	42.3%
	体を動かして遊ぶ機会が少ない	30.4%	52.6%	80.1%
	自然の中で遊ぶ機会が少ない	58.5%	75.0%	88.3%
	伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない	77.6%	87.7%	89.7%
	芸術的活動に触れる機会が少ない	78.2%	87.7%	88.6%
	自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない	23.6%	40.9%	67.3%
	遊ぶ場所が少ない	43.3%	59.7%	76.2%
	学童(放課後児童クラブ)が足りない	12.6%	17.9%	26.7%
	放課後子ども教室が足りない	16.6%	26.6%	39.6%
	一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)	34.0%	52.3%	73.3%
	家族で触れ合う機会が少ない	16.6%	26.2%	34.1%
	地域の大人の人と触れ合う機会が少ない	54.2%	67.0%	73.6%

- 問4で子どもの放課後の過ごし方について満足しているかどうかについて質問した結果と、問5の子どもの放課後の現状として感じていることをクロス集計した結果では、いくつか違いがみられている。
- 14個の質問項目すべてにおいて、「とても満足している」と回答した保護者の群の値は低く、次いで「まあまあ満足している」と回答した保護者の群、「あまり満足していない」と回答した保護者の群ではすべての項目において最も高い値となっている。
- 特に大きな違いが見られたのは、「やりたいことができない、見つけれられない」であり、「とても満足している」と回答した保護者の群の値がわずか4.5%にとどまっているのに対して、「あまり満足していない」と回答した保護者の群では42.7%と半数近くに上っている。また、「体を動かして遊ぶ機会が少ない」と「自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない」、「一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)」についても、40ポイント近くの違いがみられている。

③ 放課後の時間を活用して子どもにやらせてみたいと思うこと

		問4 子どもの放課後の過ごし方について満足しているか		
		とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない
問6 放課後の時間を活用して子どもにやらせてみたいこと	勉強をする	84.6%	85.4%	77.4%
	本を読んだり、読み聞かせを聞いたりする	83.4%	84.2%	79.1%
	おやつや料理を作る	73.2%	71.7%	71.7%
	昔遊び(竹馬やこまなど)をする	66.5%	69.5%	75.8%
	絵やイラストを描く	76.5%	74.3%	73.5%
	簡単な実験や工作をする	73.7%	74.3%	78.8%
	虫を捕ったり自然を観察したりする	77.4%	79.7%	85.7%
	音楽を聴いたり楽器を演奏したりする	79.5%	80.3%	80.3%
	運動やスポーツをする	95.1%	96.0%	96.3%
	大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)	58.5%	59.1%	61.6%
	友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)	97.0%	97.3%	96.7%
	おつかいなど、お家の手伝いをする	85.2%	85.4%	77.6%
地域の行事やボランティア活動などに参加する	72.6%	76.8%	76.3%	

- 問4で子どもの放課後の過ごし方について満足しているかどうかについて質問した結果と、問6の放課後の時間を活用して子どもにやらせてみたいことをクロス集計した結果では、大きな違いはみられていない。
- 「勉強をする」については、「あまり満足していない」と回答した保護者の群では、他の二つの群と比べて値が若干低く、77.4%となっていた。同様に「本を読んだり、読み聞かせをきいたりする」と「おつかいなど、おうちの手伝いをする」についても「あまり満足していない」と回答した保護者の群の値は若干低い。
- 反対に「昔遊び(竹馬やこまなど)をする」と「簡単な実験や工作をする」、「虫を捕ったり自然を観察したりする」、「大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)」については、「あまり満足していない」と回答した保護者の群の値が若干高い結果となっていた。

④ 子どもの放課後を充実させるために必要だと思うこと

		問4 子どもの放課後の過ごし方について満足しているか		
		とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない
問7 子どもの放課後の居場所を充実させるために必要だと思うこと	安全・安心な居場所づくりの促進	98.0%	98.7%	97.7%
	子どものやりたいことが自由に行える環境づくり	88.5%	89.7%	89.5%
	いろいろな体験活動の充実	87.9%	90.0%	87.6%
	親子で参加できるイベントの充実	54.3%	52.9%	46.8%
	異世代間交流ができる環境づくり	65.9%	66.9%	66.1%
	外国につながるの方々との交流ができる機会づくり	76.7%	77.3%	73.6%
	地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)	79.8%	82.2%	80.0%

- 問4で子どもの放課後の過ごし方について満足しているかどうかについて質問した結果と、問7の子どもの放課後の居場所を充実させるために必要だと思うことをクロス集計した結果では、「親子で参加できるイベントの充実」について、「とても満足している」と回答した保護者の群が54.3%であったのに対して、「あまり満足していない」と回答した保護者の群では46.8%にとどまっており、違いが見られた。

⑤ 子どもの放課後の居場所づくりへの参加意思

		問4 子どもの放課後の過ごし方について満足しているか		
		とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない
問9 子どもの放課後の居場所づくりへの参加	積極的に参加したい。	5.0%	2.9%	4.9%
	お手伝い程度なら参加してもよい。	45.4%	50.2%	46.7%
	参加したいが仕事などがありできない。	38.8%	39.9%	41.2%
	参加するつもりはない。	10.8%	7.0%	7.1%

- 問4で子どもの放課後の過ごし方について満足しているかどうかについて質問した結果と、問9の子どもの放課後の居場所づくりに保護者自身が参加したいかどうかを質問した結果とをクロス集計したところ、大きな違いは見られなかった。
- 「積極的に参加したい」という割合は、「まあまあ満足している」と回答した保護者の群が、「参加したいが仕事などがありできない」は「とても満足している」と回答した保護者の群がそれぞれ若干低くなっている。反対に「参加するつもりはない」は「とても満足している」と回答した保護者の群が若干高くなっている。
- こうしたことから、保護者が子どもの放課後の現状を満足しているかどうかは、保護者自身が子どもの放課後の居場所づくりに参加したいという意思をもつかどうかと関係性は低いと言えるだろう。

3.2.2 放課後の子ども居場所づくりに参加したいと思う保護者と思わない保護者の比較

① 子どもの放課後を充実させるために必要だと思うこと

		問9 放課後の子どもの居場所づくりの活動に参加したいと思うか			
		積極的に参加したい	お手伝い程度なら参加してもよい	参加したいが仕事などがありできない	参加するつもりはない
問7 子どもの放課後の居場所を充実させるために必要だと思うこと	安全・安心な居場所づくりの促進	98.7%	98.9%	98.7%	94.6%
	子どものやりたいことができる環境づくり	91.3%	90.4%	89.3%	82.5%
	いろいろな体験活動の充実	91.0%	90.9%	90.5%	75.1%
	親子で参加できるイベントの充実	72.1%	59.1%	47.6%	28.2%
	異世代間交流ができる環境づくり	80.1%	71.4%	64.7%	41.9%
	外国につながるの方々との交流ができる機会づくり	82.3%	79.4%	76.8%	58.3%
	地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)	94.0%	86.7%	80.1%	51.2%

- 問9で保護者自身が放課後の子どもの居場所づくりの活動に参加したいと思うかどうかと、問7の子どもの放課後の居場所を充実させるために必要だと思うことについて、クロス集計した結果では、「参加するつもりはない」と回答した保護者の値が7つのすべての質問項目において他の3つの群の値よりも低いことが明らかとなった。
- 特に「親子で参加できるイベントの充実」については、「積極的に参加したい」と回答した保護者の群が72.1%に上っていたのに対して、「お手伝い程度なら参加してもよい」という群では59.1%、「参加したいが仕事などがありできない」という群になると47.6%、さらに「参加するつもりはない」という群では28.2%にとどまっていた。同様に「異世代間交流ができる環境づくり」についても「積極的に参加したい」という群では80.1%に上っていた一方で、「参加するつもりはない」という群では41.9%にとどまっている。特に「地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)」については、「参加するつもりはない」という群を除いた3つの群では8割以上が必要だと回答していたのに対して、「参加するつもりはない」という群では51.2%と半数程度にとどまっていた。
- こうしたことから、放課後の子どもの居場所づくりへの参加意欲がない保護者は、親子で参加するイベントや異世代間の交流活動、地域で子どもを見守る環境づくり等に対して必要だと感じる割合が少ないことが明らかとなった。

② 地域の団体や組織で現在活動していること

		問9 放課後の子どもの居場所づくりの活動に参加したいと思うか			
		積極的に参加したい	お手伝い程度なら参加してもよい	参加したいが仕事などがありできない	参加するつもりはない
問8 地域の団体や組織で現在活動しているもの	町内会・自治会活動	63.7%	54.5%	44.4%	41.5%
	子ども会での活動	43.8%	38.3%	29.8%	25.6%
	婦人会活動	4.6%	2.6%	1.2%	1.5%
	学校でのボランティア	41.2%	26.1%	12.1%	12.0%
	放課後子ども教室の活動	7.2%	2.4%	1.7%	0.6%
	放課後児童クラブ(学童)の活動	8.8%	2.8%	7.4%	1.9%
	PTA活動	55.6%	43.3%	30.4%	30.8%
	スポーツ団体での活動	28.8%	20.8%	17.9%	13.2%
	趣味の会などの活動	23.5%	13.6%	7.0%	5.5%
	老人会活動	1.0%	0.5%	0.4%	0.4%
	特に活動していない	6.2%	14.2%	25.7%	30.0%

- 問9で保護者自身が放課後の子どもの居場所づくりの活動に参加したいと思うかどうかと、保護者自身が現在、地域の団体や組織で活動しているものは何かについて質問した結果とをクロス集計したところ、「参加するつもりはない」と回答した保護者の群では質問項目として挙げた10の組織・活動すべてで活動している割合が低いことが明らかとなった。
- 特に「学校でのボランティア」については、「積極的に参加したい」と回答した保護者の群の値では41.2%と半数程度を占めたものの、「参加するつもりはない」の群ではわずか12.0%にとどまっていた。「趣味の会などの活動」についても、「積極的に参加したい」の群では23.5%であったのに対して、「参加するつもりはない」はわずか5.5%であった。
- 反対に「特に活動していない」については、「積極的に参加したい」と回答した保護者の群の値では6.2%にとどまっていたのに対して、「お手伝い程度なら参加してもよい」の群で14.2%、「参加したいが仕事などがありできない」の群では25.7%、さらに「参加するつもりはない」の群では30.0%

となっていた。

- こうしたことから、放課後の子どもの居場所づくりに参加しようという意思がある保護者ほど、現在、様々な地域の団体や組織で活動しており、参加しようという意思のない保護者は現在も活動している割合が少ないということがわかった。

3.3 地域別集計結果

3.3.1 子どもの放課後の活動場所の把握の有無

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
よく把握している	54%	57%	48%	51%	45%
大体把握している	44%	42%	50%	48%	53%
あまり把握していない	1%	1%	2%	1%	1%
まったく把握していない	0%	0%	0%	0%	0%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
よく把握している	51%	57%	57%	57%	60%
大体把握している	47%	41%	42%	40%	38%
あまり把握していない	2%	2%	1%	3%	2%
まったく把握していない	0%	0%	0%	0%	0%

- 子どもの放課後の活動場所を把握しているかどうかについて、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間による大きな違いはみられていない。
- 「よく把握している」については、足柄上地区では60%と最も高く、川崎は48%と最も低い値であった。

3.3.2 子どもが放課後に活動している場所

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
自宅	74%	73%	73%	74%	72%
友だちの家	44%	36%	45%	39%	41%
塾や習い事	50%	59%	54%	49%	42%
学校の校庭や体育館	17%	11%	7%	12%	21%
放課後子ども教室の活動場所	6%	7%	2%	2%	2%
学童(放課後児童クラブ)の活動場所	9%	9%	12%	12%	3%
公園、空き地、広場など	49%	58%	59%	53%	60%
公民館や地区センター、児童館など	9%	8%	9%	11%	11%
図書館、博物館、美術館など	1%	1%	1%	1%	3%
スーパーやコンビニエンスストア	1%	1%	1%	1%	1%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
自宅	74%	77%	74%	78%	75%
友だちの家	53%	55%	44%	52%	45%
塾や習い事	49%	50%	43%	42%	33%
学校の校庭や体育館	28%	29%	16%	12%	35%
放課後子ども教室の活動場所	4%	2%	10%	10%	10%
学童(放課後児童クラブ)の活動場所	8%	11%	8%	12%	9%
公園、空き地、広場など	50%	35%	40%	34%	22%
公民館や地区センター、児童館など	7%	2%	18%	4%	6%
図書館、博物館、美術館など	2%	0%	1%	2%	1%
スーパーやコンビニエンスストア	0%	1%	1%	2%	0%

- 子どもの放課後の活動場所を把握していると回答した保護者に対して、子どもが活動していると思われる場所について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間で様々な違いがみられている。
- 「友だちの家」については、県内全体の平均は44%であったが、最も低い値となったのは横浜で36%、次いで相模原が39%であり、対して最も値が高かったのは中地区であり55%、湘南三浦地区も53%といったように違いがみられている。
- 「塾や習い事」については、横浜と川崎の値が高く、59%と54%といったように半数以上であったが、それ以外の地域では50%以下となっており、最も低かった足柄下地区では33%にとどまっている。
- 「学校の校庭や体育館」については、横浜や川崎、相模原といった政令市で10%前後であったのに対して、足柄下地区では35%、中地区や湘南三浦地区も30%程度と大きな違いがみられている。
- 「公園、空き地、広場など」については、横須賀や横浜、川崎が60%程度であったが、最も低い値となった足柄下地区は22%、また足柄上地区と中地区も35%程度にとどまっている。

- 「公民館や児童館、地区センターなど」については、県内全体の平均が 9%であり、最も低い値であった中地区では 2%、対して最も高い値であった県央地区では 18%と違いがみられている。
- これらの結果から、放課後に子どもがよく過ごす場所については、神奈川県内でも地域による違いが小さいとはいえ、地域ごとの特徴があることが明らかとなった。

3.3.3 子どもの放課後の過ごし方への満足度

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
とても満足している	17%	18%	14%	16%	16%
まあまあ満足している	74%	74%	74%	71%	76%
あまり満足していない	10%	8%	12%	12%	8%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
とても満足している	18%	16%	15%	13%	21%
まあまあ満足している	74%	74%	73%	77%	68%
あまり満足していない	8%	10%	12%	9%	11%

- 子どもの放課後の過ごし方について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計した結果では、地域間によって大きな違いはみられていない。
- いずれの地域においても最も高い割合を占めていたのは「まあまあ満足している」であり、7割前後、それに「とても満足している」を加えると、9割前後の保護者が子どもの放課後の過ごし方について満足していることがわかった。
- 対して「あまり満足していない」と回答した保護者の割合は全ての地域で1割前後にとどまっている。

3.3.4 子どもの放課後の現状について、課題に思うこと

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
やりたいことができない、見つけられない	17%	16%	18%	20%	15%
遊ぶ時間が少ない	42%	36%	39%	55%	43%
のんびりする時間が少ない	37%	37%	34%	44%	39%
体を動かして遊ぶ機会が少ない	52%	50%	53%	55%	48%
自然の中で遊ぶ機会が少ない	73%	74%	84%	81%	71%
伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない	86%	88%	88%	90%	85%
芸術的活動に触れる機会が少ない	86%	87%	87%	88%	86%
自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない	41%	39%	41%	46%	37%
遊ぶ場所が少ない	59%	52%	65%	60%	61%
学童(放課後児童クラブ)が足りない	18%	14%	14%	30%	30%
放課後子ども教室が足りない	26%	20%	23%	35%	38%
一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)	52%	49%	51%	56%	52%
家族で触れ合う機会が少ない	25%	25%	28%	29%	22%
地域の大人の人と触れ合う機会が少ない	65%	66%	70%	69%	61%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
やりたいことができない、見つけられない	15%	17%	18%	18%	22%
遊ぶ時間が少ない	40%	43%	50%	50%	38%
のんびりする時間が少ない	33%	37%	42%	39%	31%
体を動かして遊ぶ機会が少ない	52%	54%	53%	57%	51%
自然の中で遊ぶ機会が少ない	70%	76%	66%	68%	61%
伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない	83%	87%	83%	88%	79%
芸術的活動に触れる機会が少ない	84%	84%	87%	89%	81%
自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない	42%	44%	43%	37%	39%
遊ぶ場所が少ない	57%	67%	59%	66%	61%
学童(放課後児童クラブ)が足りない	16%	16%	19%	20%	15%
放課後子ども教室が足りない	30%	30%	25%	32%	24%
一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)	48%	53%	54%	58%	61%
家族で触れ合う機会が少ない	23%	24%	26%	30%	22%
地域の大人の人と触れ合う機会が少ない	64%	68%	62%	69%	50%

- 放課後の子どもの現状として課題に感じていることを「はい」と「いいえ」の二件法によって回答した結果を、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計したところ、地域間で様々な違いがみられている。すべての地域で半数以上となったのは、「伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない」と「芸術的活動に触れる機会が少ない」、「自然の中で遊ぶ機会が少ない」、「地域の大人の人と触れ合う機会が少ない」、そして「遊ぶ場所が少ない」であった。
- 地域間で10ポイント以上の違いが見られた課題としては、「遊ぶ時間が少ない」では、最も低い値であった横浜では36%にとどまっているが、相模原では55%に上っている。

- 「自然の中で遊ぶ機会が少ない」については、足柄下地区で61%、県央地区でも66%となっているが、対して川崎では84%、相模原でも81%を占めている。
- 「遊ぶ場所が少ない」については、横浜は最も値が低く52%であったが、中地区では67%、足柄上地区で66%、川崎も65%を占めていた。
- 「学童（放課後児童クラブ）が足りない」については、横浜と川崎は14%にとどまっていたが、相模原と横須賀では30%に上っている。
- 「放課後子ども教室が足りない」については、最も低い値であった横浜で20%、最も高い値であった横須賀では38%、次いで相模原でも35%となっており、これについては自由記述においても「子ども教室をつくってほしい」という記述が多く見られていた。
- 「一緒に遊ぶ子どもが少ない（遊ぶ時間が合わない）」についても、最も低い値であった湘南三浦が48%であったのに対して、足柄下地区では61%となっていた。
- これらの結果から、県内いずれの地域においても多くの保護者は伝統芸能や芸術的活動、自然体験等の様々な体験活動の機会の充実を求めている一方で、遊び時間や仲間の確保、学童や放課後子ども教室の整備については地域によって違いがみられることが明らかとなった。

3.3.5 放課後の時間に子どもにさせたいこと

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
勉強をする	84%	87%	88%	87%	82%
本を読んだり、読み聞かせを聞いたりする	83%	86%	87%	85%	82%
おやつや料理を作る	72%	74%	74%	71%	72%
昔遊び(竹馬やこまなど)をする	70%	72%	70%	66%	69%
絵やイラストを描く	75%	77%	75%	76%	75%
簡単な実験や工作をする	75%	79%	76%	74%	73%
虫を捕ったり自然を観察したりする	80%	82%	79%	77%	79%
音楽を聴いたり楽器を演奏したりする	80%	82%	81%	78%	79%
運動やスポーツをする	96%	96%	97%	96%	95%
大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)	60%	59%	59%	57%	59%
友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)	97%	98%	97%	98%	97%
おつかいなど、お家の手伝いをする	84%	86%	86%	83%	88%
地域の行事やボランティア活動などに参加する	76%	78%	77%	75%	76%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
勉強をする	80%	82%	82%	80%	83%
本を読んだり、読み聞かせを聞いたりする	79%	82%	80%	81%	83%
おやつや料理を作る	72%	71%	71%	64%	73%
昔遊び(竹馬やこまなど)をする	71%	70%	68%	66%	70%
絵やイラストを描く	75%	73%	71%	69%	74%
簡単な実験や工作をする	73%	74%	73%	66%	75%
虫を捕ったり自然を観察したりする	81%	81%	77%	79%	82%
音楽を聴いたり楽器を演奏したりする	83%	81%	79%	73%	79%
運動やスポーツをする	96%	96%	94%	96%	97%
大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)	58%	61%	60%	59%	66%
友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)	97%	96%	97%	96%	98%
おつかいなど、お家の手伝いをする	80%	85%	82%	81%	86%
地域の行事やボランティア活動などに参加する	72%	77%	76%	71%	81%

- 放課後の時間に子どもにやらせたいことについて「はい」と「いいえ」の二件法によって回答した結果を、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計したところ、大きな違いは見られなかった。
- 13個の活動内容すべてに対して、いずれの地域においても半数以上の保護者が「させたい」と回答していたが、「運動やスポーツをする」と「友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)」が最も高い割合であり、いずれの地域においても94%以上の値となっている。
- 「簡単な実験や工作をする」と「音楽を聴いたり楽器を演奏したりする」については、足柄上地区ではそれぞれ66%と73%となっており、他の地域と比べて若干低い値となっていた。

3.3.6 子どもの放課後を充実したものにするために必要だと考えていること

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
安全・安心な居場所づくりの促進	99%	99%	99%	97%	98%
子どものやりたいことが自由にできる環境づくり	89%	90%	90%	90%	88%
いろいろな体験活動の充実	89%	89%	90%	87%	89%
親子で参加できるイベントの充実	52%	51%	54%	53%	58%
異世代間交流ができる環境づくり	67%	68%	66%	64%	68%
外国につながるの方々との交流ができる機会づくり	77%	79%	76%	74%	77%
地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)	82%	82%	82%	82%	83%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
安全・安心な居場所づくりの促進	99%	98%	98%	98%	98%
子どものやりたいことが自由にできる環境づくり	91%	90%	88%	86%	89%
いろいろな体験活動の充実	91%	89%	89%	88%	92%
親子で参加できるイベントの充実	53%	52%	49%	49%	58%
異世代間交流ができる環境づくり	64%	70%	65%	64%	71%
外国につながるの方々との交流ができる機会づくり	78%	76%	75%	73%	81%
地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)	82%	81%	80%	76%	86%

- 子どもの放課後をより充実させるために必要だと考えていることについて、「はい」と「いいえ」の二件法によって回答した結果を、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計したところ、大きな違いは見られなかった。

3.3.7 保護者自身が地域の団体や組織で活動していること（有償・無償は問わない）

	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
町内会・自治会活動	49%	52%	33%	53%	51%
子ども会での活動	34%	40%	15%	40%	24%
婦人会活動	2%	2%	3%	2%	2%
学校でのボランティア	20%	22%	20%	17%	22%
放課後子ども教室の活動	2%	2%	1%	1%	1%
放課後児童クラブ(学童)の活動	5%	5%	3%	4%	4%
PTA活動	37%	36%	36%	30%	31%
スポーツ団体での活動	19%	15%	18%	19%	21%
趣味の会などの活動	11%	12%	9%	10%	8%
老人会活動	0%	0%	0%	0%	0%
特に活動していない	19%	17%	28%	18%	24%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
町内会・自治会活動	50%	50%	58%	60%	49%
子ども会での活動	33%	36%	34%	42%	62%
婦人会活動	2%	1%	3%	1%	2%
学校でのボランティア	16%	15%	18%	12%	35%
放課後子ども教室の活動	2%	3%	5%	4%	4%
放課後児童クラブ(学童)の活動	5%	8%	3%	6%	2%
PTA活動	37%	40%	47%	37%	45%
スポーツ団体での活動	21%	21%	22%	26%	23%
趣味の会などの活動	11%	13%	12%	12%	9%
老人会活動	1%	0%	0%	2%	0%
特に活動していない	18%	18%	17%	15%	14%

- 保護者自身が現在、地域の団体や組織で参加している活動について、県内を9つの居住地区に分類し、地域別に集計したところ、地域間によって違いがいくつかみられている。
- 「町内会・自治会活動」については、県内全体の平均49%となっており、最も高い値であった足柄上地区では60%、県央地区でも58%を占めていたが、川崎は他の地区と比べて33%と非常に低い値となっている。
- 「子ども会での活動」についても地域によって大きな違いがみられており、足柄下地区では62%と他の地域よりも非常に高く、次いで足柄上地区の42%、横浜や相模原の40%となっているが、川崎は15%と他の地域と比べて非常に低い値となっている。
- 「学校でのボランティア」についても足柄下地区の値は35%と高く、対して足柄上地区では12%にとどまっている。
- 「PTA活動」については、県央地区が高く47%、次いで足柄下地区が45%と半数近くを占めており、対して相模原では30%、横須賀では31%にとどまっている。

- 「特に活動していない」については、県内全体の平均は 19%であり、最も低い値であったのは足柄上地区の 14%であり、最も高い値であったのは川崎で 28%となっていた。
- その他については、横浜市では子育てサークルが 6 人と最も多く、次いでボーイスカウトと幼稚園役員が 3 人であった。同様に川崎市は幼稚園役員が 4 人、学童保育役員とボーイスカウトが 3 人、相模原市も子育てサークルが 4 人、ボーイスカウトが 3 人、横須賀市ではおやこ劇場とボーイスカウトがそれぞれ 3 人、湘南三浦地区もボーイスカウトが 4 人などとなっている。なお、その他の 4 地区については 3 人以上の回答はみられていない。

3.3.8 保護者自身が今後、子どもの放課後の居場所づくりに参画したいと考えているか

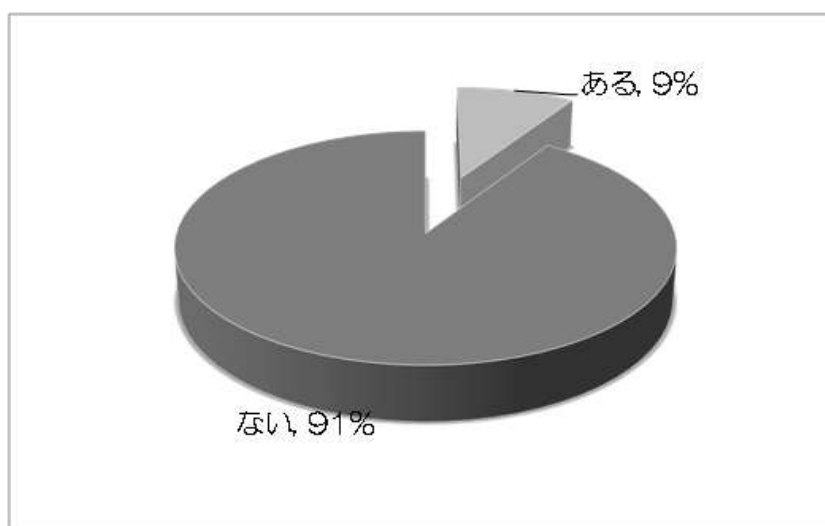
	全体	横浜	川崎	相模原	横須賀
積極的に参加したい	3%	3%	3%	3%	4%
お手伝い程度なら参加してもよい	48%	52%	49%	48%	52%
参加したいが仕事などがありできない	39%	36%	38%	39%	37%
参加するつもりはない	7%	8%	8%	8%	6%
	湘南三浦	中	県央	足柄上	足柄下
積極的に参加したい	5%	2%	4%	2%	6%
お手伝い程度なら参加してもよい	48%	49%	44%	39%	40%
参加したいが仕事などがありできない	37%	39%	43%	45%	45%
参加するつもりはない	8%	7%	6%	10%	6%

- 保護者自身が今後、子どもの放課後の居場所づくりに参加したいかどうかについて、県内を 9 つの居住地区に分類し、地域別に集計したところ、地域間で大きな違いはみられなかった。
- 「積極的に参加したい」と「お手伝い程度なら参加してもよい」を合わせた割合では、多くの地域が 5 割前後を占めていた。しかし、足柄下地区については、41%と若干低い値となっている。「参加するつもりはない」については、いずれの自治体においても 1 割以下となっている。

第4章 市町村向け調査の結果

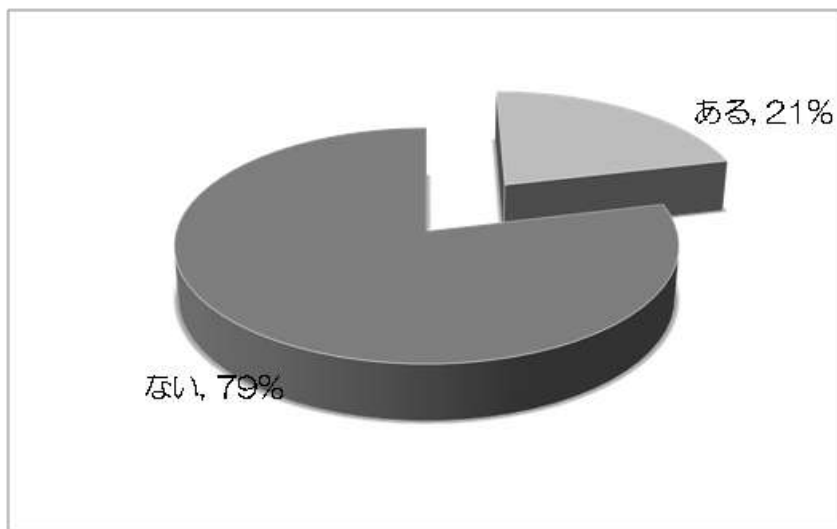
4.1 単純集計結果

4.1.1 市町村内において、放課後、児童が運動場（校庭）を使用できない状況にある小学校があるか【運動場の使用状況】



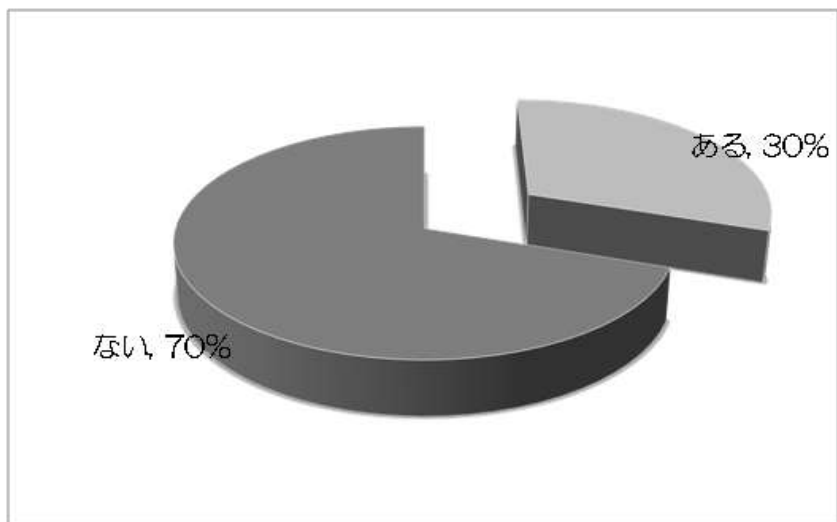
- 放課後に児童が運動場（校庭）を使用できない状況にある小学校が市町村内にあるかどうかを質問した結果では、「ある」と回答した自治体は9%にとどまった。県内の多くの自治体では校庭開放が行われているようである。
- 「ある」と回答した自治体の具体的な理由については、①市事業によって使用しているため、②一部の小学校では、毎日ではないが学校開放利用団体がサッカーや少年野球で使用するため、と具体的な記述が見られた。

4.1.2 市町村内において、放課後、児童の体育館使用を許可している小学校はあるか【体育館の使用状況】



- 放課後に児童が体育館を使用することのできる小学校があるかどうかを質問した結果では、21%の自治体が「ある」と回答していた。前出の校庭開放の結果と比べると、開放率は非常に低いことがわかる。

4.1.3 市町村内において、放課後、図書館や音楽室、特別教室等の使用を児童に許可している小学校はあるか【校舎内施設の使用状況の使用状況】



- 放課後に児童が図書室や音楽室、特別教室等の使用ができる小学校があるかどうか質問した結果では、体育館の結果よりも若干高い30%の自治体が「ある」と回答していた。
- 具体的には、図書室（8自治体）、図工室（3自治体）、会議室（2自治体）、生活科室（2自治体）そして音楽室と特別活動室、多目的教室となっている。

4.1.4 各市町村内における放課後の子どもの居場所づくりに関する施策の実施状況

	小学校数	放課後子ども教室数 (類似施設も含む)	設置率 (対小学校数)	放課後児童クラブ数 (学童保育)	設置率 (対小学校数)		小学校数	放課後子ども教室数 (類似施設も含む)	設置率 (対小学校数)	放課後児童クラブ数 (学童保育)	設置率 (対小学校数)
横浜市	344	349	101.5%	284	82.6%	南足柄市	6	2	33.3%	8	133.3%
川崎市	113	113	100.0%	113	100.0%	綾瀬市	10	10	100.0%	12	120.0%
相模原市	72	12	16.7%	66	91.7%	葉山町	4	0	0.0%	6	150.0%
横須賀市	47	5	10.6%	54	114.9%	寒川町	5	5	100.0%	5	100.0%
平塚市	28	1	3.6%	35	125.0%	大磯町	2	2	100.0%	2	100.0%
鎌倉市	16	1	6.3%	16	100.0%	二宮町	3	1	33.3%	3	100.0%
藤沢市	35	2	5.7%	45	128.6%	中井町	2	0	0.0%	2	100.0%
小田原市	25	1	4.0%	32	128.0%	大井町	3	0	0.0%	2	66.7%
茅ヶ崎市	19	17	89.5%	24	126.3%	松田町	2	0	0.0%	2	100.0%
逗子市	5	5	100.0%	5	100.0%	山北町	3	1	33.3%	2	66.7%
三浦市	8	0	0.0%	4	50.0%	開成町	2	1	50.0%	2	100.0%
秦野市	13	1	7.7%	22	169.2%	箱根町	3	0	0.0%	3	100.0%
厚木市	23	1	4.3%	27	117.4%	真鶴町	1	1	100.0%	1	100.0%
大和市	19	19	100.0%	20	105.3%	湯河原町	3	1	33.3%	3	100.0%
伊勢原市	10	0	0.0%	15	150.0%	愛川町	6	6	100.0%	6	100.0%
海老名市	13	13	100.0%	21	161.5%	清川村	2	1	50.0%	1	50.0%
座間市	11	0	0.0%	13	118.2%	※座間市では類似事業として「ごま遊友クラブ」を実施					

○ 放課後子ども教室（類似施設を含む）と放課後児童クラブ（学童保育）について、各自治体が設置する施設数を回答してもらった。回答結果を基に、小学校数に対する設置の割合を算出したのが、上の表である。

- 放課後児童クラブの設置率ではすべての自治体が50%以上となっており、さらに県内33自治体のうち27自治体では100%以上と高い割合であった。対して、放課後子ども教室（類似施設を含む）の実施数に関する結果では、半数以上の小学校区で実施している自治体はわずか13自治体であり、さらに100%以上の設置率の自治体は10自治体と、県内の三分の一程度にとどまっていた。
- こうしたことから、放課後児童クラブ（学童保育）に比べると、まだまだ放課後子ども教室は県内で十分に定着していないという現状が明らかとなった。
- なお、平成24年5月現在で、県内で国庫補助を活用して実施されている放課後子ども教室は919か所、放課後児童クラブ（学童保育）は629か所となっている。（県生涯学習課及び次世代育成課調べ、『平成24年版 神奈川県子ども・子育て支援白書』参照）

4.1.5 放課後の子どもの居場所づくりや地域と児童との交流を目的として、独自に取り組んでいる事業

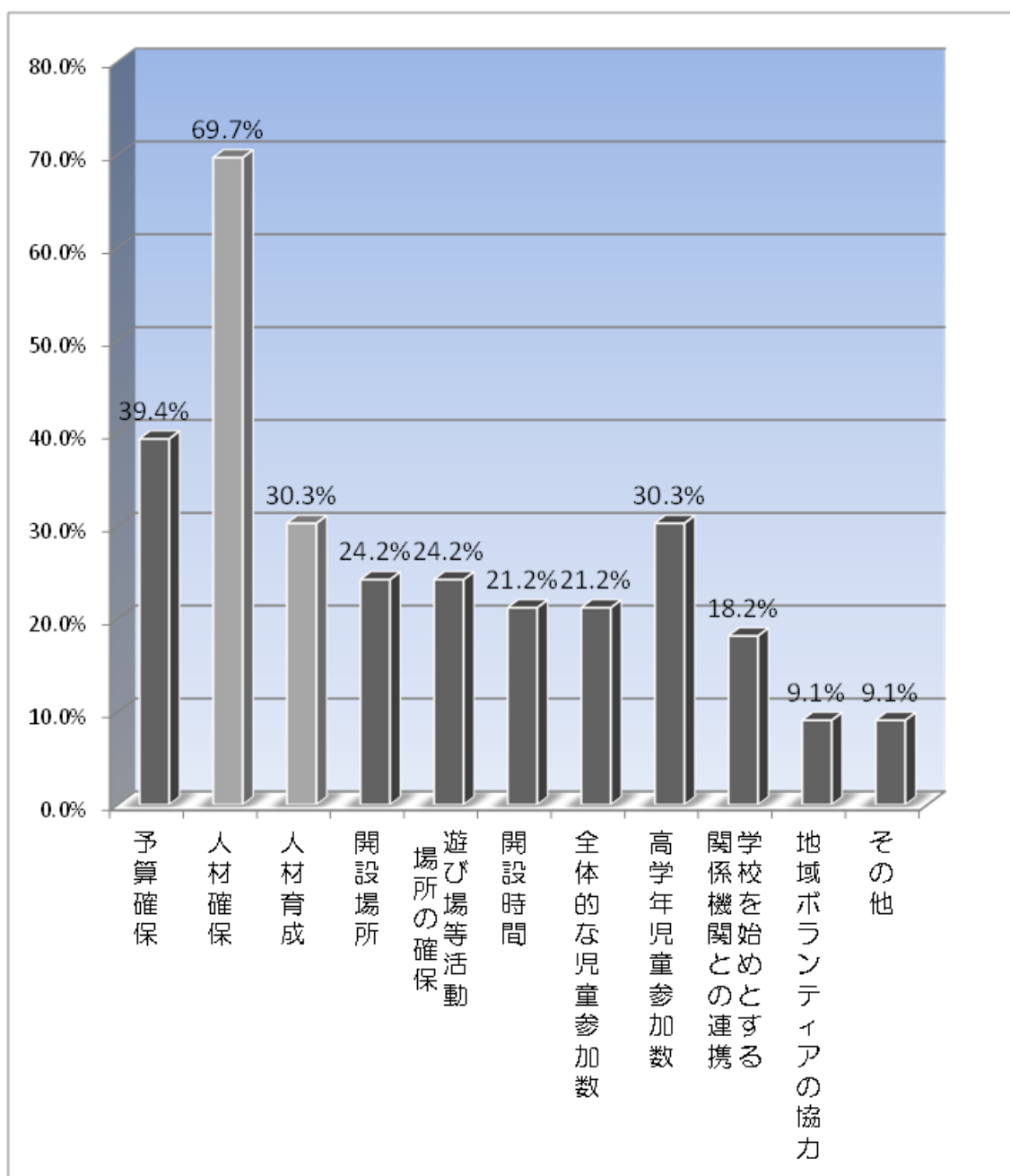
川崎市	子育て支援・わくわくプラザ事業(保護者の就労等でお迎えが難しい児童については、児童の安全と居場所を確保するため、平日に限り午後6時から7時まで実施。(月額2,500円)
横須賀市	青少年会館・青少年の家の「ランドセル置場」(学校から帰宅したときに、家に保護者等がいない児童が、学校から直接、施設を利用できる制度)
小田原市	地域の見守り拠点作り
厚木市	放課後や休日に、子どもの居場所作りや子どもを対象とした地域でのイベントを実施する地域子ども教室を年間を通して実施
二宮町	子どもチャレンジ教室(地域ボランティア企画運営の工作・科学実験等の講座)
箱根町	箱根っこわくわくふれあい事業 ボランティアの協力のもと、小学校の特別教室や公民館等を活動拠点として、さまざまな体験活動の場を提供し、子どもたち健全育成を図る。(土曜日開催)
愛川町	かわせみ広場(14ヶ所中、6ヶ所を放課後子ども教室として設置)

- (4.1.4)で確認した取組み以外に、放課後の子どもの居場所づくりや地域と児童との交流を目的として、独自に取り組んでいる事業等について、その名称と事業内容を自由記述してもらった結果である。県内7つの自治体で独自の取組みがなされているようである。

【質問紙の問6及び問15の回答結果について】

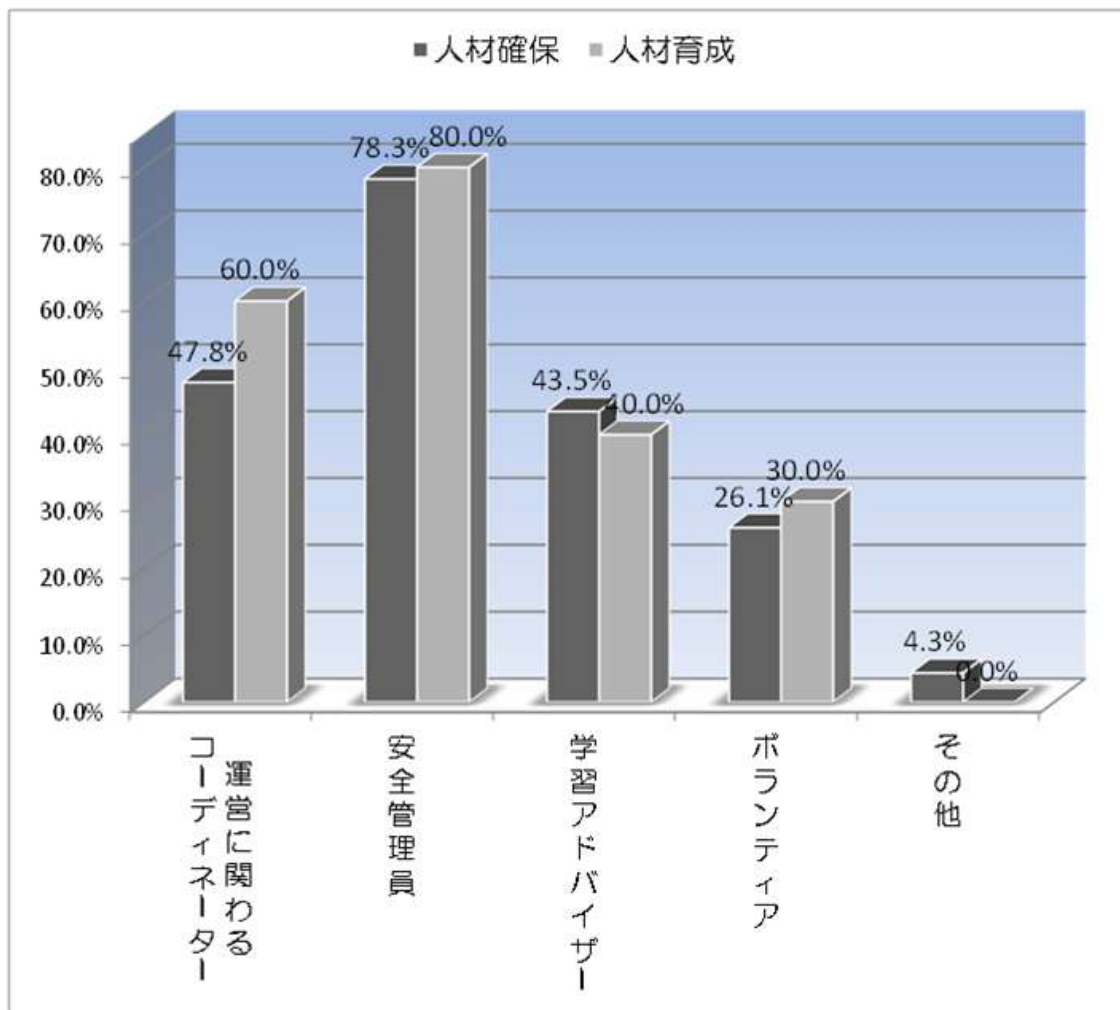
問6では各自治体における放課後子ども教室(類似事業含む)について、問15では各自治体が運営する放課後児童クラブについて、それぞれの登録児童数や、その内数として障害のある児童(特別支援学級に通っている児童)の人数等を、男女別・学年別に尋ねた。しかし、男女別の統計をとっていない自治体が少なくないなど、統計データとして記述・分析できる十分な回答が得られなかったため、回答結果の掲載は割愛する。

4.1.6 放課後子ども教室及び類似事業において、課題となっている事柄



- 放課後子ども教室及び類似事業において、課題となっている事柄について質問した結果である。いずれの選択肢も 20%から 40%程度であり、割合としてはあまり高くなかったが、唯一、「人材確保」についてはおよそ 7 割という高い割合を占めていた。
- 次いで「予算の確保」がおよそ 4 割、「人材育成」と「高学年児童の参加数」がそれぞれ 3 割程度を占めている。
- 「開設場所」や「遊び場等活動場所の確保」といった場所に関する回答は 2 割程度にとどまっている。
- こうしたことから、県内の多くの自治体では活動するスタッフ等の人材の確保や育成が放課後子ども教室を実施するにあたって、大きな課題となっているという現状が明らかとなった。

- 「学校を始めとする関係機関との連携」の具体的な内容については、①学校や保護者等関係者の放課後の子どもに対する積極的な関わり、②実施小学校との連絡調整、③活動場所の拡充、教諭全体の理解、④緊急時の対応等、事業実施には学校(教員)の協力が必要不可欠と考えるため、事業内容の理解をより深めてもらえよう、今まで以上に学校と情報共有し、協力体制を構築していく必要がある。⑤一校では専用の教室がないため、体育館で受付を行っている。⑥学校との調整連絡は定期的に行う必要がある、と指摘されている。
- 「地域ボランティアの協力」については、①当市では、本事業の目的の1つに「地域の中で児童の健全育成を図る」ことを掲げている。目的達成のために自治会等の地域の方々と良好な関係を構築し、協力を得ていく必要がある。②各放課後子ども教室でのイベント等で昔遊び等子どもたちに様々な体験を提供いただけるボランティアを見つけることが難しい。③協力いただける方々が限定されてしまっている、と具体的な記述が見られている。
- また、「その他」については、①狭あい施設の解消、②下校時の安全管理、③活動内容について、が課題として挙げられていた。

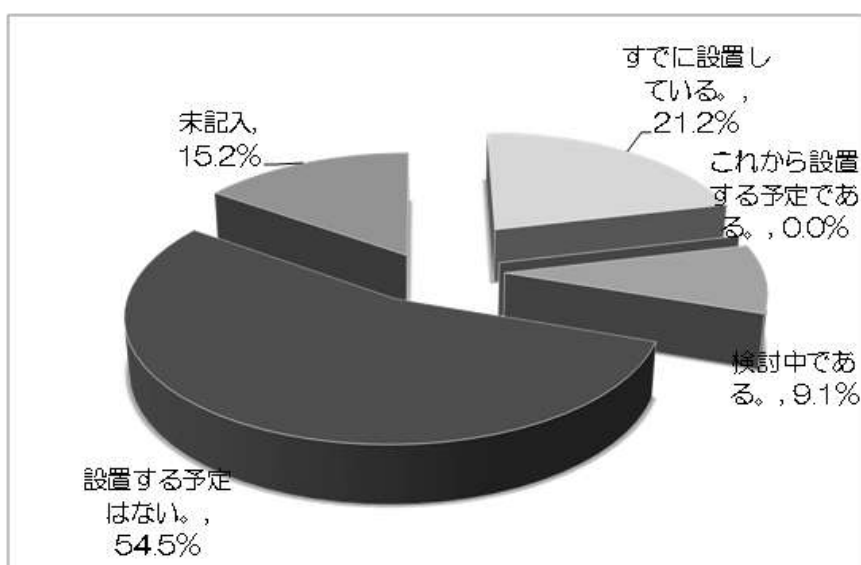


- 前出の結果について、付問としてどのような人材の確保や育成が課題かを質問した結果である。最も高い割合を占めたのは、日々、子どもたちと接している安全管理員であり、人材確保・育成とも

におよそ8割に上っていた。

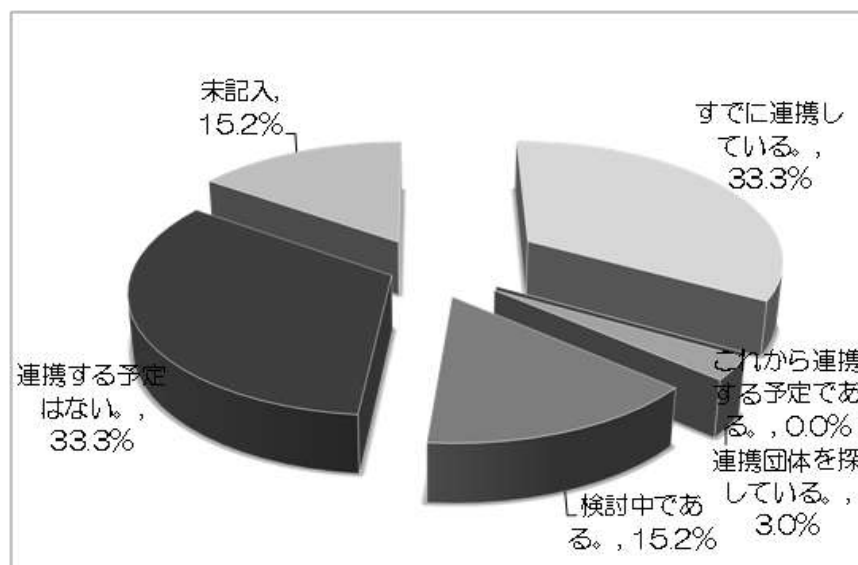
- 次いで、「運営に関わるコーディネーター」が高かったが、これについては人材確保に関する付問では47.8%であったが、人材育成では60.0%となっており、こうした結果から、多くの自治体では、子ども教室の運営の核となるコーディネーターは「見つける」よりも「育てる」ことが多いのではないかとかがうことができるだろう。
- また、学習ボランティアについては、4割程度、ボランティアは3割程度となっている。

4.1.7 放課後子ども教室及び類似事業関わる人材の確保のための地域ボランティア登録制度やシルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度について



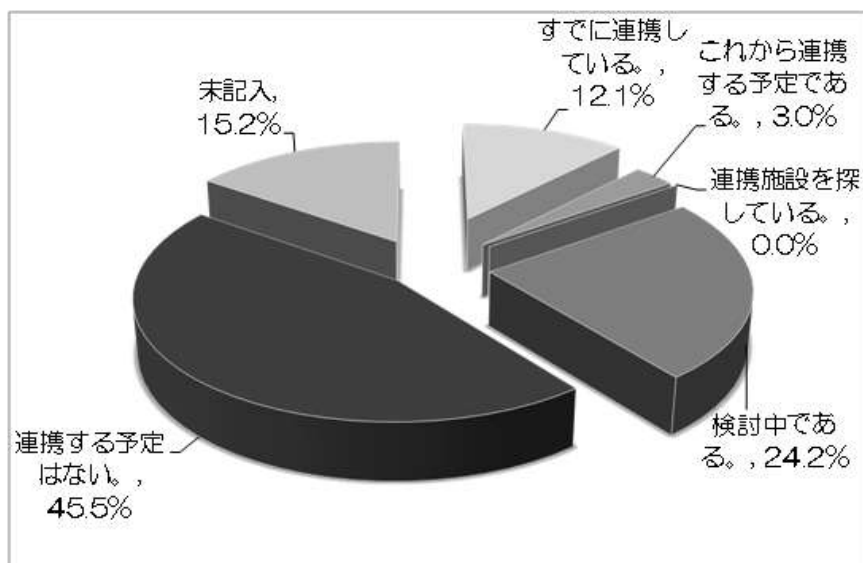
- 放課後子ども教室及び類似事業に関わる人材を確保するために、地域ボランティア登録制度やシルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度を設置している、あるいは設置する計画があるかどうかを質問した結果である。
- 「すでに設置している」と回答した自治体は21.2%であり、検討中と回答した9.1%を合わせると、およそ3割がボランティアの登録制度に前向きな考えをもっていることが明らかとなった。
- しかしながら、最も多かった選択肢は「設置する予定はない」であり、半数を占めている。

4.1.8 放課後子ども教室及び類似事業におけるプログラムを実施するにあたっての、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等との連携



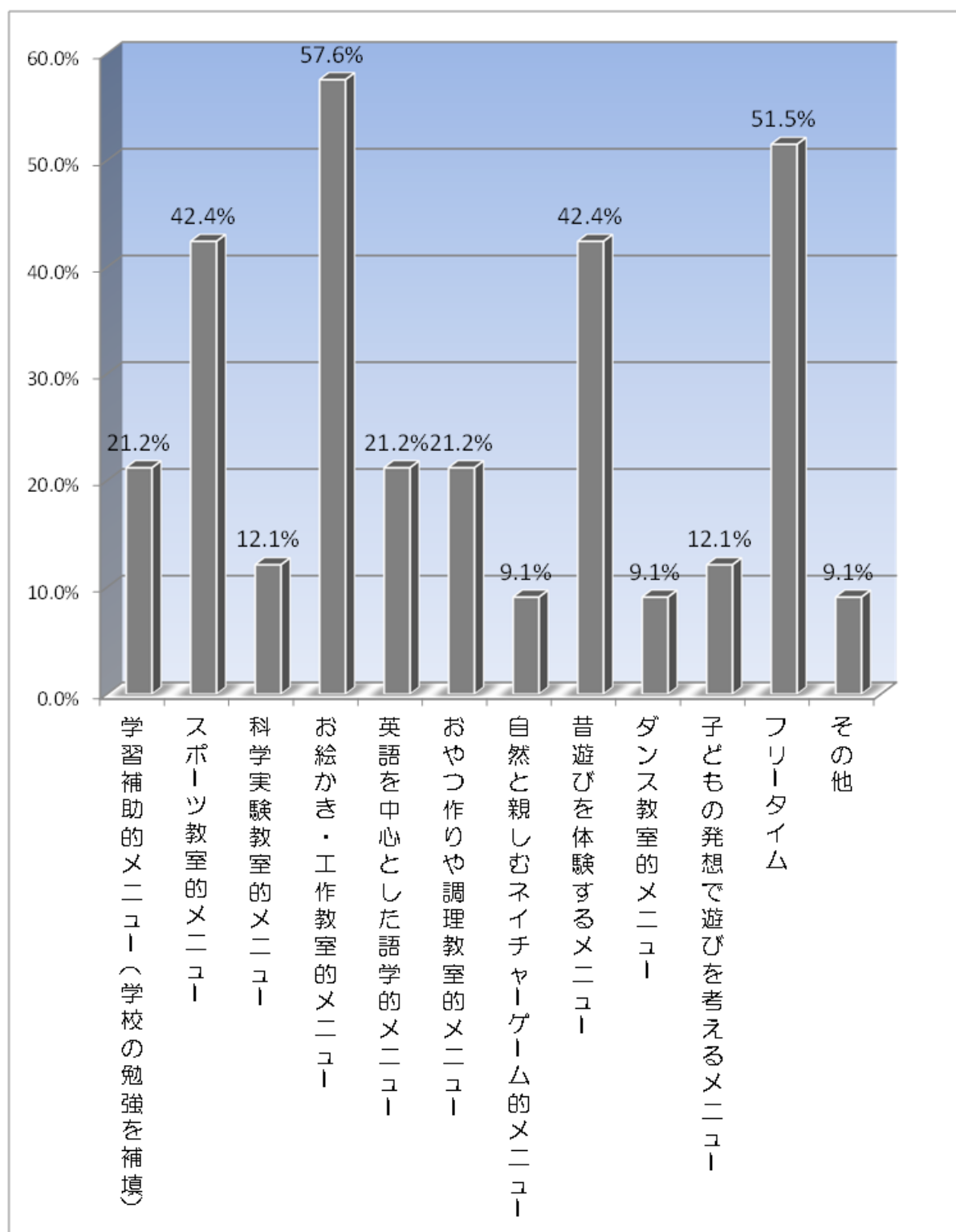
- 放課後子ども教室及び類似事業におけるメニューを実施するうえで、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等と連携している、あるいは連携する計画があるかどうかを質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「すでに連携している」と「連携する予定はない」であり、それぞれ 33.3% となっている。
- 「連携団体を探している」と回答した自治体は 3.0%、「検討中である」は 15.2%を占めており、これに「すでに連携している」の 33.3%を加えると、半数程度の自治体がボランティアとの連携に対して前向きであることが分かった。
- 具体的な連携先としては、①地域住民・地域ボランティア、②各種スポーツ団体、③社団法人、④NPO 法人、⑤企業等の協賛事業、⑥青少年団体、⑦各放課後子ども教室の運営委員会(地域の関係者で構成)、⑧スポーツ推進委員、⑨大学、⑩昔遊び名人会、⑪スポーツ推進委員連絡協議会、が挙げられていた。

4.1.9 放課後子ども教室及び類似事業におけるプログラムを実施するにあたっての、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等との連携



- 放課後子ども教室及び類似事業におけるメニューを実施するため、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等と連携している、あるいは連携する計画があるかどうかについて質問した結果である。
- 「すでに連携している」と回答した自治体はわずか 12.1%にとどまっていたが、検討中と回答した 24.2%を合わせると、およそ 4 割の自治体が社会教育施設との連携に前向きな考えをもっていることが明らかとなった。
- しかしながら、最も多かった選択肢は「連携する予定はない」であり、45.5%を占めている。
- 具体的には、①児童館、②公民館、③図書館、④生涯学習センター、⑤保健福祉センター、が挙げられていた。

4.1.10 放課後子ども教室及び類似事業の実施プログラム

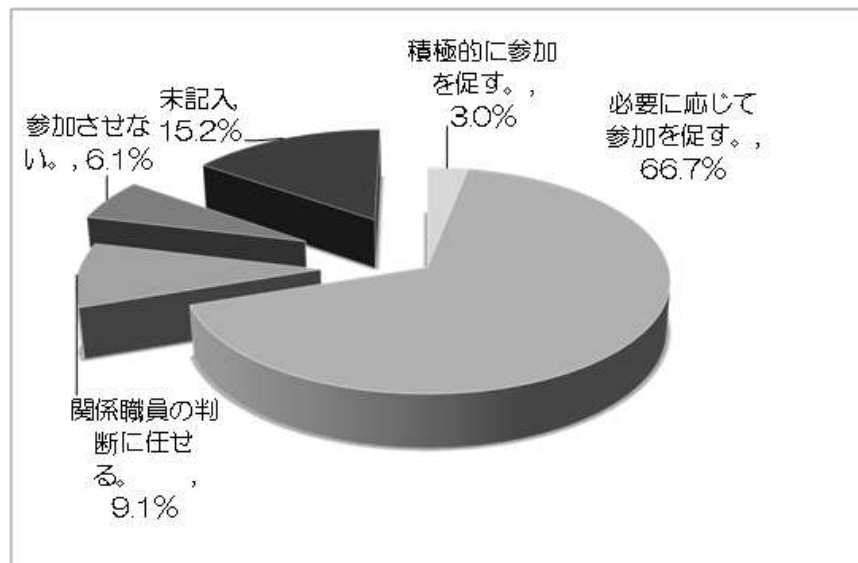


- 放課後子ども教室及び類似事業の実施メニューとして、現在行われているものについて質問した結果である。
- 最も多く選択されていた活動は「お絵かき・工作教室的メニュー」であり57.6%を占めており、次いで「スポーツ教室的メニュー」と「昔遊びを体験するメニュー」が42.4%となっている。

- 特定の活動を行わない「フリータイム」という選択肢も多く、51.5%と半数以上となっている。
- 「学習補助的メニュー」はおよそ2割、「子どもの発想で遊びを考えるメニュー」はおよそ1割程度にとどまっている。
- また、前出の問において、回答されたメニューのうち、課題のあるものを選択し、その理由について具体的な記述を求めた結果では、次のような課題が挙げられている。

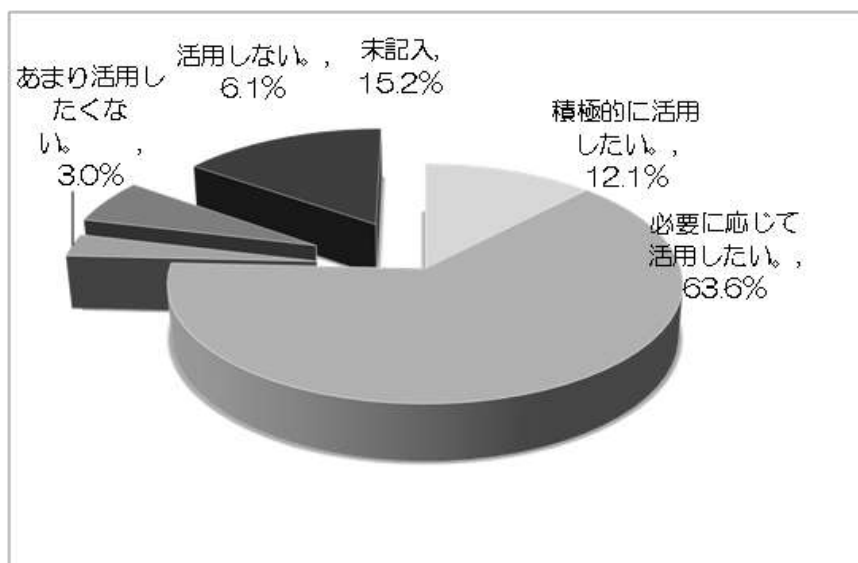
学習補助的メニュー	塾等があるため、ニーズがない 学習プログラムは参加人数が激減する
スポーツ教室的メニュー	練習の積み重ねを面倒がり、上手に出来ないと辞めてしまう 専門的な指導者がいない
科学実験教室的メニュー	人材の確保
お絵かき・工作教室的メニュー	講師の確保
英語を中心とした語学的メニュー	子どもの興味が持続しない 講師の確保
おやつ作りや調理教室的メニュー	
自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー	子どもが興味を示さない
昔遊びを体験するメニュー	講師の確保
ダンス教室的メニュー	
子どもの発想で遊びを考えるメニュー	子どもの発想をのばす指導方法
フリータイム	

4.1.11 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すか



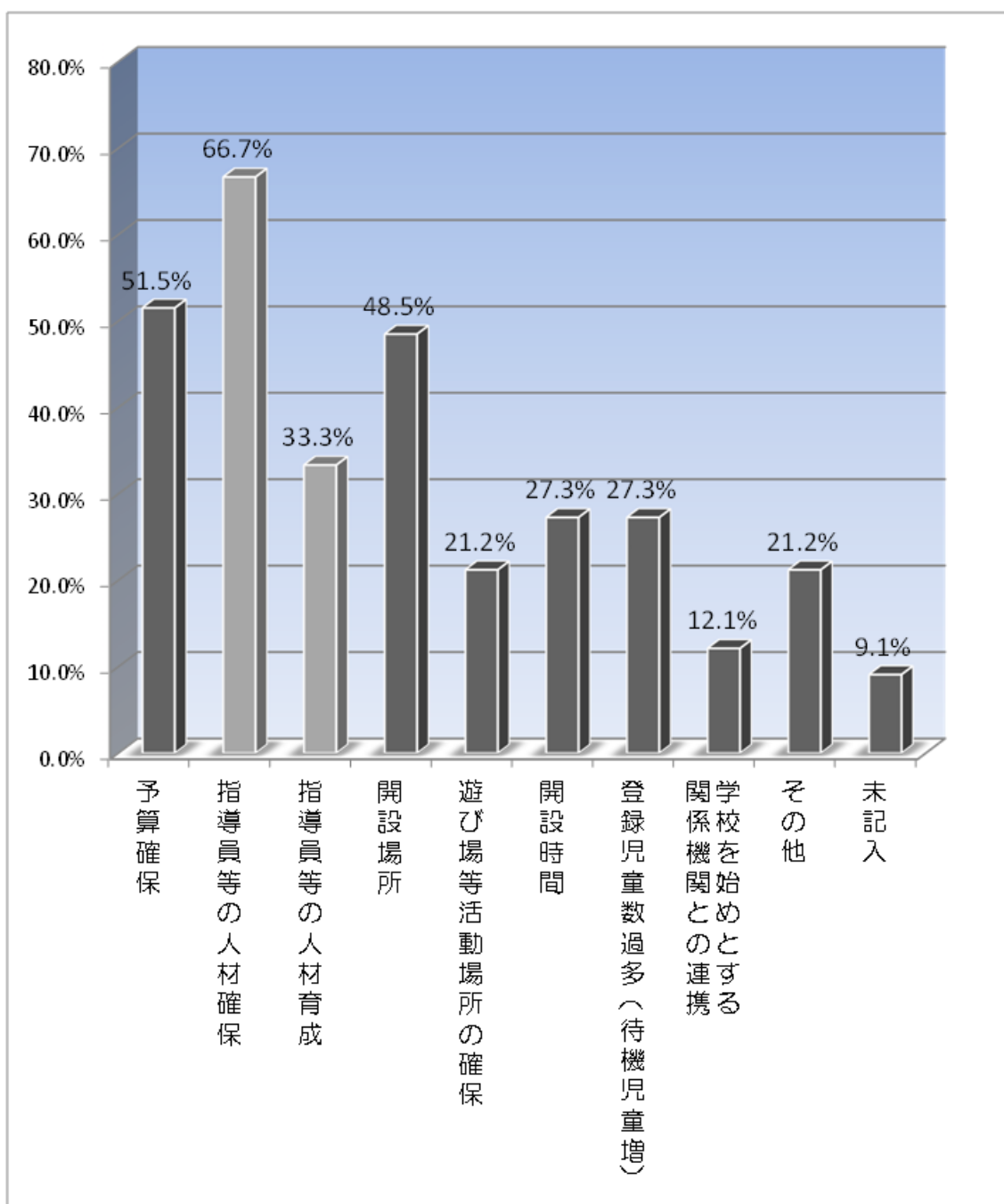
- 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すかどうかについて質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「必要に応じて参加を促す」であり、「積極的に参加を促す」の3.0%を合わせると、およそ7割の自治体で前向きに考えていることが分かった。
- 他方で、「参加させない」は6.1%、「関係職員の判断に任せる」は9.1%にとどまっている。

4.1.12 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うか



- 放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うかどうかについて質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「必要に応じて活用したい」であり、「積極的に活用したい」の12.1%を合わせると、およそ8割の自治体で前向きに考えていることが分かった。
- 他方で、「活用しない」は6.1%、「あまり活用したくない」は3.0%にとどまっている。

4.1.13 放課後児童クラブにおいて、課題となっている事柄

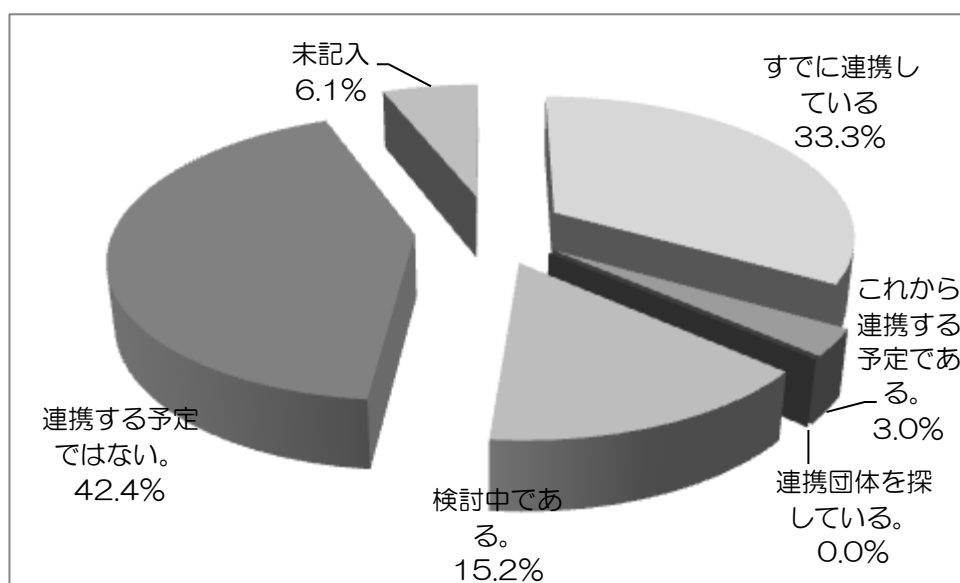


- 放課後児童クラブにおいて、課題となっている事柄について質問した結果である。放課後子ども教室に関して同様に質問した結果と比べ、いくつかの選択肢の割合に違いが見られている。
- 最も高い割合となったのは、放課後子ども教室と同様に「人材確保」であり、およそ7割に上っていた。次いで「予算の確保」がおよそ5割となっている。
- 放課後子ども教室の結果ではわずか2割程度であった「開設場所」については、放課後児童クラブの結果では5割程度となっており、大きな課題となっていることが分かる。
- 「学校を始めとする関係機関との連携」の具体的な理由については、①連携が希薄なクラブもある

ため学校との連携は急務、②小学校以外の関係機関(保育園・障害児関連施設等)、③余裕教室を活用して運営しているが、施設管理者(校長)の理解度に差があり、連携がとりにくい場合がある。④学校の余裕教室の確保、が挙げられている。

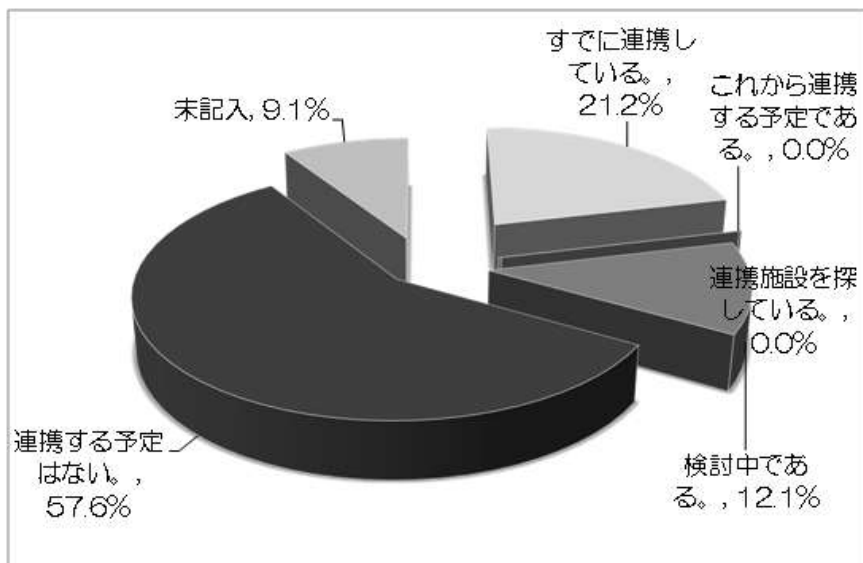
- また、「その他」については、①保育料額、保護者負担、障害児の受入への対応等、②狭あい施設の解消、③今後、利用児童が増加し、施設のキャパシティを超えた場合の対応、④県が規定上の補助金額を交付してくれない、⑤障害児童の入会希望増加、⑥障害児の受入、⑦一校で実施の保護者会による運営が保護者の負担となっている、と具体的な記述が見られている。

4.1.14 放課後児童クラブにおけるプログラムを実施するにあたっての、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等との連携



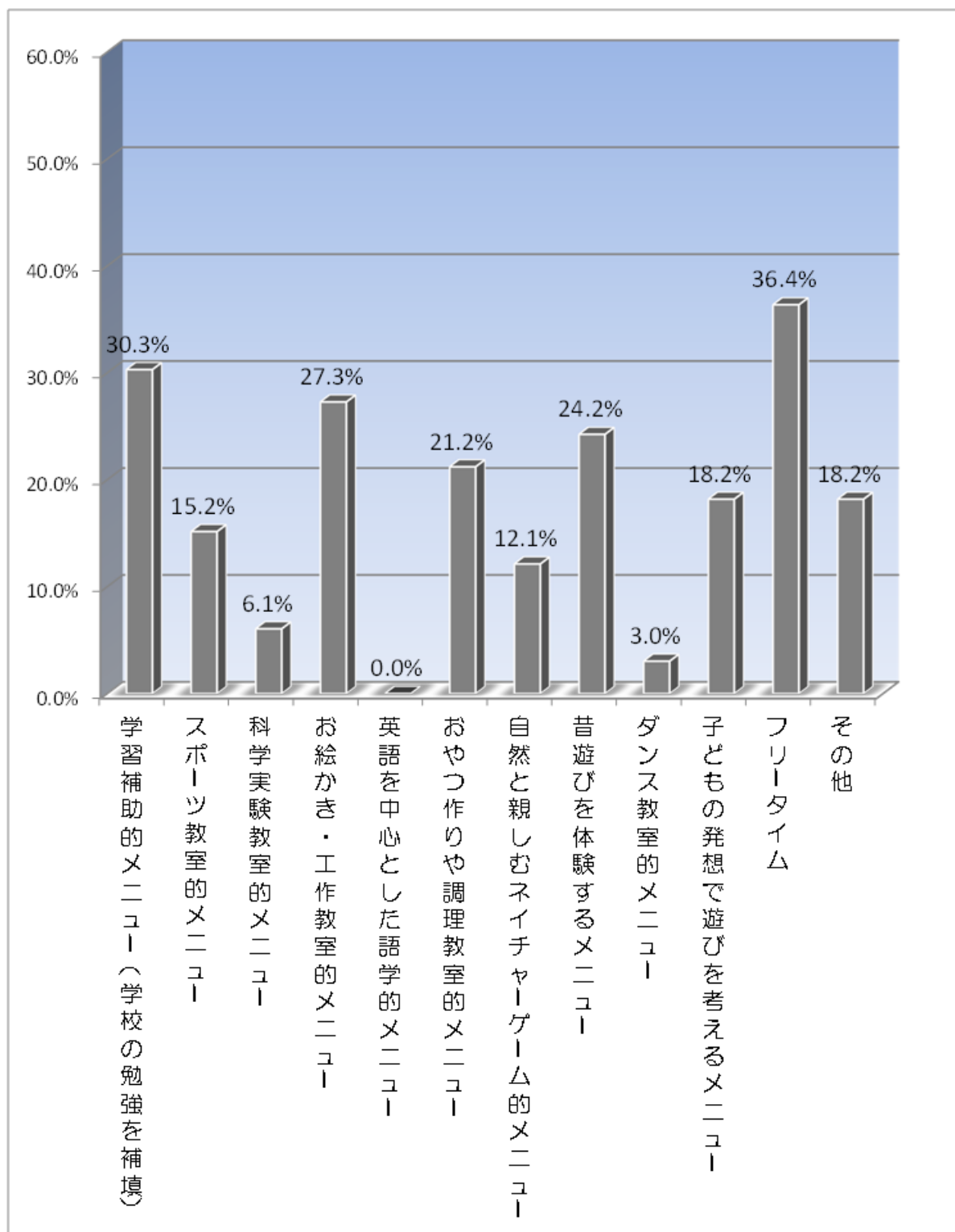
- 放課後児童クラブにおけるメニューを実施するうえで、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等と連携している、あるいは連携する計画があるかどうかを質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「連携する予定はない」であり、42.4%となっている。
- 「すでに連携している」と回答した自治体は 33.3%、「検討中である」は 15.2%を占めており、半数程度の自治体がボランティアとの連携に対して前向きであることが分かった。
- 「すでに連携している」と回答した自治体の具体的な連携先については、①NPO 法人、②自治会、③ジュニアリーダーズクラブ、④高校・高校生ボランティア、⑤シルバー人材センター、⑥青年会、⑦読書ボランティアが挙げられている。

4.1.15 放課後児童クラブにおけるプログラムを実施するにあたっての、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等との連携



- 放課後児童クラブにおけるメニューを実施するため、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等と連携している、あるいは連携する計画があるかどうかについて質問した結果である。
- 「すでに連携している」と回答した自治体は21.2%にとどまっていたが、検討中と回答した12.1%を合わせると、およそ3割の自治体が社会教育施設との連携に前向きな考えをもっていることが明らかとなった。
- しかしながら、最も多かった選択肢は「連携する予定はない」であり、57.6%を占めており、この値は放課後子ども教室についての質問結果よりも高い値となっている。
- 具体的な連携先については、①図書館、②公民館、③社会教育センター、④生涯学習センター、⑤保健福祉センター、が挙げられていた。

4.1.16 放課後児童クラブの実施プログラム

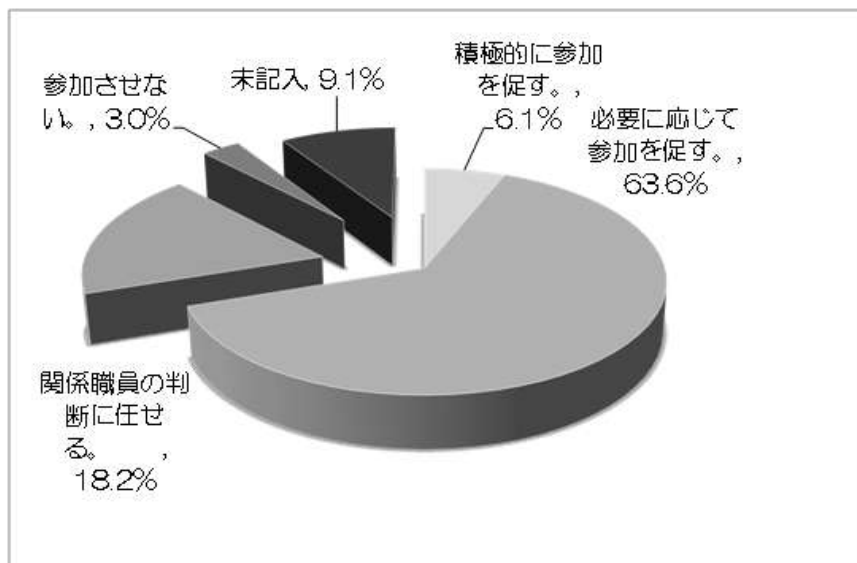


- 放課後児童クラブの実施メニューとして、現在行われているものについて質問した結果であり、放課後子ども教室の結果とは大きく異なっていることがわかった。

- 放課後子ども教室の質問で最も多く選択されていた活動である「お絵かき・工作教室的メニュー」はであり 27.3%にとどまっており、同じく「スポーツ教室的メニュー」が 15.2%と「昔遊びを体験するメニュー」も 24.2%と割合は低いことが分かった。
- 特定の活動を行わない「フリータイム」は最も選択肢の中で高く、36.4%となっている。
- 事業の目的がそもそも放課後子ども教室と放課後児童クラブでは大きく異なっているわけであるが、実際の活動プログラムにおいても大きな違いが見られていることが改めて確認された。
- また、前出の問において、回答されたメニューのうち、課題のあるものを選択し、その理由について具体的な記述を求めた結果では、次のような課題が挙げられている。

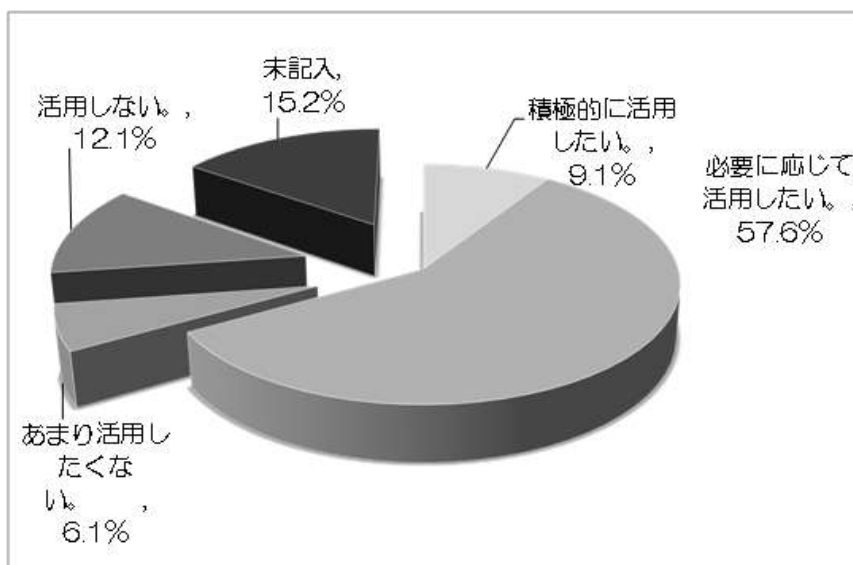
学習補助的メニュー	
スポーツ教室的メニュー	
科学実験教室的メニュー	
お絵かき・工作教室的メニュー	
英語を中心とした語学的メニュー	
おやつ作りや調理教室的メニュー	部屋が狭いため、十分な実施スペースの確保が難しい 食中毒等の発生予防
自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー	
昔遊びを体験するメニュー	
ダンス教室的メニュー	
子どもの発想で遊びを考えるメニュー	
フリータイム	

4.1.17 放課後児童クラブをより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すか



- 放課後児童クラブをより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促すかどうかについて質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「必要に応じて参加を促す」であり、「積極的に参加を促す」の6.1%を合わせると、放課後子ども教室に関する質問結果と同様に、およそ7割の自治体で前向きに考えていることが分かった。
- 他方で、「参加させない」は3.0%、「関係職員の判断に任せる」は18.2%となっている。

4.1.18 放課後児童クラブをより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うか



- 放課後児童クラブをより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思うかどうかについて質問した結果である。
- 最も多く回答されたのは「必要に応じて活用したい」であり、「積極的に活用したい」の9.1%を合わせると、およそ7割の自治体で前向きに考えていることが分かった。この結果は同様の質問を放課後子ども教室について質問した結果と比べると、やや低い値となっている。
- 他方で、「活用しない」は12.1%、「あまり活用したくない」は6.1%となっており、放課後子ども教室について質問した結果と比べるとやや高い。

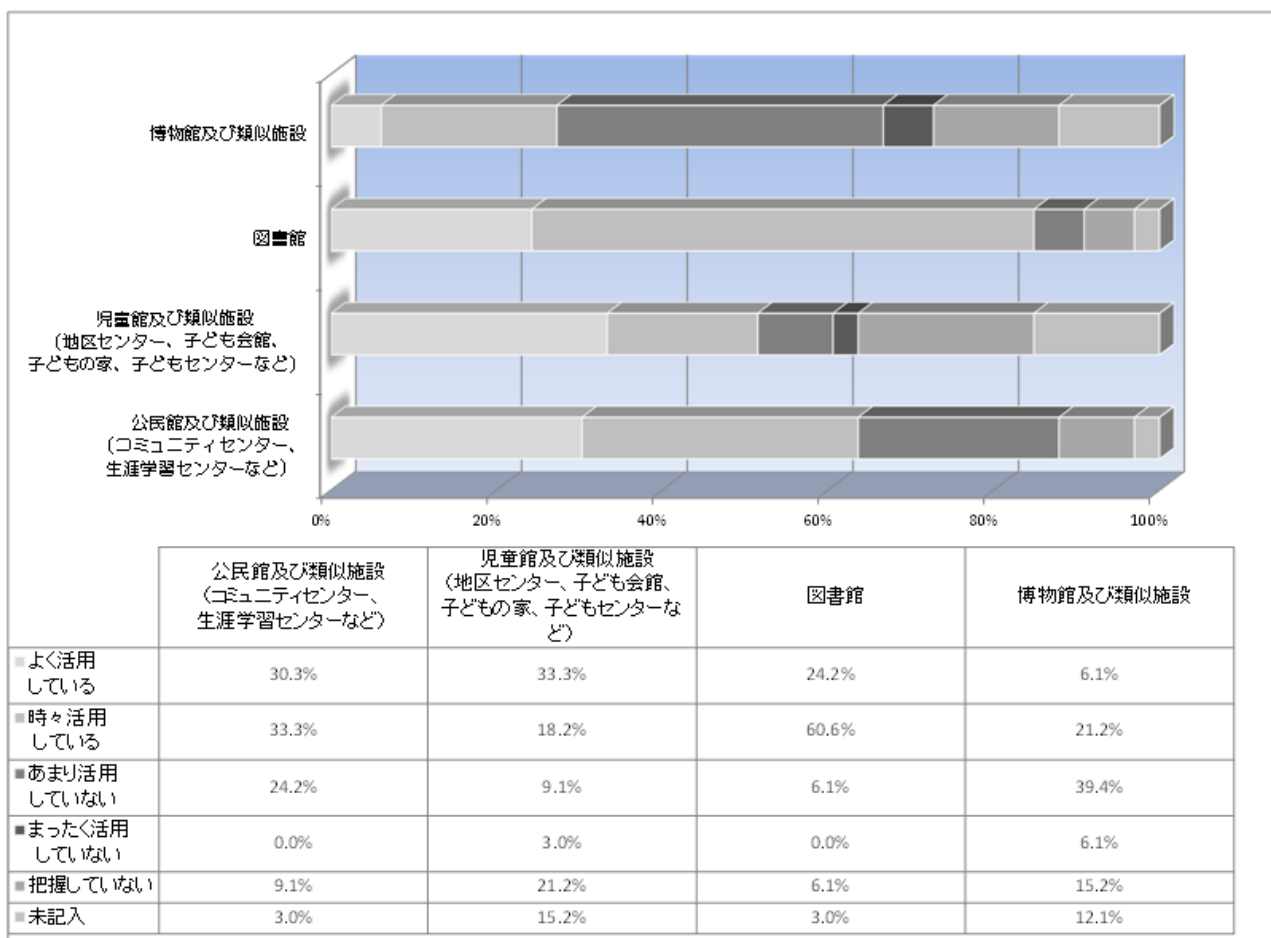
4.1.19 放課後児童クラブが、放課後子ども教室及び類似の独自事業と連携することのメリットとデメリットについて

メリット	デメリット
異年齢児交流や集団遊びが出来る。小学校施設という安全な居場所で過ごすことができる。	留守家庭児童と全児童の区別が難しい。
場所を移動することなく、事業が行える。また、学年を超えた交流が図られる。	
放課後子ども教室主催のイベント等への参加	
学級を超え、児童同士がコミュニケーションを図ることが出来る	利用者の出欠席の管理把握が複雑になる
児童ホーム以外の子どもたちとも交流が持てること	
児童クラブ在籍児童も「放課後子ども教室」の様々なプログラムに参加することにより、豊かな体験活動を享受できるとともに異学年や地域住民との交流が図られる	
児童同士の交流。救急用品の共有。子ども教室参加者が少ない時の施設有効活用。	子ども教室は登録制でないため、児童クラブと混じって活動する子どもの個々の状況が把握しにくい
異年齢間交流の拡大が図れる。	
放課後児童クラブによっては、放課後子ども教室に放課後児童クラブの児童として参加しているケースがある。この場合、民家などを借りているため、広い遊び場が確保できない放課後児童クラブでも、放課後子ども教室を利用することで児童の遊ぶ内容が広がる。	
放課後児童クラブ入所児童以外の児童と遊ぶ機会が得られる。放課後児童クラブでは体験できないプログラムも放課後子ども教室では体験することができる。	内容が似ているため、子ども自身が子ども教室ほ放課後児童クラブの区別がつきにくい。

※回答した自治体が特定される情報は、一部掲載を割愛した

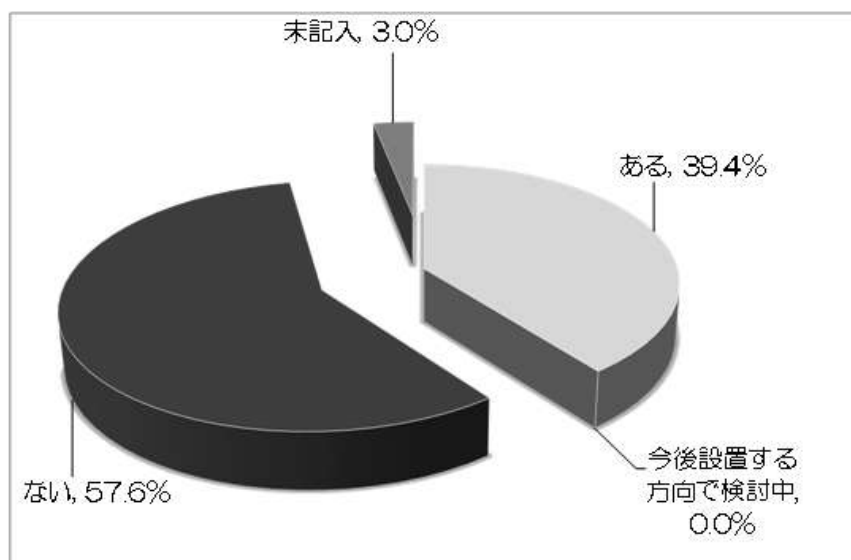
- 放課後児童クラブが、放課後子ども教室及び類似の独自事業と連携することのメリットとデメリットについては、10の自治体から具体的な指摘があった。

4.1.20 社会教育施設における平日の児童の活用状況



- 社会教育施設における平日の児童の活用状況について、施設ごとに回答してもらった結果である。これについては施設によって結果に違いが見られた。
- 公民館及びコミュニティセンターや生涯学習センター等の類似施設については、「時々活用している」の割合が最も高く、33.3%であり、次いで「よく活用している」の30.3%となっていた。6割の自治体で、平日に児童が公民館等を活用していると認識していることがわかった。
- 児童館及び地区センターや子ども会館、子どもの家、子どもセンターといった類似施設については、「よく活用している」が33.3%と最も高く、これに「時々活用している」の18.2%を合わせると、半数程度の自治体が、平日に児童が児童館等を活用していると認識していることがわかった。
- 図書館については、「時々活用している」が最も高く、60.6%に上っており、「よく活用している」の24.2%を合わせると、社会教育施設の中で最も高い8割以上の自治体で平日に児童が活用していると認識していることがわかった。
- 博物館及び類似施設については、「あまり活用していない」が最も高い値となっており、39.4%であった。対して「よく活用している」は6.1%、「時々活用している」も21.2%であり、合わせても3割程度にとどまっている。

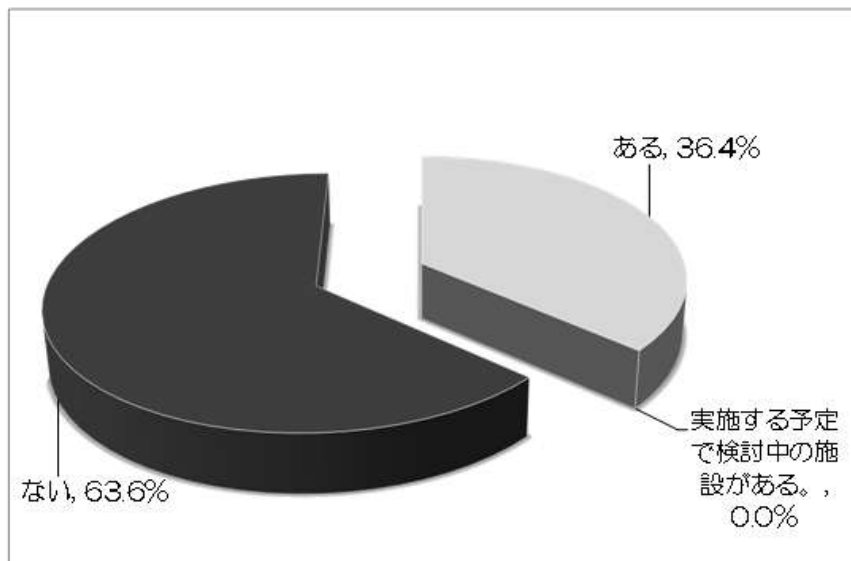
4.1.21 社会教育施設の中で、フリースペースを設置している施設があるか



- 社会教育施設の中で、フリースペースを設置している施設があるかどうかを質問した結果では、6割程度の自治体が「ない」と答え、「ある」と回答した自治体を上回っていた。「今後設置する方向で検討中」と回答した自治体はみられていない。
- フリースペースを設置している具体的な施設については、次のような施設が挙げられている。

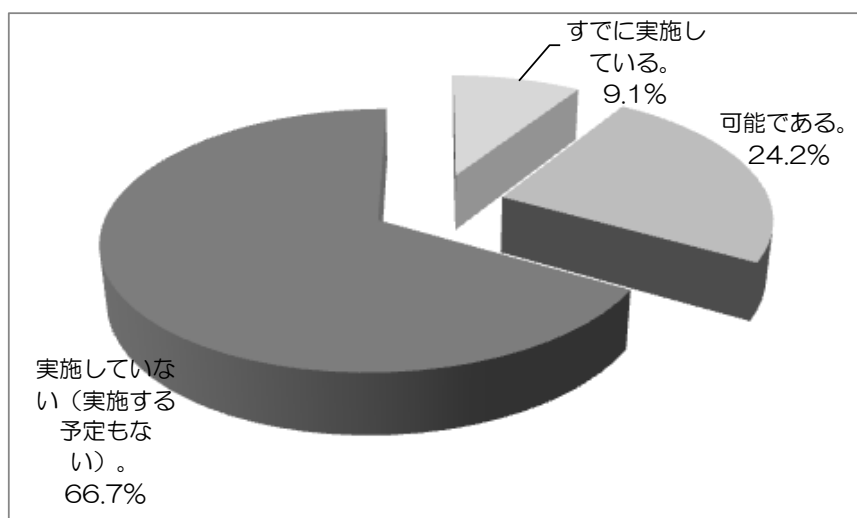
相模原市	橋本図書館、中央公民館他
横須賀市	生涯学習センター、青少年会館・青少年の家
平塚市	公民館（松原・大原・中原・土屋）
鎌倉市	鎌倉生涯学習センター
藤沢市	青少年会館（藤沢・辻堂）、片瀬しおさいセンター、ふれあいルーム
逗子市	公民館、市民交流センター
秦野市	はだのこども館
伊勢原市	児童館、公民館、図書館、子ども科学館
大和市	生涯学習センター
海老名市	コミュニティセンター（10館）、文化センター（2館）
座間市	青少年センター
寒川町	南部文化福社会館、北部文化福社会館
清川村	生涯学習センター

4.1.22 平日放課後の時間帯に児童を対象とした事業を実施している施設があるか



- 平日放課後の時間帯に児童を対象とした事業を実施している施設があるかどうかを質問した結果でも、6割以上の自治体が「ない」と答え、「ある」と回答した自治体を上回っていた。「今後設置する方向で検討中」と回答した自治体はみられていない。

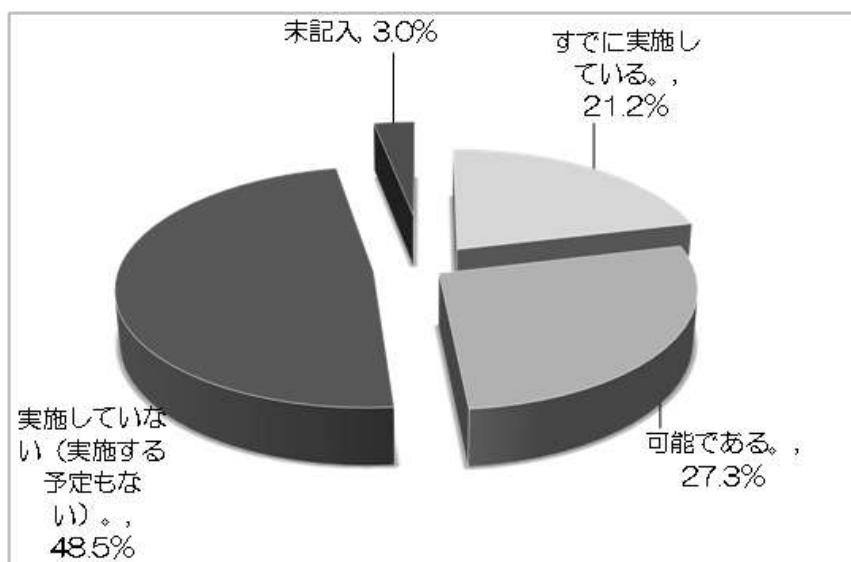
4.1.23 社会教育施設職員（公民館主事、司書、学芸員等）が、放課後子ども教室や放課後児童クラブに出向き、メニュー実施の支援等を行っているか



- 社会教育施設職員（公民館主事、司書、学芸員等）が、放課後子ども教室や放課後児童クラブに出向き、メニュー実施の支援等を行っているかどうかを質問した結果である。

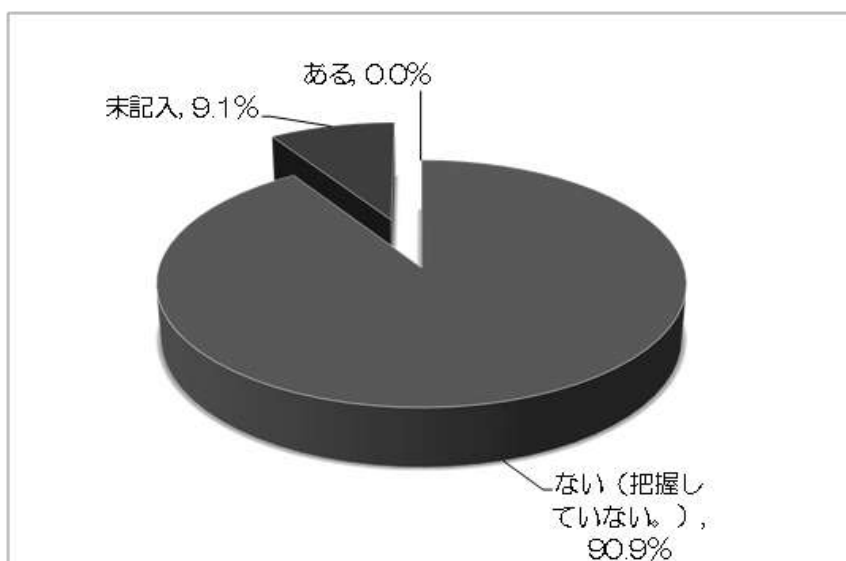
- 最も高い割合を占めたのは「実施していない(実施する予定もない)」であり、66.7%に上っていた。対して「既に実施している」と回答した自治体は最も少なく、9.1%にとどまっている。「可能である」と回答した自治体は24.2%であった。

4.1.24 社会教育施設で活動しているサークル等を、放課後子ども教室や放課後児童クラブに紹介し、メニュー実施の支援等を行っているか



- 社会教育施設で活動しているサークル等を、放課後子ども教室や放課後児童クラブに紹介し、メニュー実施の支援等を行っているかどうかについて質問した結果である。
- 最も高い割合を占めていたのは「実施していない(実施する予定もない)」であり、およそ半数に上っていた。対して「すでに実施している」は21.2%、「可能である」は27.3%であり、およそ半数の自治体では社会教育施設で活動するサークル等のメニューを放課後子ども教室や放課後児童クラブの活動に活かすことが可能であるということが明らかとなった。

4.1.25 平日放課後の時間帯に、児童を含め一般に開放している企業の施設等があるか



- 平日放課後の時間帯に、児童を含め一般に開放している企業の施設等があるかどうかを質問した結果では、「ない(把握していない)」が90.9%に上っており、「ある」と回答した自治体は見られなかった。

(アンケート調査の集計・分析及び編集担当 猿渡 智衛)

第Ⅲ部 事例調査

川崎市ふれあい館 ～多文化共生のまちづくりを推進する施設～

多文化共生を推進するふれあい館とこども文化センター(児童館)を統合した施設で、市内唯一の施設である。外国につながる児童や障害児の放課後の居場所も、ふれあい館を中心に設置・運営し、多文化共生や仲間づくりの事業を展開している。また、保護者や高齢者等のサークルもあり、家族ぐるみ、地域ぐるみの居場所づくりが行われている。

活動場所(施設名): 川崎市ふれあい館

所在地: 川崎市川崎区桜本

実施主体: 社会福祉法人 青丘社が川崎市より受託運営



1 事業の概要

(1) 事業の概要

地域に暮らす外国人と日本人が、市民として子どもからお年寄りまで相互にふれあい、共生をめざすことを目的に川崎市が設置した「こども文化センター」と「ふれあい館」を統合した施設で、川崎市では1館のみである。

(2) 事業の背景・経緯

日本人と韓国・朝鮮人を主とする在日外国人が、同じ川崎市民として、子どもからお年寄りまで相互にふれあい共生をめざす、全国初の在日外国人と地元住民の交流施設で1988(昭和63)年に開館された。2006(平成18)年4月からは、ふれあい館・桜本こども文化センターの指定管理者として、川崎市より「社会福祉法人青丘社」が管理運営を行っている。

ふれあい館が中心となり、「であいの場」「語らいの場」「学びあいの場」「ふれあいの場」として各種事業を展開している。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

年末・年始を除く月曜日から土曜日までは、午前9時30分から午後9時まで、日曜日・祝日は午前9時30分から午後6時まで開館している。スタッフは、14人とわくわくプラザの非常勤職員、ボランティア等ローテーション勤務で運営している。

ふれあい館事業は、「こども部門」「成人事業」「高齢者事業」「対外部門」「その他の関連事業」を開催し、「こども部門」の中で、こどもの遊び指導と各種こども行事の開催、わくわくプラザ事業、こどもの文化学習サークルの育成、外国につながる学習サポート事業、学校訪問事業、障害のある子の父母との連携事業、子育て支援事業を行なっている。



(4) 活動プログラム

年間事業計画は運営協議会で決定し実施している。「ふれあい館まつり」やわくわくプラザの特色ある行事「遊びの広場」での多文化遊び等、世代間・多文化交流を実施している。また、様々な事業に高学年児童や中高生も集まり、子ども自身がプログラムを企画するなど、異年齢の子どもの関係づくりと自主・自律性が育まれている。

② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

子どもの文化学習サークルの育成事業として、韓国・朝鮮の民族文化であるチャンゴや舞踏等のクラブでは、日本やペルー等の子どもも参加し、練習や発表を通して仲間づくりや多文化共生の理解が進められている。



わくわくプラザ事業は、3つの小学校で全校児童数の50%強、約600人が登録しており、開かれた居場所になっている。

一般的な放課後事業で対応が難しい高学年児童や障害児、外国人の子ども等に向けて、目的の明確なプログラムと「ほっとできる」居場所の保障がめざされている。また、主に新渡日外国人の中学生の基礎学力保障のための中学生学習サポート活動も実施している。保護者(母親)や高齢者等のサークルもあり、家族ぐるみ、地域ぐるみの居場所づくりが行われている。

OBやOGがボランティアで在日外国人の子どもたちの相談にのるなど、地域ぐるみで在日外国人を手助けしている。もともとは在日の韓国・朝鮮人の人々を対象としていたが、最近では南米や東南アジア等から川崎へと移り住む人々も多く、諸外国の在日外国人のよりどころとなっている。

ふれあい館のホームページでは、活動紹介や関連施設の情報をリンクさせるなど、電子媒体による広報をおこなっている。紙媒体でも毎月「ふれあい館だより」「ふれあいかんこどもたより」を発行し、広報活動も充実している。

(2) 取組の課題と今後の可能性

課題としては、子どもたちの居場所である一つの「わくわくプラザ」の参加数が多く(100名を越え)、雨天時・真夏日は校庭が使用できず、体育館とわくわくプラザ内2室のスペースでは狭くて活動が限られるため、活発な事業展開ができないこともある。



ふれあい館は、行政とパートナーシップで作られ、子どもたちに寄り添う活動が柱となる市民参加型の運営を行っており、行政や学校等の委託・連携事業を積極的に受け入れ、継続的・組織的な事業展開がめざされている。全市の学校を対象とした民族文化講師派遣事業や、日本語を母語としない子どもや保護者を対象に、通訳支援事業等の連携事業も数多く実施し、実績も十分にある。

また、ふれあい館資料室では、在日の韓国・朝鮮の人々の歴史に関連する書籍や資料約6,000件が揃い、ホームページ上での資料検索も可能であり、図書貸し出しも行なっている。

事業のリフォームや新しい事業を起こしながら、ニューカマーの外国人や生活保護世帯等も対象として、事業内容・領域の一層の拡充が取り組まれている。ふれあい館を一部として、保育園から高齢者の支援施設まで全体を通して“共生のまちづくり”を作り続けている。

(夏井 美幸)

藤沢市鵜沼公民館「くげぬまあそび隊」～公民館とボランティア団体による講座型居場所づくり～

「くげぬまあそび隊」は、遊び場の確保、異年齢・異学校交流、体験学習の促進のため、2002(平成 14)年に活動が開始された。藤沢市鵜沼公民館を活動の拠点とし、同公民館の一事業として活動がおこなわれている。「くげぬま遊友隊」というボランティア団体と協同し、毎年テーマを決めて講座型の企画を実施するほか、毎年恒例の行事を行っている。

活動場所(施設名): 藤沢市鵜沼公民館

所在地: 藤沢市鵜沼海岸

実施主体: 藤沢市鵜沼公民館「くげぬま遊友(ゆうゆう)隊」



1 事業の概要

(1) 事業の概要

藤沢市鵜沼公民館がボランティア団体と協同で運営を行う、土日や夏休み冬休みを活用した講座型の事業である。

(2) 事業の背景・経緯

「くげぬまあそび隊」は、地域子ども会の減少や学校週5日制完全施行にともない、遊び場の確保、異年齢・異学校交流、体験学習の促進のため、2002(平成14)年に活動が開始された。藤沢市鵜沼公民館を活動の拠点とし、同公民館の一事業として活動がおこなわれている。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

2005(平成17)年からは、ボランティア団体「くげぬま遊友(ゆうゆう)隊」が運営に参加し、同団体と公民館との協働体制が、安定的な事業運営を支えている。年間11教室を開催し、子どもの参加者は述べ440名(年間登録制・定員40名)に上る。

(4) 活動プログラム



活動のテーマは年間を通して決め、それに即したプログラムを編成している。例えば、2012(平成24)年度は「食育」、2013(平成25)年度は「科学」をテーマに掲げていた。2013(平成25)年度の主だった活動の中身は次の通りである。

- 「少年の森でロケットを飛ばそう」
- 「人気の科学実験」
- 「浜の生き物観察」
- 「JAXAに行こう!宇宙を探ろう!」
- 「大自然の中で雪遊び」

このようなテーマに沿ったプログラムに加え、「公民館に泊まっちゃおう」、「地域の大イベントにジョイントだ!公民館まつり参加」、「八ヶ岳で一泊しよう」等、毎年定番の活動も行っている。



② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

参加する子どもたちは、定番の活動を楽しみにしながら、毎年変わるテーマごとのプログラムに胸を躍らせている。いわゆる“テッパン”と“新規”の2本柱で、子どもの「またやりたい」と「今度は何するの?」という期待を集めている。登録の更新（リピート）を希望する子どもが多いことは、事業が子どもの居場所づくりとして機能しているということを物語っている。これは地域の子どもたちに、この活動が浸透していることも示している。



12年間継続して事業を展開してこられたのは、やはり「くげぬま遊友隊」との協働体制を構築しているからであろう。同ボランティア団体は、公民館の職員と一緒に事業企画するパートナーであり、大規模な活動を行う時の人的パワーであり、活動の連続性を担保する担い手である。そしてさらに、必要に応じて他団体や有志（食育事業は農家、科学事業は専門家）を巻き込んでいくコーディネーターの役割も果たしている。

同事業の一番の成果は、卒業生が活動を支えるボランティアとして戻ってきている点にあると考えられる。

事業が子どもたちにとって、良い体験となっている証である。また、このような循環は、持続可能なまちづくりにとって大きな財産となる。「地域に育てられた子どもが、地域を支える人材になる」ことが実現される今後の発展が楽しみである。

(2) 取組の課題と今後の可能性

課題は、人的資源の制約から、子どもの受け入れが追いついていないことである。定員を上回る応募があるため、抽選を行い、登録者を絞り込まざるを得ない状況がある。ボランティア人材の確保によって、より多くの子どもたちに「活動の機会」と「居場所」を提供することが求められよう。

(上江洲 慎)



厚木市立七沢児童館 ～地域で育む児童館～

市内37児童館の一つとして、回りを野山に囲まれた自然豊かな環境の中に位置する児童館である。児童数が少ない学区の中にあって、年間の利用率が高いという特徴をもち、子どもたちにとって、放課後の居場所として重要な役割を担っている。

地域住民は三世帯同居の家庭が多いことから、住民相互のかかわりも深く、児童館に対しても力強い存在となっている。こうした恵まれた環境の下、体験学習を重視した様々な行事が実施されている。

活動場所（施設名）：厚木市立七沢児童館
所在地：神奈川県厚木市七沢
実施主体：厚木市こども未来部青少年課所管



1 事業の概要

(1) 事業の概要

市内 37 児童館の一つであり、放課後の子どもたちの安全・安心な遊び場を提供している。

(2) 事業の背景・経緯

厚木市内で 15 番目に設置された児童館で、現在の観音谷戸自治会館の場所に、1975（昭和 50）年に開館した。設立 20 周年の 1995（平成 7）年に、現在の場所に移転した。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

児童館は年末年始を除いて毎日開館しており、月曜日から金曜日は午後 1 時から 5 時まで、土曜日・日曜日及び祝日と、小・中学校の長期休業期間は、午前 10 時から午後 5 時まで開館している。月曜日と金曜日には、閉館時間帯である午前中を活用して、乳幼児とその保護者たちの交流の場である「おひさまタイム」を実施している（午前 10 時から正午まで）。

平成 24 年度の利用数は、4,412 名（乳児 297 名、小学生 2,995 名、中学生 73 名、学生 50 名、大人 460 名）であった。

市の臨時職員として採用された児童館指導員 3 名が配置されている。

(4) 活動プログラム

年間を通じて、七沢児童館の恒例行事を実施している。ニジマスのつかみどりやお化け屋敷等、地域団体等と連携した行事も行っている。

ニジマスのつかみどり（5月）
…七沢子ども会の保護者に協力を依頼

8月のお化け屋敷…地域の自治会と協賛して納涼祭に参加し、七沢青少年健全育成会に手伝いを依頼



月 1 回発行の「児童館だより」の配付や、特別支援級の児童の指導について相談するなど、近隣小学校との連携もおこなっている。

② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

児童館においては、ほとんどがフリータイムだが、子ども運営委員会の企画による行事も行われており、自らが主体的に遊びを考える大きな原動力となっている。

〔子ども運営委員会の企画による行事〕

3月の行事…5年生が主体となって子ども運営委員会を立ち上げ、6年生と新1年生の歓送迎会を催す。新年度からは、新6年生が主体となり、自然なかたちで最上級生としての自覚を促す。

7月の行事…七沢子どもまつりの各店を、責任をもって担当し、来館する児童・幼児とのふれあいを深める。

8月の行事…お化け屋敷大会において、6年生がオリジナリティを出したお化けに扮し、来館者をいかに驚かせるか、各自が趣向を凝らす。



こうした一連の行事を通して、特に6年生において、行事を通して奮起するという成長過程が見られる。また、普段の遊び場においても、学年にこだわらず、縦のつながりで遊ぶことができる。



(2)取組の課題と今後の可能性

基本的には身体を動かすことが好きな子どもが多いが、一部の子どもは、館外で閉館時間になるまで、カードゲーム等に興じている。今後は、児童館として場所の提供だけではなく、カードゲーム以外の遊びにも興味をもつような指導をしていくことが課題である。

また、児童館内でのゲームや、敷地内でのボール遊びを禁止していることから、男子児童の来館が減少傾向にある。今後は、男子児童にとっても魅力があり、館内でもできるような遊びを提供することが課題となっている。



児童館では、七沢という土地ならではの慣例行事が大切に行われているが、児童数の減少により、今後も維持できるかという懸念がある。現場の指導員によると、将来的には行事の形を変えて実施することなども検討されている。児童館が独自で行っている行事が多いため、地域との関係をより一層深めていく必要性もある。

地域・学校・行政が一体となることにより、今後も安定した運営が見込まれる。自由な時間の中で、子どもが自ら考え、行動する力を育むことにより、他者を思いやる心や自立する心の確立が図られている。大人にとっても、児童館の活動を通じて、自身が積み重ねてきた技能や経験を子どもたちへつなげることにより、児童館は地域の居場所の要となっている。

(富田 眞樹子)

厚木市立相川小学校放課後子ども教室 ～協働による多彩なプログラム～

子どもたちが安全、安心に過ごすことができる放課後の居場所として、2011(平成23)年10月に設置された。

小学校の余裕教室等を活用して、様々な体験学習や地域住民との交流が図られており、2012(平成24)年には、「優れた『地域による学校支援活動』推進に係る文部科学大臣表彰」を受けた。

活動場所(施設名): 厚木市立相川小学校放課後子ども教室

所在地: 厚木市岡田

実施主体: 厚木市こども未来部こども育成課



1 事業の概要

(1) 事業の概要

2011(平成23)年10月に、余裕教室活用型モデルケースとして市立23小学校の中から1校を選定し、厚木市として初めての放課後子ども教室が相川小学校に設置された。

(2) 事業の背景・経緯

厚木市では、2009(平成21)年から2010(平成22)年度にかけて「放課後子どもプラン検討プロジェクトチーム」が設置され、推進のための施策が検討された。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

2012(平成24)年度は年間179日、学校給食がある平日の月曜日から金曜日に実施された。3月から9月は放課後から17時まで、10月から2月は放課後から16時30分まで実施されている。

対象児童は1年生から6年生の登録制となっており、2012(平成24)年度は76.8%、2013(平成25)年度は86.2%の登録率を誇る。2012(平成24)年度は、延べ5,346名が参加した。

コーディネーター、サブコーディネーター、サポーターの計6名のスタッフを中心となり、地域住民や市内の企業、大学、NPO、様々なボランティアと協働して、多彩なプログラムを実施している。

(4) 活動プログラム

コーディネーターやサブコーディネーター(退職教員)が学習指導を担当する「相川塾」(国語と算数)や、子ども科学館職員や市内の企業、大学による「おもしろ科学教室」等、充実した学習プログラムが提供されている。

「バウンドテニス」や「合気道教室」等の各種スポーツ体験や、「おやつ作り教室」や「イラスト教室」等、豊富な体験活動プログラムも用意されている。大道芸人の協力による大道芸体験等、学校や個人ではなかなか味わうことが出来ない体験活動も実施されている。



② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

毎日豊富なプログラムが提供される中で、参加児童は、その日のプログラムに参加するか、あるいは「フリー」として自由に過ごすかを、自由を選択することが出来る。

教室参加時には「参加カード」や「学校用出席カード」（1年生のみ）を提出することや、教室の入退室時刻をメールで保護者に配信するメール配信サービスの実施等、安全・安心な居場所づくりとしての配慮も行われている。また、参加児童は教室への入室確認後、黒板に貼ってある自分の名前のマグネットを、活動場所（これから自分が過ごす場所）が分かるように貼ることになっており、一人ひとりの活動場所が明確に分かるような工夫がなされている。



(2) 取組の課題と今後の可能性



教室に参加した児童・保護者へのアンケート結果によると、参加児童の98%が「楽しい」、保護者の96%が「良い」と回答しており、児童・保護者双方の満足度は非常に高いようである。

教室への登録率は非常に高い一方で、2011（平成23）年度の開設以降、参加率は20%台にとどまっている（2013（平成25）年7月現在）。高学年の参加が少ないという状況も見られるため、学年に応じたプログラム設定等の工夫が試みられている。

この事業をさらに発展させ、子どもたちにとって放課後の安全・安心な居場所としての役割を高めるためには、子ども教室の下校時間の延長、児童館や児童クラブとの併設等が検討される必要がある。

（富田 眞樹子）



鎌倉てらこや ～大学生等の地域の人的資源を活用して～

鎌倉市内にある子どもの居場所拠点「てらハウス」での活動を中心として、陶芸教室や建長寺での合宿など、子ども向けに多様な体験プログラムを展開している NPO 法人である。日常的な活動を担っているのは、大学生ボランティアであり、教育関係だけでなく、様々な大学の様々な学部の学生が活動している。主とする活動は年に数回程度実施されている登録制の体験活動事業と、てらハウスでの居場所づくり事業となっており、特に后者では子どもの自主性を尊重した活動が展開されている。

活動場所（施設名）：てらハウス
所在地：鎌倉市大船
実施主体：NPO法人 鎌倉てらこや



1 事業の概要

(1) 事業の概要

- ① お寺合宿の企画・運営 …建長寺・光明寺での合同合宿
- ② 陶芸教室・朗読教室 …親子参加型プログラムの運営
- ③ てらハウスの運営 …日常的な居場所づくり事業
- ④放課後児童クラブ支援 …大学生ボランティアの派遣事業

※本稿では審議内容の趣旨から、「てらハウス」について取り上げる。その他の事業については、<http://kamakura-terakoya.net/> を参照のこと。

(2) 事業の背景・経緯

不登校・引きこもりを未然に防ぐために、子ども・若者・大人の3世代が交流をする企画と居場所づくりを行う。子どもたちのお兄さんお姉さん役として大学生が関わっている他、地域の大人が活動の基盤を支えている。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

「てらハウス」は、日曜日以外は実施している。平日は放課後から4時まで、土曜日は1日中で、午前中が「学びの時間」、午後は「自由時間」と位置づけられている。

参加児童は10人未満が多いとのこと。しかしながら、参加登録していない（500円の参加費を支払っていない）子どもであっても、たとえば屋外での活動時等に同じ場所で活動していれば「参加者」とみなしているようで、スタッフは同じように関わりをもっている（ただし、てらハウスでの活動はできない）。

子どもと直接関わるスタッフは毎回、概ね5人程度であり、すべて大学生と大学院生で構成されている。役割分担については、リーダーは持ち回りで担っているようだが、それ以外はなく、子どもの意思に応じて柔軟に対応しているのがユニークである（スタッフ自身も非常に自由度が高く、やりたいことをやるといった感が強い）。そうした活動メンバーのほかに専門の事務局員もいるが、子どもと積極的に関わるというより、見守り役にまわることが多い。



(4)活動プログラム

子どもの意思が非常に尊重されており、子どもたちがやりたいことをスタッフは全力で手助けして実現させようというスタンスであり、固定化されたプログラム等はない。子どもが自分たちで計画した遠足を実施したり、突然の思いつきで近くまで散歩に出かけたりすることもあるそうである。季節感を感じる行事や活動等、スタッフがさせたいことも体験活動としてあるようであるが、決して強要せず子どもの意思に任せている。



② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1)特色

活動内容だけでなく、スタッフの組織、専用スペースの空間等オリジナリティが高く、全体的に独自性に富んでいる。県内での展開を踏まえた先駆性という意味では、多様な大学生を積極的に活用していることNPOがすべて自前で展開していること、そしてとにかく自由度が高いということが挙げられる。前述したように、体験活動やプログラムについては、子どもの主体性を尊重し、子どもの意思に沿って展開されており、子どもにとっては「やらされている」感が非常に低いようである。



鎌倉てらこやの「てらハウス」の最大のポイントは子どもの居場所づくりが大学生や大学院生によって展開されていることである。県内でも大学生をボランティアとして活用する事例は多いであろうが、大学生が主体となって活動を企画・運営している事例はほとんど見られないのではないかと思われる。大学生は4年間という時間的な活動制限はあるものの、子どもと年齢が近いため子どもが親しみやすく(居場所づくりに適しいいわゆる「ナナメの関係」になりやすい)、活動における時間的な融通もききやすい。

また、現場で日々関わる大学生自身が活動の主体者としてPDCA(企画・運営・振り返り)のすべてに参画していることで、日常の子どもとの何気ないやりとりの中での「行ってみたい」「やってみよう」という思いをくみ取り、そうしたつぶやきをプログラム化できているわけである。

子どもに対する学生の割合も高く、スタッフの占有率も高いので、他者との関わりに難をもつような子どもであっても人間関係を築きやすいようであり、子どもと密接な関係が築かれている。見方を変えると、スタッフである大学生自身の居場所ともなっているようであり、活動の準備や振り返りに対しても、「子どものために」という高い意識で臨んでいる学生が多く、こうした相互の人間関係が居場所感の形成につながっている。



(2) 取組の課題と今後の可能性

活動に対する振り返りでは、学生の経験に基づいた主観的な意見が多く、事件・事故を予防する観点や子どもの成長・発達という長期的な見地から、活動をコーディネートしたりスーパーバイズする専門的なスタッフが乏しいことは課題と言えるかもしれない。

さらに他の事業と比較して見いだせる課題としては、大学生が主となるため、スタッフが定着化しづらいことや、地域に活動が根づいている（地域の側から見た時に）とは言えないため、体験活動が系統的に展開できないこと、学生と子どもとの関係が強く、活動を通した子ども間での人間形成の割合が低いと思われることである。

しかしながら、「やらせ」ではなく子どもの意思に沿った体験活動の展開、スタッフが心的居場所感をもたせる要因となっている点等、これからの子どもの居場所に求められる非常に先駆的な事例の一つであり、今後の活動の広がりを期待したいものである。

(猿渡 智衛)



ドリームプレイウッズ ～自分の責任で自由に遊ぶ森の居場所～

ドリームプレイウッズは、『冒険遊び場』の森林版。子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ居場所を常設。竹林の中に作られたハンモックやバンジーロープで遊ぶ中で、生きることに必要な、チャレンジ精神や、達成感、自己肯定感、自然への親しみを学んでいる。地元住民が全員ボランティアで運営しており、地域のおじちゃん、おばちゃんの暖かい見守りと関わりの中で子どもたちの居場所を常設の場所として作り出していることが特徴。

活動場所（施設名）： ドリームプレイウッズ
所在地： 神奈川県綾瀬市深谷中
実施主体： ドリームプレイウッズ管理運営委員会



1 事業の概要

(1) 事業の概要

ドリームプレイウッズは、綾瀬市内のとある森林の中に、まるで秘密基地のように設置されている。運営はドリームプレイウッズ管理運営委員会が行い、綾瀬市がバックアップしている。竹林を活かした「ターザンロープ」や「バンジーネット」等、スリルたっぷりの遊具が子どもたちを迎えている。子どもたちは自分の責任で自由に遊ぶ。

(2) 事業の背景・経緯

『子どもは自然の中で自由に豊かな遊びや体験をすることで、生きることに必要な主体性、自己防衛本能、身体能力、感じる心、道徳観、社会性を身に付けていく。子ども自ら遊びの心を育むため、大人は子どもの自由な遊びに対する認識を持ち、大人も子どもも、一緒に遊びを体験する。そんな子どもの遊びの森を創造しよう』

という理念を掲げ、地元住民が全員ボランティアで立ち上げた。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

年中無休で開園。

4月～9月：日の出から18時まで

10月～3月：日の出から17時まで。

一日当たり約50名。年間延べ約17000名の来場者。

スタッフ33名は全員ボランティア。

(4) 活動プログラム

活動プログラムを設けないのが、本活動の特徴である。



② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

設立理念に真に忠実に遊びの森を運営しているのが、ドリームプレイウッズの特徴である。「自然の中で自由に遊ぶのはいいけど、怪我をしたらどうするのか。誰が責任をとるのか」。そんな質問に対しては、「怪我をするのも必要な体験。自分の責任で自由に遊ぶのが原則」だと答える。実際、これまでに骨折程度の怪我は何度かあったという。それでも、大きな問題にはならず、骨折した子どもはその後「遊びの森」に足しげく通って来ているという。安全であることを前提とした上で、多少のリスクをとってでも、子どもたちが逞しく育つ場所を、有志の大人がボランティアでつづけている姿に強い信念が感じられる。



子どもたちを温かく迎えるのは「森」だけではない。地域の「おっちゃん、おばちゃん」が見守り役として「遊びの森」を支えている。集団行動が苦手な子どもでも、問題行動を起こす子どもでも、どんな状況でも子どもたちを受け止めてきた歴史がある。これは、問題行動を放置することで暗に肯定したり、子どもの言いなりになることではない。叱ったり褒めたり、関与したり、見守ったり、「遊びの森」の日常の営みの中で生じる関わりの中で、人としての機微を捉えている。一般的なルールに置き換えるのが難しい職人的な関わり合いがここにはある。

(2) 取組の課題と今後の可能性

本実践のように、多少のリスクをとってでも、子どもたちの日常の居場所をつくる大人の存在は貴重である。こうした大人による職人的な関わりや、森林の物理的な整備は、一般の人や公的機関、民間企業には簡単に追随できないであろう。だが、確固たる基本理念と行動力を兼ね備えた心意気のある「おっちゃん、おばちゃん」は多数存在し、その実践に、物資的、資金的な協力を惜しまない関係者がいることも確かだ。本実践がモデルとなり、次なる担い手が現れた時、子どもたちが自然の中で逞しく育つ環境の整備が促進されることが大いに期待される。

(上江洲 慎)



ソニー・サイエンスプログラム ~企業の持つプログラムとコンテンツ~

地域の子どもたちへの民間企業の活動の連携事例としてソニー・サイエンスプログラムを調査した。このプログラムはソニー株式会社の社会貢献活動及びソニー教育財団が子どもたちの科学教育を支援することを目的に行っている事業の一つであり、全国的に行われているものである。今回調査したのは厚木市立相川小学校放課後子ども教室で11月18日に行われた“おもしろ科学教室”とのコラボレーションである。



1 事業の概要

(1) 事業の概要

ソニー株式会社、ソニー教育財団が行っている子どもたちの科学教育を支援することを目的としたソニー・サイエンスプログラムと相川小学校放課後子ども教室がコラボレーションしたものである。

(2) 事業の背景・経緯

相川小学校放課後子ども教室という常設事業からの依頼に対して、ソニーがコンテンツとしてプログラムを提供したものである。

(3) 活動日・参加者数・スタッフ

2013（平成25）年11月18日に、相川小学校放課後子ども教室でイベントとして行われた。

参加者：4年生から6年生までの各学年合わせて32名

スタッフ：ソニーから実行スタッフ5名

企画、準備、子どもたちの実験機材購入、講師選出までソニー厚木テクノロジーセンターの総務部署が行い、企画や実際の授業講師はソニーのエンジニア（OB含む）が担当している。指導補助員として他に4名が同行しており、子どもたち全員に対して組み立てや実験のサポートをする体制で行われた。

(4) 活動プログラム

スピーカーを作ってみよう

4年生から6年生までの各学年から自由参加で集まった32名の小学生が、ソニー技術者の指導のもと紙コップと永久磁石、銅線コイルで簡易スピーカーを組み立て、それをウォークマン®につないで実際に音が出ることを体験した。その上で電気信号がどうして音になるのかというスピーカーの基本原理の説明を受け、こんな身の回りの簡単なもので音が出るという事に驚き、多くの子がこういった技術を身近に感じたようである。



② 体験活動を重視した放課後の居場所として

(1) 特色

通常経験することのない科学技術の基礎に直接接触れることで、子どもたちが驚きをもって科学を身近に感じることができる例である。

また、放課後子ども教室をより有効なものにするコンテンツを企業から提供した例である。



(2) 取組の課題と今後の可能性

企業側には費用と時間面の制約に加えて、活動の計画をもちにくいこと、及び企業内部での活動承認を得るのが容易でないという課題が存在する。つまり企業活動では具体的な目的、活動内容と成果、及びその企業が得られる効果等を活動担当部署が企業内に示して承認を得るのが一般的であるが、そのどれも企業自身で明確にするのは簡単ではないということである。

それに対して行政から参加企業に公的な評価を与えるような仕組みができれば企業内の担当部署にとって有用でしかもモチベーションともなるため、企業の参画促進に有効と考えられる。できれば年ごとの計画が立てられる枠組みがあれば企業にとってはやりやすいであろう。

(川居 龍一郎)

資料

単純集計表

○ 児童向け調査

問1 あなたは何年生ですか。四角の中に学年の数字を入れてください。

1年生	1962
2年生	1978
3年生	2114
4年生	2165
5年生	2157
6年生	2165
回答児童数	12541

問2 あなたの性別はどちらですか。あてはまる記号に○をつけてください。

男	6468
女	6073
回答児童数	12541

問4 あなたは、学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）、どんな場所で過ごすことが多いですか。あてはまる記号に、3つまで○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 自分の家	4687	5127	9814
イ. 友だちの家	2195	2676	4871
ウ. 塾 や習い事	2734	3051	5785
エ. 学校の校庭や体育館	556	994	1550
オ. 放課後子ども教室の活動場所	372	123	495
カ. 学童(放課後児童クラブ)の活動場所	834	187	1021
キ. 公園、空き地、広場など	2214	2778	4992
ク. 公民館や地区センター、児童館など	212	379	591
ケ. 図書館、博物館、美術館など	141	135	276
コ. スーパーやコンビニエンスストア	350	387	737
その他	328	314	642

問5 あなたは、学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）、何人ぐらいで過ごすことが多いですか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 1人	397	681	1078
イ. 2～3人	3183	2969	6152
ウ. 4～6人	1506	2028	3534
エ. 7～9人	248	381	629
オ. 10人以上	630	371	1001
回答児童数	5964	6430	12394

問6 あなたは、学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）、どんな人と過ごすことが多いですか。あてはまる記号に、2つまで○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 1人で過ごす。	890	1435	2325
イ. 家の人	3266	3201	6467
ウ. 同じ学年の友だち	3357	4776	8133
エ. 小学校のほかの学年の人	1034	808	1842
オ. 中学生、高校生、大学生	212	171	383
カ. 学童の指導員や公民館の人など	534	109	643
キ. 地域(近所)の人	254	157	411
その他	219	259	478

問7 学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）、あなたがよくすることは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

	はい	いいえ
ア. 勉強をする。	7785	4632
イ. 本やマンガを読む。	5689	6671
ウ. テレビやDVD(ビデオ)を見る。	7356	5002
エ. 音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。	3405	8882
オ. ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。	7712	4672
カ. インターネットやメールを見る。	3028	9295
キ. おしゃべりをする。	8420	3932
ク. お絵かき、あやとり、おりがみなどをする。	3807	8523
ケ. ボール遊びやスポーツをする。	7171	5195
コ. 鬼ごっこやかくれんぼなどをする。	5298	6936
サ. すべり台やブランコなどの遊具で遊ぶ。	3774	8402
シ. 自分(たち)で考えた遊びをする。	6825	5424

問8 あなたは、学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）の時間を楽しく過ごしていますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. とてもたのしい。	4121	4180	8301
イ. まあまあたのしい。	1628	2055	3683
ウ. あまりたのしくない。	218	209	427
回答児童数	5967	6444	12411

問9 あなたは、学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）の時間を、どのように感じていますか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. やりたいことができています。	4358	4474	8832
イ. 遊ぶ時間が少ない。	2143	3174	5317
ウ. 遊ぶ場所が少ない。	1560	1674	3234
エ. 遊ぶ友だちが少ない。	1383	679	2062
オ. 遊ぶ道具が少ない。	1329	964	2293
カ. やりたいことが見つからない。	1333	702	2035

問10 学校が終わってから午後5時までのあいだ（放課後）、あなたがやってみたいとおもうことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

	はい	いいえ
ア. 勉強をする。	6608	5772
イ. 本やマンガを読む。	6496	5852
ウ. おやつや料理を作る。	6826	5530
エ. 昔遊び(竹馬やこまなど)をする。	3603	8715
オ. 絵やイラストを描く。	5388	6957
カ. 簡単な実験や工作をする。	6338	5979
キ. 虫を捕ったり花を観察したりする。	3219	9091
ク. 音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。	5266	7040
ケ. 運動やスポーツをする。	8591	3752
コ. 大学生や大人の人と一緒に遊ぶ。	3746	8535
サ. 友だちと一緒に遊ぶ。	10897	1452
シ. 家の手伝いをする。	7274	5001
ス. 地域の行事やボランティア活動などに参加する。	3887	8358

問11 あなたは、公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターなどに行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 毎週、行く。	394	383	777
イ. 毎月、行く。	407	492	899
ウ. イベントや行事の時に行く。	1051	1423	2474
エ. 行ったことがある。	2156	2911	5067
オ. 行ったことがない。	1127	731	1858
カ. 近くにあるのかわからない。	725	398	1123
回答児童数	5860	6338	12198

問12 あなたは、児童館など、子ども向けの施設に行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 毎週、行く。	384	216	600
イ. 毎月、行く。	320	342	662
ウ. イベントや行事の時に行く。	584	677	1261
エ. 行ったことがある。	2079	3066	5145
オ. 行ったことがない。	1414	1305	2719
カ. 近くにあるのかわからない。	1105	741	1846
回答児童数	5886	6347	12233

問13 あなたは、図書館に行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 毎週、行く。	403	292	695
イ. 毎月、行く。	699	852	1551
ウ. イベントや展示の時に行く。	279	261	540
エ. 行ったことがある。	3476	4263	7739
オ. 行ったことがない。	733	501	1234
カ. 近くにあるのかわからない。	290	205	495
回答児童数	5880	6374	12254

問14 あなたは、博物館や美術館などに行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. 毎週、行く。	86	18	104
イ. 毎月、行く。	224	138	362
ウ. イベントや展示の時に行く。	433	642	1075
エ. 行ったことがある。	3321	4152	7473
オ. 行ったことがない。	1182	809	1991
カ. 近くにあるのかわからない。	675	619	1294
回答児童数	5921	6378	12299

問15 あなたは、地域のお祭りなどの行事や、清掃活動などに参加しますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. よく参加する。	2040	2004	4044
イ. 時々、参加する。	2057	2752	4809
ウ. あまり参加しない。	1271	1305	2576
エ. 地域の行事やボランティア活動があるのかわからない。	573	333	906
回答児童数	5941	6394	12335

問16 あなたは、地域の大人の人と、あいさつをしたり、話をしたりしますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. よくする。	2688	3151	5839
イ. 時々する。	2463	2761	5224
ウ. あまりしない。	842	485	1327
回答児童数	5993	6397	12390

問17 あなたは、お家の人と話をしますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. よくする。	5189	5660	10849
イ. 時々する。	638	630	1268
ウ. あまりしない。	139	109	248
回答児童数	5966	6399	12365

問18 あなたは、山や森、海や川など、自然の中で遊びますか。あてはまる記号に○をつけてください。

	低学年	高学年	全体
ア. よく遊ぶ。	1148	1055	2203
イ. 時々遊ぶ。	2211	2582	4793
ウ. あまり遊ばない。	1812	2006	3818
エ. 近くに自然がない。	790	741	1531
回答児童数	5961	6384	12345

○ 保護者向け調査

問2 お子さんが、放課後、どのような場所で過ごしているか、把握していますか。

ア. よく把握している	4844
イ. 大体把握している	4070
ウ. あまり把握していない	132
エ. まったく把握していない	5
回答保護者数	9051

問3 問2でエ以外を答えた方に伺います。お子さんが放課後、主に過ごしている（と思われる）場所を次の中から3つまで選んでください。

ア. 自宅	6685
イ. 友だちの家	3979
ウ. 塾や習い事	4501
エ. 学校の校庭や体育館	1542
オ. 放課後子ども教室の活動場所	433
カ. 学童（放課後児童クラブ）の活動場所	858
キ. 公園、空き地、広場など	4543
ク. 公民館や地区センター、児童館など	812
ケ. 図書館、博物館、美術館など	91
コ. スーパーやコンビニエンスストア	75

問4 お子さんの放課後の過ごし方について、満足していますか。

ア. とても満足している	1462
イ. まあまあ満足している	6577
ウ. あまり満足していない	883
回答保護者数	8922

問5 放課後の子どもの現状として、あなたがそう思うことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

	はい	いいえ
ア. やりたいことができない、見つけられない	1522	7367
イ. 遊ぶ時間が少ない	3768	5192
ウ. のんびりする時間が少ない	3313	5637
エ. 体を動かして遊ぶ機会が少ない	4667	4305
オ. 自然の中で遊ぶ機会が少ない	6636	2353
カ. 伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない	7735	1227
キ. 芸術的活動に触れる機会が少ない	7721	1231
ク. 自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない	3666	5287
ケ. 遊ぶ場所が少ない	5279	3690
コ. 学童(放課後児童クラブ)が足りない	1578	7192
サ. 放課後子ども教室が足りない	2288	6385
シ. 一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)	4615	4325
ス. 家族で触れ合う機会が少ない	2278	6668
セ. 地域の大人の人と触れ合う機会が少ない	5871	3071

問6 放課後の時間を活用して、お子さんにさせたいことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

	はい	いいえ
ア. 勉強をする	7534	1391
イ. 本を読んだり、読み聞かせを聞いたりする	7444	1468
ウ. おやつや料理を作る	6429	2508
エ. 昔遊び(竹馬やこまなど)をする	6221	2703
オ. 絵やイラストを描く	6656	2270
カ. 簡単な実験や工作をする	6670	2258
キ. 虫を捕ったり自然を観察したりする	7158	1793
ク. 音楽を聴いたり楽器を演奏したりする	7155	1772
ケ. 運動やスポーツをする	8615	367
コ. 大学生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)	5273	3625
サ. 友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)	8720	254
シ. おつかいなど、お家の手伝いをする	7568	1389
ス. 地域の行事やボランティア活動などに参加する	6774	2128

問7 放課後の子どもの居場所を考えるうえで、今後、充実させてほしいことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

	はい	いいえ
ア. 安全・安心な居場所づくりの促進	8843	135
イ. 子どものやりたいことが自由にできる環境づくり	7980	940
ウ. いろいろな体験活動の充実	7960	942
エ. 親子で参加できるイベントの充実	4641	4208
オ. 異世代間交流ができる環境づくり	5897	2946
カ. 外国につながるのある方々との交流ができる機会づくり	6824	2058
キ. 地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)	7219	1635

問8 あなたが参加している（有償・無償を含めて）地域の団体や組織で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

ア. 町内会・自治会活動	4477
イ. 子ども会での活動	3068
ウ. 婦人会活動	182
エ. 学校でのボランティア	1786
オ. 放課後子ども教室の活動	196
カ. 放課後児童クラブ(学童)の活動	429
キ. PTA活動	3370
ク. スポーツ団体での活動	1738
ケ. 趣味の会などの活動	958
コ. 老人会活動	43
サ. 特に活動していない。	1765

問9 あなたが参加している（有償・無償を含めて）地域の団体や組織で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

ア. 積極的に参加したい。	306
イ. お手伝い程度なら参加してもよい。	4360
ウ. 参加したいが仕事などがありできない。	3546
エ. 参加するつもりはない。	675
回答保護者数	8887

○ 市町村向け調査

問1 〔運動場の使用状況〕 貴市町村立小学校において、放課後、児童が運動場（校庭）を使用できない状況にある小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があれば、その理由をお答えください。

ア. ある	3
イ. ない	30
回答市町村数	33

問2 〔体育館の使用状況〕 貴市町村立小学校において、放課後、児童の体育館使用を許可している小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があればお答えください。

ア. ある	7
イ. ない	26
回答市町村数	33

問3 〔校舎内施設の使用状況〕 貴市町村立小学校において、放課後、図書館や音楽室、特別教室等の使用を児童に許可している小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があれば、その教室の名称等をお答えください。

ア. ある	10
イ. ない	23
回答市町村数	33

問7 〔事業課題〕貴市町村で取り組まれている放課後子ども教室及び類似事業において、課題となっている事柄をお答えください（複数回答可）。

ア. 予算確保	13
イ. 人材確保	23
ウ. 人材育成	10
エ. 開設場所	8
オ. 遊び場等活動場所の確保	8
カ. 開設時間	7
キ. 全体的な児童参加数	7
ク. 高学年児童参加数	10
ケ. 学校を始めとする関係機関との連携	6
コ. 地域ボランティアの協力	3
サ. その他	3

問8 〔人材登録制度〕貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業関わる人材を確保するために、地域ボランティア登録制度やシルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度を設置している、あるいは設置する計画がありますか。

ア. すでに設置している。	7
イ. これから設置する予定である。	0
ウ. 検討中である。	3
エ. 設置する予定はない。	18
回答市町村数	28

問9 「人材登録制度」貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業関わる人材を確保するために、地域ボランティア登録制度やシルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度を設置している、あるいは設置する計画がありますか。

ア. すでに連携している。	11
イ. これから連携する予定である。	0
ウ. 連携団体を探している。	1
エ. 検討中である。	5
オ. 連携する予定はない。	11
回答市町村数	28

問10 「社会教育施設等との連携」貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業におけるメニューを実施するうえで、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等と連携している、あるいは連携する計画がありますか。

ア. すでに連携している。	4
イ. これから連携する予定である。	1
ウ. 連携団体を探している。	0
エ. 検討中である。	8
オ. 連携する予定はない。	15
回答市町村数	28

問11 〔メニュー内容〕貴市町村の放課後子ども教室及び類似事業の実施メニューとして、現在行われているものに「1」を入れ、それが問9、10で「ア」と回答しているメニューの場合は、右側の欄に、その具体的連携団体や施設の番号(①～⑧)と、講師派遣・人的支援・場所貸し等の具体的連携内容をお答えください(複数回答可)。

ア. 学習補助的メニュー(学校の勉強を補填)	7
イ. スポーツ教室的メニュー	14
ウ. 科学実験教室的メニュー	4
エ. お絵かき・工作教室的メニュー	19
オ. 英語を中心とした語学的メニュー	7
カ. おやつ作りや調理教室的メニュー	7
キ. 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー	3
ク. 昔遊びを体験するメニュー	14
ケ. ダンス教室的メニュー	3
コ. 子どもの発想で遊びを考えるメニュー	4
サ. フリータイム	4
シ. その他	17

問13 〔施設活用研修について〕貴市町村における放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促しますか。

ア. 積極的に参加を促す。	1
イ. 必要に応じて参加を促す。	22
ウ. 関係職員の判断に任せる。	3
エ. 参加させない。	2
回答市町村数	28

問14 〔企業等との連携〕 貴市町村における放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思いますか。

ア. 積極的に活用したい。	4
イ. 必要に応じて活用したい。	21
ウ. あまり活用したくない。	1
エ. 活用しない。	2
回答市町村数	28

問16 〔事業課題〕 貴市町村が運営している放課後児童クラブにおいて、課題となっている事柄をお答えください（複数回答可）。

ア. 予算確保	17
イ. 指導員等の人材確保	22
ウ. 指導員等の人材育成	11
エ. 開設場所	16
オ. 遊び場等活動場所の確保	7
カ. 開設時間	9
キ. 登録児童数過多（待機児童増）	9
ク. 学校を始めとする関係機関との連携	4
ケ. その他	7

問17 〔外部団体との連携〕貴市町村が運営する放課後児童クラブのメニューを実施するうえで、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等と連携している、あるいは実施する計画がありますか。

ア. すでに連携している。	11
イ. これから連携する予定である。	1
ウ. 連携団体を探している。	0
エ. 検討中である。	5
オ. 連携する予定はない。	14
回答市町村数	31

問18 〔社会教育施設との連携〕貴市町村が運営する放課後児童クラブのメニューを実施するうえで、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等と連携している、あるいは連携する計画がありますか。

ア. すでに連携している。	7
イ. これから連携する予定である。	0
ウ. 連携団体を探している。	0
エ. 検討中である。	4
オ. 連携する予定はない。	19
回答市町村数	30

問19 〔メニュー内容〕貴市町村の放課後児童クラブの実施メニューとして、現在行われているものに「1」を入れ、それが問17、18で「ア」と回答しているメニューの場合は、右側の欄に、その具体的連携団体や施設の番号(①～⑧)と、講師派遣・人的支援・場所貸し等の具体的連携内容をお答えください(複数回答可)。

ア. 学習補助的メニュー(学校の勉強を補填)	10
イ. スポーツ教室的メニュー	5
ウ. 科学実験教室的メニュー	2
エ. お絵かき・工作教室的メニュー	9
オ. 英語を中心とした語学的メニュー	0
カ. おやつ作りや調理教室的メニュー	7
キ. 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー	4
ク. 昔遊びを体験するメニュー	8
ケ. ダンス教室的メニュー	1
コ. 子どもの発想で遊びを考えるメニュー	6
サ. フリータイム	12
シ. その他	6

問21 〔施設活用研修について〕貴市町村が運営する放課後児童クラブの活動をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促しますか。

ア. 積極的に参加を促す。	2
イ. 必要に応じて参加を促す。	21
ウ. 関係職員の判断に任せる。	6
エ. 参加させない。	1
回答市町村数	30

問22 〔企業等との連携〕貴市町村が運営する放課後児童クラブの活動内容をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思いますか。

ア. 積極的に活用したい。	3
イ. 必要に応じて活用したい。	19
ウ. あまり活用したくない。	2
エ. 活用しない。	4
回答市町村数	28

問24 〔児童活用状況〕貴市町村が所管する社会教育施設における平日の児童の活用状況について、施設ごとにお答えください（把握している範囲で構いません）。

公民館及び類似施設(コミュニティセンター、生涯学習センターなど)	ア. よく活用している。	10
	イ. 時々活用している。	11
	ウ. あまり活用していない。	8
	エ. まったく活用していない。	0
	オ. 把握していない。	3
児童館及び類似施設(地区センター、子ども会館、子どもの家、子どもセンターなど)	ア. よく活用している。	11
	イ. 時々活用している。	6
	ウ. あまり活用していない。	3
	エ. まったく活用していない。	1
	オ. 把握していない。	7
図書館	ア. よく活用している。	8
	イ. 時々活用している。	20
	ウ. あまり活用していない。	2
	エ. まったく活用していない。	0
	オ. 把握していない。	2
博物館及び類似施設	ア. よく活用している。	2
	イ. 時々活用している。	7
	ウ. あまり活用していない。	13
	エ. まったく活用していない。	2
	オ. 把握していない。	5

問25 〔フリースペースの有無〕貴市町村が所管する社会教育施設の中で、フリースペースを設置している施設がありますか。あれば、施設名もお答えください。

ア. ある。	13
イ. 今後設置する方向で検討中。	0
ウ. ない。	19
回答市町村数	32

問26 〔平日の児童対象事業〕貴市町村が所管する社会教育施設の中で、平日放課後の時間帯に児童を対象とした事業を実施している施設がありますか。あれば、施設名と事業内容もお答えください。

ア. ある。	12
イ. 実施する予定で検討中の施設がある。	0
ウ. ない。	21
回答市町村数	33

問27 〔職員派遣の可能性〕貴市町村の社会教育施設職員（公民館主事、司書、学芸員等）が、放課後子ども教室や放課後児童クラブに出向き、メニュー実施の支援等を行っていますか。実施している場合、その職種と内容、課題をお答えください。また、現在は行っていないが内容によっては可能である場合も、その職種と内容、課題を想定される範囲でお答えください。

ア. すでに実施している。	3
イ. 可能である。	8
ウ. 実施していない(実施する予定もない)。	22
回答市町村数	33

問28 〔活動団体の紹介・連携〕 貴市町村の社会教育施設で活動しているサークル等を、放課後子ども教室や放課後児童クラブに紹介し、メニュー実施の支援等を行っていますか。実施している場合、その職種と内容、課題をお答えください。また、現在は行っていないが内容によっては可能である場合も、その職種と内容、課題を想定される範囲でお答えください。

ア. すでに実施している。	7
イ. 可能である。	9
ウ. 実施していない(実施する予定もない)。	16
回答市町村数	32

問29 〔企業の施設開放〕 貴市町村には、平日放課後の時間帯に、児童を含め一般に開放している企業の施設等がありますか。把握している範囲で構いませんので、あれば具体的な企業名と、グラウンドや体育館など施設の名称をお答えください。

ア. ある。	0
イ. ない。	30
回答市町村数	30

放課後の子どもの居場所づくりのためのアンケート

【小学1～3年生用】
これからみなさんに、がっこうがおわつてからのすごしかたなどについて、しつもんをします。じぶんにあてはまるとおもふきごうやことばに○をつけたり、しかくの中にこたえをかいたりしてください。

第11期 神奈川県生涯学習推進委

問1 あなたは、なんねんせいですか、しかくの中に、がくねんのずうじを入れてください。

ねんせい



問2 あなたの性別はどちらですか、あてはまるきごうに○をつけてください

ア. 男 イ. 女

問3 あなたの小学校はどこにありますか。しかくの中に、市や町や村のなまえをかいてください。

市・町・村

問4 あなたは、学校がおわつてからごご5じまでのあいだ（ほうかご）、どんなばしょですごすことがおおいですか。あてはまるきごうに、○つまで○をつけてください。

- ア. じぶんの家 イ. ともだちの家
ウ. じゅくや、ならいごと エ. 学校のこうていや、たいいくかん
オ. ほうかごこともきょうしつ、かつどうばしょ
カ. がくどう(ほうかごじどうクラブ)の、かつどうばしょ
キ. こうえん、あきち、ひろばなど ク. こうみんかんや、じどうかんなど
ケ. としょかんや、はくぶつかんなど コ. スーパーや、コンビニエンスストア



そのほかのばしょですごしている人は、したのしかくの中にかいてください。

質問紙

(低学年児童向け)

問5 あなたは、学校がおわつてからごご5じまでのあいだ（ほうかご）、なんにんくらいですごすことがおおいですか。あてはまるきごうに○をつけてください。

- ア. ひとり イ. 2～3にん ウ. 4～6にん
エ. 7～9にん オ. 10にんいじょう

問6 あなたは、学校がおわつてからごご5じまでのあいだ（ほうかご）、どんなひととすごすことがおおいですか。あてはまるきごうに、○つまで○をつけてください。

- ア. ひとりですごす。 イ. うちのひと
ウ. おなじがくねんのもたち エ. 小学校のほかのがくねんのひと
オ. ちゅうがくせい、こうこうせい、だいがくせい
カ. がくどうのしどういんや、こうみんかんのひとなど
キ. ちいき(きんじよ)のひと



そのほか、うえにかいていないひとがいれば、したのしかくの中にかいてください。

問7 学校がおわつてからごご5じまでのあいだ（ほうかご）、あなたがよくすることは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてく

- ア. べんきょうをする。 はい いいえ
イ. ほんやマンガをよむ。 はい いいえ
ウ. テレビやDVD(ビデオ)をみる。 はい いいえ
エ. おんがくをきいたり、がっきをえんそうしたりする。 はい いいえ
オ. ゲームや、カードゲームであそぶ。 はい いいえ

- カ. インターネットやメールをみる。 はい いいえ
- キ. おしゃべりする。 はい いいえ
- ク. おえかき、あやとり、おりがみなどを
する。 はい いいえ
- ケ. ボールあそびや、スポーツをする。 はい いいえ
- コ. おにごっこやかくれんぼなどをする。 はい いいえ
- サ. すべりだいやブランコなどの
ゆうぐであそぶ。 はい いいえ
- シ. じぶん(たち)でかんがえたあそび
をする。 はい いいえ

そのほか、よくすることで、うえにかいていないことがあれば、したのしかくの中にかいてください。

問8 あなたは、学校がおわってからごらじまでのあいだ(ほうかご)のじかんをたのしくすごしていますか。あてはまるきごうに口をつけてください。

ア. とてもたのしい。 イ. まあまあたのしい。 ウ. あまりたのしくない。

問9 あなたは、学校がおわってからごらじまでのあいだ(ほうかご)のじかかんを、どのようにかんじていますか。あてはまるきごうまべてに口をつけてください。

ア. やりたいことができている。 イ. あそぶじかんがすくない。
ウ. あそぶばしょがすくない。 エ. あそぶともだちがすくない。
オ. あそぶどうぐがすくない。 カ. やりたいことがみつからない。



問10 学校がおわってからごらじまでのあいだ(ほうかご)、あなたがおわってみたいとおもうことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に口をつけてください。

- ア. べんきょうをする。 はい いいえ
- イ. ほんやマンガをよむ。 はい いいえ
- ウ. おやつやよりをつくる。 はい いいえ
- エ. むかしあそび(たけうまやこまなど)をする。 はい いいえ
- オ. えやイラストをかく。 はい いいえ
- カ. かんたんなじっけんや、こうさくをする。 はい いいえ
- キ. むしをとったり、ほなをかんさつしたりする。 はい いいえ
- ク. おんがくをきいたり、がっきをえんそうしたりする。 はい いいえ
- ケ. うんどうやスポーツをする。 はい いいえ
- コ. だいがくせいや、おとなのひとと、いっしょにあそぶ。 はい いいえ
- サ. ともだちといっしょにあそぶ。 はい いいえ
- シ. うちのてをつづいてやる。 はい いいえ
- ス. ちいさなぎょうじや、せいそうかつどうなどにさんかする。 はい いいえ

そのほか、やってみたいことがあれば、したのしかくの中にかいてください。

問11 あなたは、こうみんかんやしみんかん、ちくセンターやコミュニケーションセンターなどにいきますか。あてはまるきごうに口をつけてください。

ア. まいしゅう、いく。 イ. まいつき、いく。
ウ. イベントや、ぎょうじのときに、いく。 エ. いっただことがある。
オ. いっただことがない。 カ. ちかくにあるのかわからない。



問12 あなたは、じどうかんなど、こどもむけのしせつにいけますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. まいしゆう、いく。 イ. まいつき、いく。
ウ. イベントや、ぎょうじのときに、いく。 エ. いったことがある。
オ. いったことがない。 カ. ちかくにあるのかわからない。

問13 あなたは、としよかんにいけますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. まいしゆう、いく。 イ. まいつき、いく。
ウ. イベントや、てんじのときに、いく。 エ. いったことがある。
オ. いったことがない。 カ. ちかくにあるのかわからない。



問14 あなたは、はくぶつかんや、びじゅつかんなどにいけますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. まいしゆう、いく。 イ. まいつき、いく。
ウ. イベントや、てんじのときに、いく。 エ. いったことがある。
オ. いったことがない。 カ. ちかくにあるのかわからない。

問15 あなたは、ちいきのおまつりなどのぎょうじや、せいそうかつどうなどにさんかしますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. よくさんかする。 イ. ときどきさんかする。
ウ. あまりさんかしない。 エ. ちいきのぎょうじや、せいそうかつどうがあるのかわからない。

問16 あなたは、きんじょのおとなのひとと、あいまっをししたり、はなしをししたりしますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. よくする。 イ. ときどきする。 ウ. あまりしない。

問17 あなたは、おうちのひととはなしをしますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. よくする。 イ. ときどきする。 ウ. あまりしない。

問18 あなたは、やまやもり、うみやかわなど、しぜんの中であそびますか。あてはまるきごとに○をつけてください。

- ア. よくあそぶ。 イ. ときどきあそぶ。 ウ. あまりあそばない。
エ. ちかくにしぜんがない。



【質問はこれで終わりです。ありがとうございます。】



放課後の子どもの居場所づくりのためのアンケート

【小学4～6年生用】

これからみなさんに、放課後の過ごし方などについての質問をします。自分にあてはまると思う記号やことはに○をつけたり、四角の中に答えを書いたりしてください。

第11期神奈川県生涯学習審議会

問1 あなたは何年生ですか、四角の中に学年の数字を入れてください。

年生

問2 あなたの性別はどちらですか。あてはまる記号に○をつけてください。

ア. 男 イ. 女



問3 あなたの小学校はどこにありますか。四角の中に市町村の名前を書いてください。

市・町・村

問4 あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）、どんな場所で過ごすことが多いですか。あてはまる記号に3つまで○をつけてください。

- ア. 自分の家 イ. 友だちの家
- ウ. 塾や習い事 エ. 学校の校庭や体育館
- オ. 放課後子ども教室の活動場所 カ. 学童（放課後児童クラブ）の活動場所
- キ. 公園、空き地、広場など ク. 公民館や地区センター、児童館など
- ケ. 図書館、博物館、美術館など コ. スーパーやコンビニエンスストア

その他、上にない場所で過ごしている人は、下の四角の中に書いてください。

（高学年児童向け）

問5 あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）、何人くらいで過ごすことが多いですか。あてはまる記号に○をつけてください

- ア. 1人 イ. 2～3人 ウ. 4～6人
- エ. 7～9人 オ. 10人以上



問6 あなたは、学校が終わってから午後5時までの間（放課後）、どんな人と過ごすことが多いですか。あてはまる記号に2つまで○をつけてください

- ア. 1人で過ごす。 イ. 家の人
- ウ. 同じ学年の友だち エ. 小学校のほかの学年の人
- オ. 中学生、高校生、大学生 カ. 学童の指導員や公民館の人など
- キ. 地域（近所）の人

その他、上に書いていない人がいれば、下の四角の中に書いてください。

問7 学校が終わってから午後5時までの間（放課後）、あなたがよくやることは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください

- ア. 勉強をする。 はい いいえ
- イ. 本やマンガを読む。 はい いいえ
- ウ. テレビやDVDビデオを見る。 はい いいえ
- エ. 音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする。 はい いいえ
- オ. ゲーム機や、カードゲームで遊ぶ。 はい いいえ
- カ. インターネットやメールを見る。 はい いいえ
- キ. おしゃべりする。 はい いいえ
- ク. お絵かき、あやとり、おりがみなどをやる。 はい いいえ
- ケ. ボール遊びやスポーツをする。 はい いいえ

- コ. 鬼ごっこやかくれんぼなどを**する**。 はい いいえ
- サ. すべり台やブランコなどの**遊具**で遊ぶ。 はい いいえ
- シ. 自分(たち)で考えた遊びを**する**。 はい いいえ

その他、よくすることで、上に書いていないことがあれば、下の四角の中に書いてください。

問8 あなたは、学校が終わってから午後5時までの間(放課後)の時間を楽しく過ごしていますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. とても楽しい。 イ. まあまあ楽しい。 ウ. あまり楽しくない。

問9 あなたは、学校が終わってから午後5時までの間(放課後)の時間をどのように感じていますか。あてはまる記号すべてに○をつけてください

- ア. やりたいことができている。 イ. 遊ぶ時間が少ない。
- ウ. 遊ぶ場所が少ない。 エ. 遊ぶ友だちが少ない。
- オ. 遊ぶ道具が少ない。 カ. やりたいことが見つからない。

問10 学校が終わってから午後5時までの間(放課後)、あなたがやっていたと思うことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

- ア. 勉強**を**する。 はい いいえ
- イ. 本やマンガを**読む**。 はい いいえ
- ウ. おやつや料理を**作る**。 はい いいえ
- エ. 昔遊び(竹馬やこまなど)を**する**。 はい いいえ
- オ. 絵やイラストを**描く**。 はい いいえ

- カ. 簡単な実験や工作を**する**。 はい いいえ
- キ. 虫を捕ったり花を**観察**したりする。 はい いいえ
- ク. 音楽を聴いたり楽器を**演奏**したりする。 はい いいえ
- ケ. 運動やスポーツを**する**。 はい いいえ
- コ. 大学生や大人のひとと一緒に**遊ぶ**。 はい いいえ
- サ. 友だちと一緒に**遊ぶ**。 はい いいえ
- シ. 家の手伝いを**する**。 はい いいえ
- ス. 地域の行事やボランティア活動などに**参加**する。 はい いいえ

その他、やってみたいことがあれば、下の四角の中に書いてください。

問11 あなたは公民館や市民館、地区センターやコミュニティセンターなどに行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. 毎週、行く。 イ. 毎月、行く。
- ウ. イベントや行事の時に**行く**。 エ. 行ったことがある。
- オ. 行ったことが**ない**。 カ. 近くにあるのかわからない。

問12 あなたは児童館など、子ども向けの施設に行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. 毎週、行く。 イ. 毎月、行く。
- ウ. イベントや行事の時に**行く**。 エ. 行ったことがある。
- オ. 行ったことが**ない**。 カ. 近くにあるのかわからない。

問13 あなたは図書館に行きますか。あてはまる記号に○をつけてください

- ア. 毎週、行く。 イ. 毎月、行く。
- ウ. イベントや展示の時に行く。 エ. 行ったことがある。
- オ. 行ったことがない。 カ. 近くにあるのかわからない。

問14 あなたは博物館や美術館などに行きますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. 毎週、行く。 イ. 毎月、行く。
- ウ. イベントや展示の時に行く。 エ. 行ったことがある。
- オ. 行ったことがない。 カ. 近くにあるのかわからない。

問15 あなたは、地域のお祭りなどの行事や、ボランティア活動などに参加しますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. よく参加する。 イ. 時々、参加する。
- ウ. あまり参加しない。 エ. 地域の行事やボランティア活動があるのかわからない。



問16 あなたは、近所の大人のひととあいさつをしたり、話をしたりしますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. よくする。 イ. 時々する。 ウ. あまりしない。

問17 あなたは、お家のひとと話をしますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. よくする。 イ. 時々する。 ウ. あまりしない。

問18 あなたは、山や森、海や川など、自然の中で遊びますか。あてはまる記号に○をつけてください。

- ア. よく遊ぶ。 イ. 時々遊ぶ。
- ウ. あまり遊ばない。 エ. 近くに自然がない。



【質問はこれで終わります。ありがとうございました。】



放課後の子ども居場所づくりのためのアンケート

【保護者用】
(調査主体) 第11期神奈川県生涯学習審議会

神奈川県生涯学習審議会は、生涯学習施策の総合的な推進に関する重要事項について調査・検討するために設置され、現在、第11期として「体験活動や遊技施設等の子ども居場所づくり」のための「社会教育施設等地域の教育資源の活用について」をテーマに調査を行っています。本アンケートは、県内小学校に通う児童の保護者の皆さまを対象に、よりよい放課後の子ども居場所を考えたいため、お子さんの放課後の過ごし方や、それに伴う保護者の皆さまのお考えをお尋ねするものとなっています。

本アンケートは回収後、速やかに統計処理を行います。回答の内容を公表することはありません。なお、アンケートは無記名です。

また、恐れ入りますが、平成25年 月 日をお返す日とさせていただきますので、それまでにお子さんを連れて、クラスの担任の先生にお渡しくださいませますようお願いいたします。お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

あてはまる記号に○をつけるか、回答の欄に記入してください。(ここからアンケートを始めます。)

問1 あなたがお住まいの市町村をお答えください。

市町村



問2 お子さんが、放課後、どのような場所で過ごしているか、把握していますか。

- ア. よく把握している。
- イ. 大抵把握している。
- ウ. あまり把握していない。
- エ. まったく把握していない。
- 一問4へ

問3 問2でエ以外をお答えの方に向います。お子さんが放課後、主に過ごしている(と思われる)場所を次の中から3つまで選んでください。

- ア. 自宅
- イ. 友だちの家
- ウ. 塾や習い事
- エ. 学校の校庭や体育館
- オ. 放課後子ども教室の活動場所
- カ. 児童館や地区センター、児童館など
- キ. 公園、空き地、広場など
- ク. 公民館や地区センター、児童館など
- ケ. 図書館、博物館、美術館など
- コ. スーパーやコンビニエンスストア

その他、上にない場所で過ごしていると認める場合は、具体的な場所をお答えください。



問4 お子さんの放課後の過ごし方について、満足していますか。

- ア. とても満足している。
- イ. まあまあ満足している。
- ウ. あまり満足していない。

「ウ」を選んだ場合は、具体的な理由をお答えください。

問5 放課後の子どもの現状として、あなたがそう思うことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

- ア. やりたいたができない、見つけられない。 はい いいえ
- イ. 遊ぶ時間が少ない。 はい いいえ
- ウ. のんびりする時間が少ない。 はい いいえ
- エ. 体を動かして遊ぶ機会が少ない。 はい いいえ
- オ. 自然の中で遊ぶ機会が少ない。 はい いいえ
- カ. 伝統芸能や昔遊びに触れる機会が少ない。 はい いいえ
- キ. 芸術的活動に触れる機会が少ない。 はい いいえ
- ク. 自分(たち)で考えて遊ぶ機会が少ない。 はい いいえ
- ケ. 遊ぶ場所が少ない。 はい いいえ
- コ. 学童(放課後児童クラブ)が足りない。 はい いいえ
- サ. 放課後子ども教室が足りない。 はい いいえ
- シ. 一緒に遊ぶ子どもが少ない(遊ぶ時間が合わない)。 はい いいえ
- ス. 家族で触れ合う機会が少ない。 はい いいえ
- セ. 地域の大人の人と触れ合う機会が少ない。 はい いいえ

問6 放課後の時間を活用して、お子さんにさせたいことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

- ア. 勉強をする。 はい いいえ
- イ. 本を読んだり、読み聞かせを聞いたりする。 はい いいえ
- ウ. おやつや料理を作る。 はい いいえ

- エ. 昔遊び竹馬やこまなどをやる。
- オ. 絵やイラストを描く。
- カ. 簡単な乗鞍や工作をする。
- キ. 虫を捕ったり自然を観察したりする。
- ク. 音楽を聴いたり楽器を演奏したりする。
- ケ. 運動やスポーツをする。
- コ. 大學生や大人の人と一緒に遊ぶ(異世代交流)。
- サ. 友だちと一緒に遊ぶ(子ども同士の交流促進)。
- シ. おつかいなど、お家の手伝いをする。
- ス. 地域の行事やボランティア活動などに参加する。

その他、お子さんにさせてみたいことがあれば、具体的に教えてください。

- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい

- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ

問7 放課後の子どもの居場所を考えるうえで、今後、充実させてほしいことは「はい」に、そうでないことは「いいえ」に○をつけてください。

- ア. 安全・安心な居場所づくりの促進
- イ. 子どものやりたいことが自由にできる環境づくり
- ウ. いろいろな体験活動の充実
- エ. 親子で参加できるイベントの充実
- オ. 異世代間交流ができる環境づくり
- カ. 外国につながる方々との交流ができる機会づくり
- キ. 地域で子どもを見守る環境づくり(大人の参加促進)

その他を想い出す場合は、具体的な内容をお答えください。

- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい
- はい

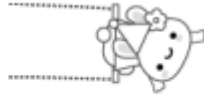
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ
- いいえ



問8 あなたが参加している(習い事・無償を含めて)地域の団体や組織で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ア. 町内会・自治会活動
- イ. 子ども会での活動
- ウ. 婦人会活動
- エ. 学校でのボランティア
- オ. 放課後子ども教室の活動
- カ. 放課後児童クラブ(学童)の活動
- キ. PTA活動
- ク. スポーツ団体での活動
- コ. 老人会活動
- サ. 特に活動していない。

その他、上にない団体や組織があれば、具体的な内容をお答えください。



問9 あなたは、今後、放課後の子どもの居場所づくりに、自ら参加したいと思いませんか。

- ア. 積極的に参加したい。
- イ. お手伝い程度なら参加してもよい。
- ウ. 参加したいが仕事などがない。
- エ. 参加するつもりはない。

問10 放課後の子どもの居場所づくりに関して、自由なご意見をお書きください。

【これでアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。】

2. 貴市町村における放課後の子ども居場所づくりに関する施策について

2-A 施策の確認と全般に関する事項

問4 【取組みの確認】貴市町村における、放課後の子どもの居場所づくりに関する取組みに関して、次の内容に誤りがあれば朱書きにて修正してください。

例 【貴市町村の取組み（平成24年4月1日現在 神奈川県 神奈川県 把握）】

座間市	小学校	11	校
放課後子ども教室設置数	なし		
放課後児童クラブ(学童)設置数	13		
類似事業	「さまざまな遊友(ゆうゆうクラブ)」事業		

各市町村ごとに、県の調査で把握している情報をあらかじめ記載して、確認してもらいたい。

問5 【問4以外の独自事業】貴市町村において、問4で確認していただいた取組み以外に、放課後の子ども居場所づくりや地域と児童との交流を目的として、独自に取り組んでいる事業等があれば、その事業内容と課題について具体的に教えてください。

ア 問4以外の独自事業を行っている。(事業内容をお答えください。)

取組み①	事業内容	
取組み②	事業内容	
イ	問4以外に独自事業は行っていない。	

問6 2-B. 貴市町村における放課後子ども教室及び類似事業について

【登録状況】問4に挙げた放課後子ども教室及び類似事業の登録状況について、次の表中に人数(総数)を記入してください(平成24年5月1日現在)。登録制度がない場合は、1日当たり延べ参加者数をお答えください。なお、障害のある児童とは特別支援学級に通っている児童です。

学年	登録児童数(人)		うち障害のある児童数(人)		全児童数(人)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1						
2						
3						
4						
5						
6						

放課後子ども教室

問7 【事業課題】貴市町村で取り組まれている放課後子ども教室及び類似事業において、課題となっている事柄をお答えください(複数回答可)。

ア 予算確保

イ 人材確保

具体的には、

<input type="checkbox"/>	① 運営に関わるコーディネーター
<input type="checkbox"/>	② 安全管理員
<input type="checkbox"/>	③ 学習アドバイザー
<input type="checkbox"/>	④ ボランティア
<input type="checkbox"/>	⑤ その他

【市町村用】 第11期神奈川県生涯学習審議会アンケート

「体験活動を重視した放課後の子ども居場所づくり」のための、社会教育施設等地域の教育資源の活用について

市町村名	
課室名	
担当者職・氏名	
電話番号	
e-mailアドレス	

● 調査票は回答票を兼ねています。塗りつぶしたセルに直接入力してください。集計作業のため、断りのないセルについて、行・列の挿入、削除、結合はしないでください(行高の変更は可)。

● 水色セルには、**具体的な数値や語句、文章**を入力してください。

● 緑色セルは、**該当する選択肢の左側のセルをクリックして「J」(半角敬禮)**を選択してください。

市町村教育委員会における状況や取組みについてお伺いします。

1. 貴市町村立小学校の平日放課後における施設の利用について

問1 【運動場の使用状況】貴市町村立小学校において、放課後、児童が運動場(校庭)を使用できない状況にある小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があれば、その理由をお答えください。

ア あり

イ ない

その理由

問2 【体育館の使用状況】貴市町村立小学校において、放課後、児童の体育館使用を許可している小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があればお答えください。

ア あり

イ ない

問3 【校舎内施設の使用状況】貴市町村立小学校において、放課後、図書館や音楽室、特別教室等の使用を児童に許可している小学校はありますか。把握している範囲で構いませんので、該当する小学校があれば、その教室の名称等をお答えください。

教室の名称等	

ア あり

イ ない

問11

〔メニュー内容〕 貴市町村の放課後子ども教室及び類似事業の実施メニューとして、現在行われているものに「1」を入れ、それが問9、10で「ア」と回答しているメニューの場合には、右側の欄に、その具体的な連携団体や施設の番号(①～⑧)と、講師派遣・人的支援・場所貸し等の具体的な連携内容をお答えください(複数回答可)。

ア 学習補助的メニュー(学校の勉強を補填)
 イ スポーツ教室的メニュー
 ウ 科学実験教室的メニュー
 エ お絵かき・工作教室的メニュー
 オ 英語を中心とした語学的メニュー
 カ おやつ作りや調理教室的メニュー
 キ 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー
 ク 昔遊びを体験するメニュー
 ケ ダンス教室的メニュー
 コ 子どもの発想で遊びを考えるメニュー
 サ フリータイム
 シ その他

〔連携団体・施設の記号〕

〔具体的な連携内容〕

問12

〔メニューにおける課題〕 問11で回答したメニューのうち、課題のあるものに「1」を入れ、右側の欄にその理由をお答えください(複数回答可)。

ア 学習補助的メニュー 理由
 イ スポーツ教室的メニュー
 ウ 科学実験教室的メニュー
 エ お絵かき・工作教室的メニュー
 オ 英語を中心とした語学的メニュー
 カ おやつ作りや調理教室的メニュー
 キ 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー
 ク 昔遊びを体験するメニュー
 ケ ダンス教室的メニュー
 コ 子どもの発想で遊びを考えるメニュー
 サ フリータイム
 シ その他

問13

〔施設活用研修について〕 貴市町村における放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促しますか。

ア 積極的に参加を促す。
 イ 必要に応じて参加を促す。
 ウ 関係職員の判断に任せる。
 エ 参加させない。

問14

〔企業等との連携〕 貴市町村における放課後子ども教室及び類似事業等をより充実させるためには、企業または企業OB等による出前授業や企業(工場)見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思いますか。

ア 積極的に活用したい。
 イ 必要に応じて活用したい。
 ウ あまり活用したくない。
 エ 活用しない。

ウ 人材育成
 具体的には、
 ① 運営に関わるコーディネーター
 ② 安全管理員
 ③ 学習アドバイザー
 ④ ボランティア
 ⑤ その他

エ 開設場所
 オ 遊び場等活動場所の確保
 カ 開設時間
 キ 全体的な児童参加数
 ク 高学年児童参加数
 ケ 学校を始めとする関係機関との連携
 具体的には、
 コ 地域ボランティアの協力
 具体的には、
 サ その他

問8

〔人材登録制度〕 貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業に関わる人材を確保するために、地域ボランティア登録制度やシルバートピア、大学生・高校生ボランティア等の登録制度を設けている、あるいは設ける計画がありますか。

ア すでに設置している。 地域ボラ シルバートピア 大・高ボラ
 イ これから設置する予定である。 地域ボラ シルバートピア 大・高ボラ
 ウ 検討中である。
 エ 設置する予定はない。

問9

〔外部団体等との連携〕 貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業におけるメニューを実施するうえで、地域ボランティアやNPO法人、シルバートピア、大学生・高校生ボランティア等と連携している、あるいは連携する計画がありますか。

ア すでに連携している。
 連携団体 ① ②
 イ これから連携する予定である。
 連携団体 ③ ④
 ウ 連携団体を探している。
 エ 検討中である。
 オ 連携する予定はない。

問10

〔社会教育施設等との連携〕 貴市町村では、放課後子ども教室及び類似事業におけるメニューを実施するうえで、社会教育施設(公民館、図書館、児童館、博物館)等と連携している、あるいは連携する計画がありますか。

ア すでに連携している。
 連携施設 ⑤ ⑥
 イ これから連携する予定である。
 連携施設 ⑦ ⑧
 ウ 連携施設を探している。
 エ 検討中である。
 オ 連携する予定はない。

2-C. 貴市町村が運営している放課後児童クラブについて

問15 〔登録状況〕貴市町村が運営する放課後児童クラブの登録状況について、次の表中に人数（総数）を記入してください（平成24年5月1日現在）。なお、障害のある児童とは特別支援学級に通っている児童です。

学年	登録児童数(人)		うち障害児童数(人)		全児童数(人)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1						
2						
3						
4						
5						
6						

問16 〔事業課題〕貴市町村が運営している放課後児童クラブにおいて、課題となっている事柄をお答えください（複数回答可）。

- ア 予算確保
- イ 指導員等の人材確保
具体的には、 ① 放課後児童指導員(学童保育指導員) ② その他
- ウ 指導員等の人材育成
具体的には、 ① 放課後児童指導員(学童保育指導員) ② その他
- エ 開設場所
- オ 遊び場等活動場所の確保
- カ 開設時間
- キ 登録児童数過多(待機児童増)
- ク 学校を始めとする関係機関との連携
具体的には、
- ケ その他

問17 〔外部団体との連携〕貴市町村が運営する放課後児童クラブのメニューを実施するうえで、地域ボランティアやNPO法人、シルバーボランティア、大学生・高校生ボランティア等と連携している、あるいは実施する計画がありますか。

- ア すでに連携している。
連携団体 ① ②
- イ これから連携する予定である。
連携団体 ③ ④
- ウ 連携団体を探している。
- エ 検討中である。
- オ 連携する予定はない。

問18 〔社会教育施設との連携〕貴市町村が運営する放課後児童クラブのメニューを実施するうえで、社会教育施設（公民館、児童館、図書館、博物館）等と連携している、あるいは連携する計画がありますか。

- ア すでに連携している。
連携施設 ⑤ ⑥
- イ これから連携する予定である。
連携施設 ⑦ ⑧
- ウ 連携施設を探している。
- エ 検討中である。
- オ 連携する予定はない。

問19 〔メニュー内容〕貴市町村の放課後児童クラブの実施メニューとして、現在行われているものに「1」を入れ、それが問17、18で「ア」と回答しているメニューの場合は、右側の欄に、その具体的な連携団体や施設の番号(①～⑧)と、講師派遣・人的支援・場所貸し等の具体的な連携内容をお答えください（複数回答可）。

- ア 学習補助的メニュー（学校の勉強を補填）
[連携団体・施設の記号] [具体的な連携内容]
- イ スポーツ教室的メニュー
- ウ 科学実験教室的メニュー
- エ お絵かき・工作教室的メニュー
- オ 英語を中心とした語学的メニュー
- カ おやつ作りや調理教室的メニュー
- キ 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー
- ク 昔遊びを体験するメニュー
- ケ ダンス教室的メニュー
- コ 子どもの発想で遊びを考えるメニュー
- サ フリータイム メニュー
- シ その他

問20 〔メニューにおける課題〕問19で回答したメニューのうち、課題のあるものに「1」を入れ、右側の欄にその理由をお答えください（複数回答可）。

- ア 学習補助的メニュー 理由
- イ スポーツ教室的メニュー
- ウ 科学実験教室的メニュー
- エ お絵かき・工作教室的メニュー
- オ 英語を中心とした語学的メニュー
- カ おやつ作りや調理教室的メニュー
- キ 自然と親しむネイチャーゲーム的メニュー
- ク 昔遊びを体験するメニュー
- ケ ダンス教室的メニュー
- コ 子どもの発想で遊びを考えるメニュー
- サ フリータイム
- シ その他

問21 【施設活用研修について】貴市町村が運営する放課後児童クラブの活動をより充実させるために、公民館や博物館等周辺施設を有効活用する方法を学ぶような研修があれば、関係職員や実施スタッフ等に参加を促しますか。

ア 積極的に参加を促す。
 イ 必要に応じて参加を促す。
 ウ 関係職員の判断に任せる。
 エ 参加させない。

問22 【企業等との連携】貴市町村が運営する放課後児童クラブの活動内容をより充実させるために、企業または企業OB等による出前授業や企業（工場）見学等が、平日休日を問わず開設日に実施できる機会があれば、活用したいと思いませんか。

ア 積極的に活用したい。
 イ 必要に応じて活用したい。
 ウ あまり活用したくない。
 エ 活用しない。

問23 【全児童対象事業との連携】貴市町村が運営する放課後児童クラブが、放課後子ども教室及び類似の独自事業と連携している場合のみ、そのメリットとデメリットについて具体的に回答してください。

メリット

デメリット

3. 貴市町村所管の社会教育施設における放課後の児童の活用状況について
 問24 【児童活用状況】貴市町村が所管する社会教育施設における平日の児童の活用状況について、施設ごとにお答えください（把握している範囲で構いません）。

公民館及び類似施設（コミュニティセンター、生涯学習センターなど）

ア よく活用している。
 イ 時々活用している。
 ウ あまり活用していない。
 エ まったく活用していない。
 オ 把握していない。

児童館及び類似施設（地区センター、子ども会館、子どもの家、子どもセンターなど）

ア よく活用している。
 イ 時々活用している。
 ウ あまり活用していない。
 エ まったく活用していない。
 オ 把握していない。

図書館

ア よく活用している。
 イ 時々活用している。
 ウ あまり活用していない。
 エ まったく活用していない。
 オ 把握していない。

博物館及び類似施設

ア よく活用している。
 イ 時々活用している。
 ウ あまり活用していない。
 エ まったく活用していない。
 オ 把握していない。

問25 【フリースペースの有無】貴市町村が所管する社会教育施設の中で、フリースペースを設置している施設がありますか。あれば、施設名もお答えください。

ア ある

施設名

イ 今後設置する方向で検討中

施設名

ウ ない

問26 【平日の児童対象事業】貴市町村が所管する社会教育施設の中で、平日放課後の時間帯に児童を対象とした事業を実施している施設がありますか。あれば、施設名と事業内容もお答え

ア ある

①施設名

事業内容

②施設名

事業内容

イ 実施する予定で検討中の施設がある。

①施設名

事業内容

②施設名

事業内容

ウ ない

問27 【職員派遣の可能性】貴市町村の社会教育施設職員（公民館 主事、司書、学芸員等）が、放課後子ども教室や放課後児童クラブに出向き、メニュー実施の支援等を行っていますか。実施している場合、その職種と内容、課題をお答えください。また、現在に行っていないが内容によっては可能である場合も、その職種と内容、課題を想定される範囲でお答えください

ア すでに実施している。

職種

内容

課題

イ 可能である。

職種

内容

課題

ウ 実施していない(実施する予定もない)。

問28 【活動団体の紹介・連携】貴市町村の社会教育施設で活動しているサークル等を、放課後子ども教室や放課後児童クラブに紹介し、メニュー実施の支援等を行っていますか。実施している場合、その職種と内容、課題をお答えください。また、現在に行っていないが内容によっては可能である場合も、その職種と内容、課題を想定される範囲でお答えください。

ア すでに実施している。

サークル

内容

課題

イ 可能である。

サークル

内容

課題

ウ 実施していない(実施する予定もない)。

4. 貴市町村における企業の施設等の開放状況について

問29 【企業の施設開放】貴市町村には、平日放課後の時間帯に、児童を含め一般に開放している企業の施設等がありますか。把握している範囲で購いませんので、あれば具体的な企業名と、グラウンドや体育館など施設の名称をお答えください。

ア ある

①企業名

施設の名称

②企業名

施設の名称

③施設名

施設の名称

イ ない(把握していない)。

【以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。】

上江洲 慎	特定非営利活動法人鎌倉てらこや副理事長
川居 龍一郎	ソニー株式会社事業部人材育成委員長
川崎 英一	厚木市放課後子ども指導員
北村 純一	株式会社オーイズミフーズ取締役総合企画室長兼執行役員管理本部長
猿渡 智衛	横浜市立永谷小学校教諭 (アンケート調査の集計・分析及び編集担当)
富田 眞樹子	厚木市児童館運営連絡協議会会長
◎梨本 加菜	鎌倉女子大学准教授
夏井 美幸	神奈川県公民館連絡協議会副会長

◎は部会長

**神奈川県における放課後の子どもの居場所づくりに向けた実態調査研究
調査報告書
平成 25 年 2 月調査**

発行日 平成 26 年 6 月

編集・発行 第 11 期神奈川県生涯学習審議会専門部会
